令和4年度 川崎市健康及び食育意識実態調査 報告書

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査期間	3
4. 調査方法 ······	3
5. 回収状況 ·····	3
6. 回答者の属性	4
7. 標本誤差について	5
8. 調査結果を見る上での注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第2章 調査結果の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1. 健康状態・生活習慣・セルフケア	9
	9
(2) 健康のために実践していること	12
	14
	16
(5) 健康管理に活用しているもの	18
	19
	20
(8) 体重測定の頻度	23
	25
	31
	32
	37
	40
	42
2. 食育・栄養・食生活	44
(1)朝食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥	44
	46
(3) 昼食・夕食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか	48
(4)主食、主菜、副菜をそろえて食べるために必要なこと ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
(5) 就寝前の食事や間食	54
(6)自分の適切な食事内容・量の認知度	57
(7) 1日あたりの野菜摂取量	59
	62
	64
	65
	66
	73
(13) 料理や味、食べ方・作法の継承 ····································	74

		食品ロスを減らすために取り組んでいること ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		食品ロスの原因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(16)	農林漁業体験の参加の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	77
		食育について関心がある項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(18)	食育に関する活動や行動の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	80
	(19)	家族や友人・知人などとの食事の頻度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	82
	(20)	非常食の備蓄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89
	(21)	飲料水以外の食料の備蓄量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	91
	(22)	飲料水の備蓄量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	92
3.		:ロの健康 ······	
		歯の本数	
		噛んで食べる時の状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(3)	食べ方や食事中の様子 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
	(4)	歯ぐきの状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	02
4.		: : :こ・アルコール ···································	
		喫煙の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
		たばこを吸うようになった年齢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
		1日の喫煙量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
		たばこをやめたいと思うか	
		たばこをやめられない理由1	
		配慮義務の認知	
		受動喫煙の機会が多いと感じた場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
	(8)	COPDという病気の認知度 ············1	15
	(9)	飲酒の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1	17
	(10)	飲酒量	19
5.	休養	き・こころの健康 ······ 1	21
		1日の平均睡眠時間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
		よく眠ることができているか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
		ストレスを感じるか	
		ストレスの主な原因	
		ストレスの対処法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	
	(6)	相談相手の有無 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	31
	(7)	相談機関の認知度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	33
6.		:がり1	
		活動状況 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	(2)	地域での協力状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1	37
7.		! コロナウイルス感染症による生活の変化 ······1	
	(1)	新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化	39

8. ī	市への要望 ・・・			 	 	 	149
(1)川崎市に力	をいれてほ	しい取組	 	 	 	149
9. 7	あなたご自身に [.]	ついて ・・・		 	 	 	151
(1)性別 ·····			 	 	 	151
(2)年齢 · · · · ·			 	 	 	151
(3) 主な職業・			 	 	 	151
	4)加入している						
	5)現在お住ま						
(6) 同居家族に	ついて …		 	 	 	152
10.	自由記述 ·····			 	 	 	153
第3章	∶調査票⋯⋯			 	 	 	157

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

川崎市健康増進計画「かわさき健康づくり21」及び「川崎市食育推進計画」に基づいて、市民の健康状態や生活状況等を多面的に調査することにより、地域における健康課題や食に関する課題を明らかにし、計画の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査対象

(1) 母集団 : 川崎市在住の満20歳以上の男女(外国人を含む)

(2) 発送数 : 3,500人

(3) 対象者抽出方法 : 住民基本台帳からの層化無作為抽出

3. 調査期間

調査期間:令和4年9月1日(木)~9月20日(火)

4. 調査方法

- (1)調査票を返信用封筒とともに郵送
- (2)調査票郵送後、調査期間中に礼状兼督促状を郵送
- (3) 回答者自身が調査票へ直接記入・記述し、返信用封筒で調査票を郵送 又は Web による回答

5. 回収状況

(1)発送数 : 3,500 人(2)有効回収数 : 1,412 人(3)有効回収率 : 40.3%

第1章 調査の概要

6. 回答者の属性

■性別

	件数	構成比	構成比 (無回答除)
男性	617	43.7%	44.1%
女性	769	54.5%	55.0%
答えたくない	12	0.8%	0.9%
無回答	14	1.0%	
全体(%ベース)	1, 412	100.0%	1, 398

■居住区

	件数	構成比	構成比 (無回答除)
川崎区	194	13.7%	13.9%
幸区	199	14.1%	14. 2%
中原区	215	15. 2%	15.4%
高津区	171	12.1%	12.2%
宮前区	188	13.3%	13.4%
多摩区	209	14.8%	14.9%
麻生区	224	15.9%	16.0%
無回答	12	0.8%	
全体(%ベース)	1, 412	100.0%	1, 400

■年代(性別)

	全体		男	男性 女性		答えたくない		無回答		
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
20歳代	100	7. 1%	40	6. 5%	57	7.4%	3	25.0%	0	0.0%
30歳代	169	12.0%	56	9. 1%	108	14.0%	5	41. 7%	0	0.0%
40歳代	175	12. 4%	58	9. 4%	114	14.8%	3	25.0%	0	0.0%
50歳代	224	15. 9%	100	16. 2%	124	16.1%	0	0.0%	0	0.0%
60歳代	262	18.6%	122	19. 8%	140	18. 2%	0	0.0%	0	0.0%
70歳代以上	470	33.3%	240	38. 9%	226	29.4%	0	0.0%	4	28. 6%
無回答	12	0.8%	1	0. 2%	0	0.0%	1	8.3%	10	71. 4%
全体(%ベース)	1, 412	100.0%	617	100.0%	769	100.0%	12	100.0%	14	100.0%

7. 標本誤差について

全体の中から一部を抽出して調査する標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標準誤差という。標準誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数 (n、回答者数)、回答の比率 (p) によって誤差幅が異なる。

標本誤差 =
$$\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N:母集団 (川崎市の20歳以上人口)

n : サンプル数 (有効回答数)

p:回答比率(1つの選択肢に対して得られた回答者の割合)

1.96:信頼率95%と設定した場合の定数(調査の母集団(全市民)に同じ設問をしても、統計学的

には95%の確率で同じ回答が得られるというもの)

回答比率(p) 基数(n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1, 412	±1.56%	±2.09%	±2.39%	±2.55%	±2.61%
1, 000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%
500	±2.63%	±3.51%	±4.02%	±4.29%	±4.38%
300	±3.39%	±4.53%	±5.19%	±5.54%	±5.66%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%
50	±8.32%	±11.09%	±12.70%	±13.58%	±13.86%

※この表の見方

標本誤差は標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査にあてはめて算出したのが上記の表である。

見方としては、例えば、「ある問の回答者数が 1,412 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも $\pm 2.55\%$ 以内($62.55\sim57.45\%$)である」 とみることができる。

8. 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、 単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にな らない場合がある。同様に、複数の選択肢の合計値(例:【健康】=「非常に健康」と「ほ ぼ健康」の合計)についても、個々の数値の合計と一致しない場合がある。
- (2) 複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- (3) 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- (4) 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

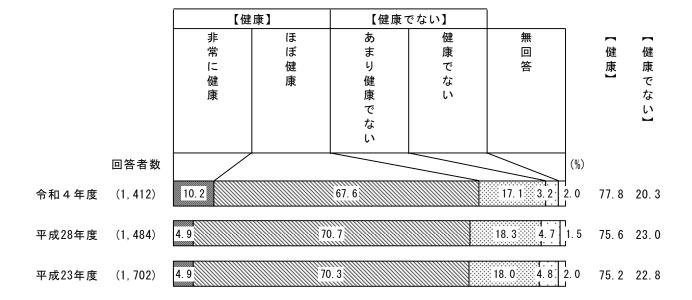
1. 健康状態・生活習慣・セルフケア

(1) 自分の健康状態

問1 自分の健康状態について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

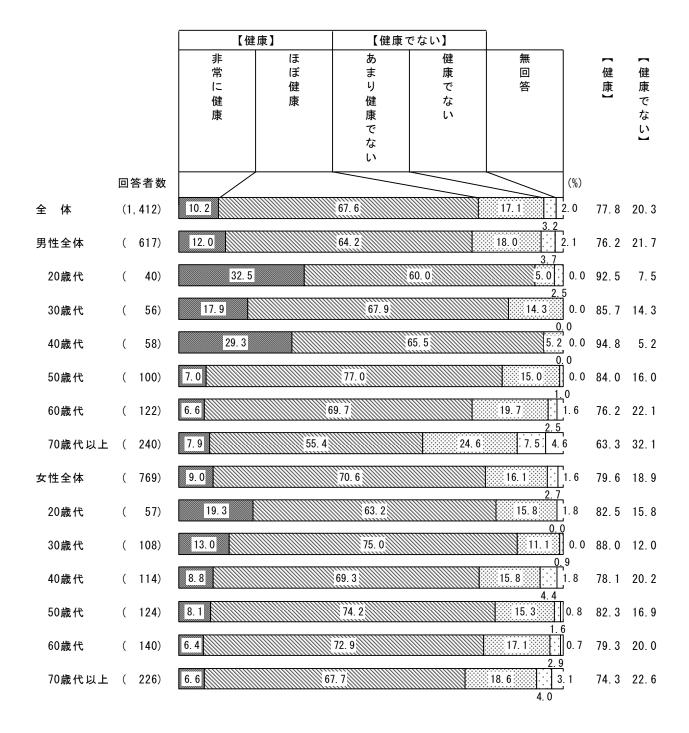
自分の健康状態については、「ほぼ健康」が 67.6%で最も高く、「非常に健康」(10.2%) と合わせた 【健康】は 77.8%となっている。一方、【健康でない】(「あまり健康でない」と「健康でない」の合計) は 20.3%となっている。

過去の調査結果と比較すると、【健康】は平成23年度以降増加傾向にある。



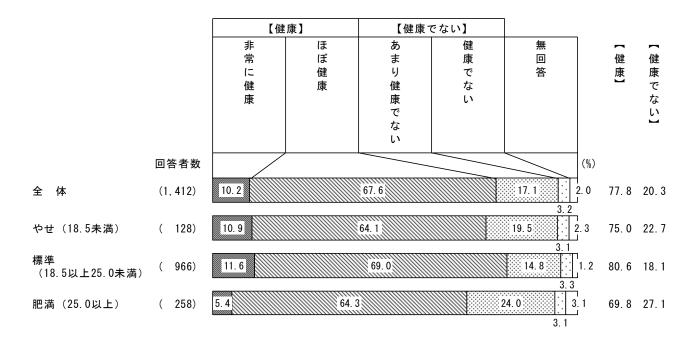
自分の健康状態/性・年代別

性・年代別では、【健康】は男性 20 歳代 (92.5%)、男性 40 歳代 (94.8%) で 9 割を超え、同年代の 女性を 1 割以上上回っている。一方、男性 70 歳代以上 (63.3%) は女性 70 歳代以上 (74.3%) を 11.0 ポイント下回り、男性全体 (76.2%) も女性全体 (79.6%) より低くなっている。



自分の健康状態/BMI別

BMI別では、【健康】は標準(80.6%)が最も高く、やせ(75.0%)は5%ほど、肥満(69.8%)は1割ほど低くなっている。

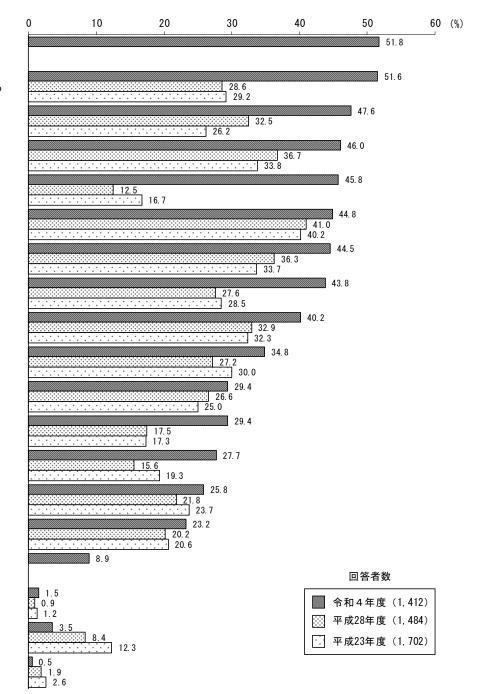


(2) 健康のために実践していること

問2 健康のために、現在意識して実践していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

健康のために、現在意識して実践していることについては、「感染予防対策をする」が 51.8%で最も高く、次いで「定期的に健康診断(検診)を受ける」(51.6%)、「丁寧に歯磨きする」(47.6%)、「睡眠を十分にとる」(46.0%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、全ての項目が平成 28 年度を上回り、「喫煙をしない」(45.8%) は 33.3 ポイント、「定期的に健康診断 (検診) を受ける」は 23.0 ポイント増加している。また、「丁寧に歯磨きする」、「睡眠を十分にとる」、「食べ過ぎない」(44.8%) などは平成 23 年度以降増加傾向にある。一方、「特に何もしていない」(3.5%) は減少傾向にある。



定期的に健康診断(検診)を受ける

丁寧に歯磨きする

睡眠を十分にとる

喫煙をしない

食べ過ぎない

栄養をバランスよくとる

規則正しい生活を送る

定期的に運動する

適正体重を維持する

ストレスをためない

定期的に血圧を計る

飲酒は適量を守る

減塩をする

よく噛んで食べる

栄養成分表示を活用する

その他

特に何もしていない

無回答

健康のために実践していること/性・年代別

性・年代別では、男性は「定期的に健康診断 (検診)を受ける」(51.1%)が最も高く、 $40\sim60$ 歳代で 1 位となっている。また、20 歳代は「感染予防対策をする」(52.5%)、30 歳代は「定期的に運動する」(50.0%)、70 歳代以上は「定期的に血圧を計る」(59.2%)が最も高くなっている。一方、女性は「感染予防対策をする」(59.7%)が最も高く、30 歳代と 60 歳代で 2 位、それ以外の年代で 1 位となっている。また、30 歳代は「喫煙をしない」(53.7%)、60 歳代は「定期的に健康診断 (検診)を受ける」(59.3%)が最も高くなっている。

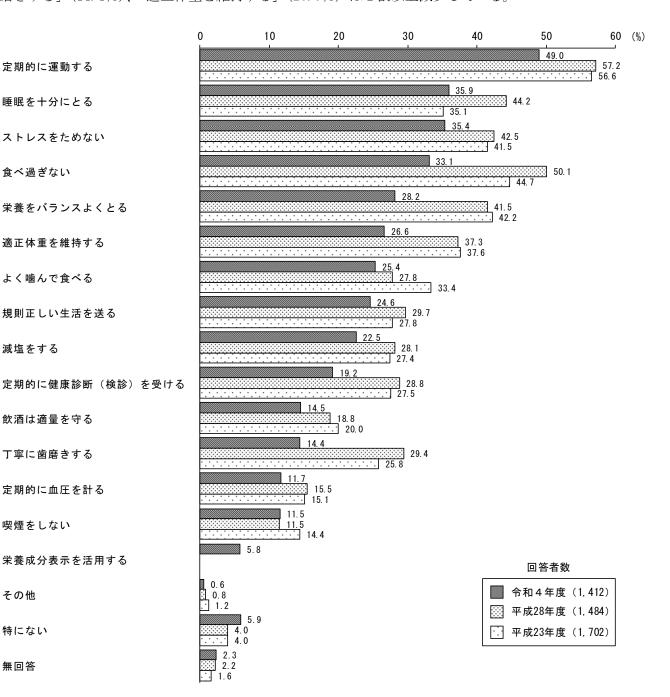
																				(%)
	回答者数	感染予防対策をする	定期的に健康診断(検診)を受ける	丁寧に歯磨きする	睡眠を十分にとる	喫煙をしない	食べ過ぎない	栄養をバランスよくとる	規則正しい生活を送る	定期的に運動する	適正体重を維持する	ストレスをためない	定期的に血圧を計る	飲酒は適量を守る	減塩をする	よく噛んで食べる	栄養成分表示を活用する	その他	特に何もしていない	無回答
全体	1, 412	51.8	51.6	47. 6	46. 0	45. 8	44. 8	44. 5	43. 8	40. 2	34. 8	29. 4	29. 4	27. 7	25. 8	23. 2	8. 9	1. 5	3. 5	0. 5
男性全体	617	42. 5	51. 1	39.7	47. 6	49. 1	45. 1	36.6	40. 2	43. 9	33. 5	28. 2	33. 2	33. 4	22. 2	21.4	6.6	2. 1	3.6	0. 5
20歳代	40	52. 5	20.0	47. 5	45. 0	42. 5	35. 0	30.0	32. 5	27. 5	20. 0	30. 0	2. 5	42. 5	7. 5	22. 5	5.0	0.0	5. 0	0. 0
30歳代	56	46. 4	32. 1	44. 6	42. 9	48. 2	39. 3	46. 4	41.1	50.0	30. 4	23. 2	1.8	33. 9	17. 9	14. 3	10. 7	1.8	3.6	0.0
40歳代	58	27. 6	58. 6	43. 1	39.7	41.4	41.4	41.4	31.0	44. 8	22. 4	24. 1	6.9	31.0	3.4	12. 1	17. 2	0. 0	3.4	0.0
50歳代	100	36.0	60.0	36.0	39. 0	44. 0	38. 0	36.0	27. 0	45. 0	34. 0	22. 0	18. 0	20. 0	19.0	15. 0	7.0	4. 0	5.0	0.0
60歳代	122	44. 3	57. 4	36.9	53. 3	43. 4	47. 5	36. 1	43. 4	40. 2	36. 1	39. 3	32. 0	32. 0	23.8	15. 6	4. 1	3. 3	4. 9	0.0
70歳代以上	240	45. 0	52. 1	39. 6	52. 1	57. 5	50.8	35. 0	47. 5	46. 3	37. 9	27. 1	59. 2	38. 8	30.8	30.8	4. 6	1. 7	2. 1	1. 3
女性全体	769	59.7	52. 1	54. 1	45. 5	43. 2	45. 0	50.8	46. 6	37. 2	36. 4	30. 4	26. 5	23. 0	28. 9	24. 2	10. 9	1.0	3.4	0. 3
20歳代	57	61.4	17. 5	50. 9	57. 9	57. 9	49. 1	19.3	35. 1	31.6	31.6	29. 8	1.8	40. 4	10. 5	26. 3	3.5	0. 0	8.8	0.0
30歳代	108	50.0	44. 4	49. 1	47. 2	53.7	31.5	50.0	37. 0	34. 3	32. 4	27. 8	7.4	22. 2	13. 9	18. 5	16. 7	0. 0	4. 6	0.0
40歳代	114	60. 5	50. 9	57.0	49. 1	48. 2	52. 6	53. 5	48. 2	29. 8	35. 1	33. 3	7. 9	24. 6	20. 2	27. 2	11.4	0. 9	2. 6	0. 0
50歳代	124	66.9	61.3	50.0	40. 3	41.9	46. 8	53. 2	46. 0	38.7	35. 5	32. 3	17. 7	25. 8	20. 2	16. 9	12. 9	1.6	1.6	0.0
60歳代	140	57. 1	59.3	55. 7	47. 1	35. 0	45. 7	53.6	52. 9	39. 3	34. 3	27. 9	37. 1	19. 3	38. 6	20. 7	12. 1	0. 7	2. 9	0. 7
70歳代以上	226	61.1	55.8	57. 1	41.6	37. 6	45. 1	54. 9	49. 6	41.6	42. 0	31.0	49. 6	19. 0	43.8	31.0	8.0	1.8	3. 1	0. 4

(3) 健康のために改善したいこと

問3 健康のために、改善したい(する必要がある)と思っていることは何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

健康のために、改善したい(する必要がある)と思っていることについては、「定期的に運動する」が49.0%で最も高く、次いで「睡眠を十分にとる」(35.9%)、「ストレスをためない」(35.4%)、「食べ過ぎない」(33.1%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、ほとんどの項目が平成28年度を下回り、「食べ過ぎない」、「丁寧に歯磨きする」(14.4%)、「適正体重を維持する」(26.6%)は1割以上減少している。



性・年代別では、女性 70 歳代以上を除き、男女とも「定期的に運動する」が最も高くなっている。「定期的に運動する」は男性 $20\sim40$ 歳代、女性 $20\sim50$ 歳代で 5 割以上を占めるが、女性は年代が上がるにつれ減少する傾向にある。女性 70 歳代以上は「睡眠を十分にとる」(40.7%) が最も高く、また男性は「食べ過ぎない」(33.7%)、女性は「ストレスをためない」(39.5%) が 2 位となっている。

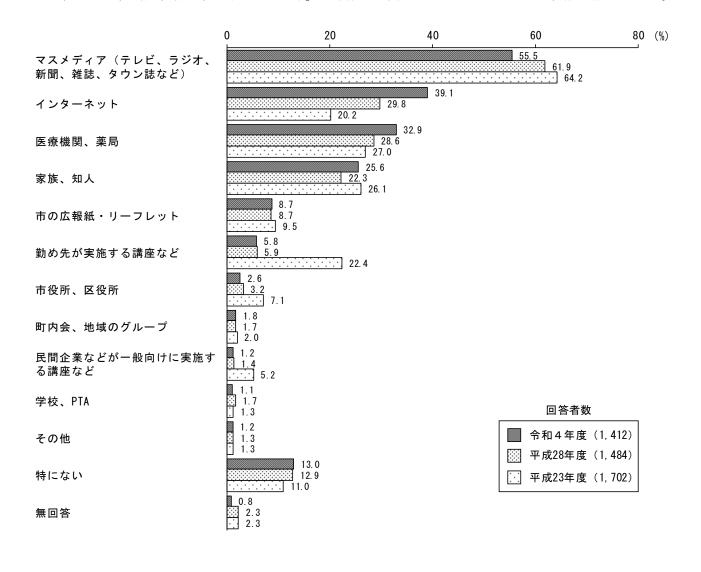
																			(%)
	回答者数	定期的に運動する	睡眠を十分にとる	ストレスをためない	食べ過ぎない	栄養をバランスよくとる	適正体重を維持する	よく噛んで食べる	規則正しい生活を送る	減塩をする	定期的に健康診断(検診)を受ける	飲酒は適量を守る	丁寧に歯磨きする	定期的に血圧を計る	喫煙をしない	栄養成分表示を活用する	その他	特にない	無回答
全体	1, 412	49.0	35. 9	35. 4	33. 1	28. 2	26. 6	25. 4	24. 6	22. 5	19. 2	14. 5	14. 4	11. 7	11.5	5. 8	0.6	5. 9	2. 3
男性全体	617	45.9	32. 1	30.0	33.7	27. 6	27. 1	20. 1	23.3	26. 4	18. 0	22. 5	14. 3	14.6	16.2	5. 0	0.5	7.8	2. 8
20歳代	40	55. 0	32. 5	22. 5	20.0	37. 5	15. 0	7. 5	22. 5	15. 0	5. 0	10.0	10. 0	2. 5	15.0	10. 0	0.0	7. 5	2. 5
30歳代	56	57. 1	32. 1	44. 6	46.4	39. 3	33. 9	25. 0	30.4	23. 2	8. 9	19.6	16. 1	7. 1	12.5	8. 9	0.0	1.8	0.0
40歳代	58	53. 4	34. 5	31.0	31.0	29. 3	39. 7	10. 3	25. 9	32. 8	8. 6	22. 4	10. 3	8. 6	8.6	3. 4	0.0	3. 4	0. 0
50歳代	100	41.0	35. 0	34. 0	35. 0	27. 0	26. 0	19. 0	14.0	28. 0	15. 0	22. 0	12. 0	9.0	14.0	5. 0	0.0	11.0	0. 0
60歳代	122	41.8	27. 0	25. 4	32. 0	23. 8	27. 0	22. 1	20.5	23. 0	15. 6	18.0	10. 7	14.8	10.7	4. 1	0.8	8. 2	0.8
70歳代以上	240	44. 2	32. 9	28. 3	34. 2	25. 0	25. 0	22. 9	26.7	28. 8	27. 1	27. 9	18. 3	22. 1	22.9	4. 2	0.8	8.3	6. 3
女性全体	769	52. 0	38. 4	39. 5	33. 0	28. 9	26. 4	29. 4	25. 6	19.4	20. 3	8.3	14. 6	9. 1	8. 1	6. 6	0.5	4. 6	1.8
20歳代	57	63. 2	26. 3	38. 6	17.5	38. 6	14. 0	26. 3	31.6	10. 5	14. 0	7.0	7. 0	5. 3	1.8	8. 8	0.0	7.0	0. 0
30歳代	108	63.9	37. 0	45. 4	40. 7	33. 3	29. 6	22. 2	32. 4	19.4	13. 9	6.5	16. 7	2. 8	2.8	8. 3	0.0	1.9	0. 0
40歳代	114	62. 3	36. 8	42. 1	29.8	37. 7	27. 2	28. 1	26. 3	14. 9	19. 3	14. 9	12. 3	2. 6	7.0	4. 4	0. 9	1.8	0. 0
50歳代	124	53. 2	43. 5	41. 1	29. 0	25. 0	27. 4	25. 8	25. 0	21.8	18. 5	12. 1	8. 1	8. 1	6.5	2. 4	0.0	2. 4	0.8
60歳代	140	49. 3	37. 1	37. 9	35. 7	25. 0	29. 3	37. 1	20.0	12. 1	20. 7	6.4	14. 3	9.3	11.4	6. 4	1.4	4. 3	0. 7
70歳代以上	226	39. 4	40. 7	35. 8	35. 4	24. 3	25. 2	31. 4	24. 3	27. 0	26. 1	5.3	20. 4	16.8	11.5	8.8	0.4	8.0	5. 3

(4) 生活習慣病予防の情報源

問4 生活習慣病予防についての知識や助言、支援をどこから得ていますか。 (あてはまるものすべてに○)

生活習慣病予防の情報源については、「マスメディア (テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、タウン誌など)」が 55.5% と最も高く、次いで「インターネット」(39.1%)、「医療機関、薬局」(32.9%)、「家族、知人」 (25.6%) の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「インターネット」、「医療機関、薬局」は平成23年度以降増加傾向にあり、平成28年度を前者は9.3ポイント、後者は4.3ポイント上回っている。一方、「マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、タウン誌など)」は平成28年度を6.4ポイント下回り、減少傾向にある。



生活習慣病予防の情報源/性・年代別

性・年代別では、男性全体、女性全体とも7位までは全体と共通で、「マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、タウン誌など)」は男性60歳代以上と女性50歳代以上、「インターネット」は男性20~50歳代と女性20~40歳代で1位となっている。また、「医療機関、薬局」は男性70歳代以上(50.8%)、「家族、知人」は男性20歳代、(37.5%)、「勤め先が実施する講座など」は男性50歳代(17.0%)で全体を1割以上上回っている。

														(%)
	回答者数	新聞、雑誌、タウン誌など)マスメディア(テレビ、ラジオ、	インター ネット	医療機関、薬局	家族、知人	市の広報紙・リーフレット	勤め先が実施する講座など	市役所、 区役所	町内会、地域のグループ	る講座などが一般向けに実施す	学校、PTA	その他	特にない	無回答
全体	1, 412	55.5	39. 1	32. 9	25. 6	8. 7	5.8	2. 6	1.8	1. 2	1.1	1. 2	13.0	0.8
男性全体	617	50.7	38. 4	37. 9	22. 5	8.8	7.1	2.6	0.5	1.1	0.6	1.1	14. 4	1.0
20歳代	40	50.0	52 . 5	20.0	37. 5	0.0	2. 5	0.0	0.0	2. 5	7. 5	0.0	25.0	2. 5
30歳代	56	32. 1	66. 1	17. 9	16. 1	0.0	14. 3	0.0	0.0	1.8	0.0	1.8	21.4	0.0
40歳代	58	43. 1	67. 2	20. 7	19. 0	5. 2	8.6	0.0	0.0	0.0	1. 7	3. 4	12. 1	0.0
50歳代	100	37. 0	44. 0	34. 0	15. 0	5. 0	17. 0	2. 0	1.0	2. 0	0.0	2. 0	18.0	0.0
60歳代	122	62.3	43. 4	39. 3	21. 3	13. 1	10. 7	4. 1	0.0	1.6	0.0	0.8	8. 2	0.0
70歳代以上	240	57. 1	17. 9	50.8	26. 3	12. 5	0.0	3.8	0.8	0.4	0.0	0. 4	12. 9	2. 1
女性全体	769	59.4	39.8	29. 1	28. 3	8. 7	4. 7	2. 7	2. 7	1. 2	1.6	1. 3	11.8	0.5
20歳代	57	29.8	54. 4	3. 5	33. 3	3. 5	5.3	3.5	0.0	0.0	10. 5	1.8	24. 6	0.0
30歳代	108	40.7	61.1	17. 6	25. 9	2. 8	7.4	1.9	0.9	0.9	1. 9	0.0	20. 4	0.0
40歳代	114	47. 4	60.5	28. 1	29.8	5. 3	13. 2	0.9	0.0	1.8	2. 6	1.8	12. 3	0.0
50歳代	124	66.1	49. 2	28. 2	21.8	6. 5	4.8	0.8	1.6	1.6	0.8	4. 0	8. 1	0.0
60歳代	140	75.0	38. 6	35.0	27. 1	9. 3	1.4	3.6	0.7	0.7	0.0	0. 7	6.4	0.0
70歳代以上	226	68.6	11. 1	38. 5	31.9	15. 5	0.9	4.4	7.5	1. 3	0.0	0. 4	9. 7	1.8

(5)健康管理に活用しているもの

問5 健康を管理するために、活用しているものはありますか。(あてはまるものすべてに〇)

健康を管理するために、活用しているものについては、全体では、「体重計」が 67.3%と最も高く、 次いで「血圧計」(39.4%)、「お薬手帳 (スマートフォン、ウェアラブルデバイス除く)」(31.7%)、「歩 数計 (スマートフォン、ウェアラブルデバイス除く)」(20.7%) の順となっている。

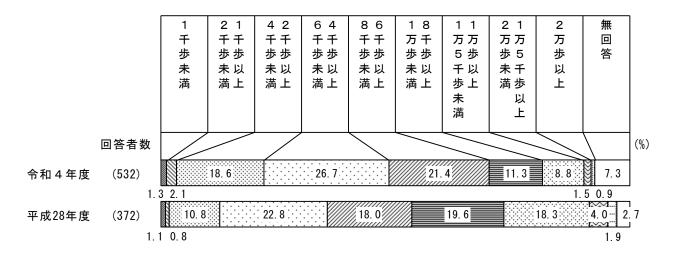
性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体と共通で、男性 70 歳代以上は「血圧計」(70.4%)、それ以外は「体重計」が1位となっている。「スマートフォン、タブレット、パソコン」は男女とも 20 歳代が全体を1割以上上回り、最も高くなっている。

	回答者数	体重計	血圧計	ウェ アラブルデバイス除く)お薬手帳(スマートフォン、	アラブルデバイス除く)歩数計(スマートフォン、ウェ	パソコン、タブレット、スマートフォン、タブレット、	ウェ アラブルデバイス	その他	活用しているものはない	無回答
全 体	1, 412	67. 3	39. 4	31.7	20. 7	18. 0	5. 7	0. 9	14. 0	1.6
男性全体	617	63. 0	43. 6	32. 4	23. 0	18. 6	6.8	0.8	14. 3	1.5
20歳代	40	37. 5	5. 0	10. 0	12. 5	30.0	7. 5	0.0	30.0	0.0
30歳代	56	57. 1	7. 1	19. 6	3. 6	26.8	12. 5	0.0	28.6	0.0
40歳代	58	62. 1	10.3	10. 3	17. 2	27. 6	13.8	0.0	19. 0	0.0
50歳代	100	60.0	32.0	27. 0	19. 0	18. 0	10.0	0.0	24. 0	2. 0
60歳代	122	64. 8	45. 9	32. 8	21. 3	25. 4	8. 2	0.8	11.5	0.8
70歳代以上	240	69.6	70.4	46. 3	33. 3	9. 6	1.7	1.7	4. 6	2. 5
女性全体	769	71.0	36.3	31.2	18. 9	17. 6	4. 7	1.0	13. 4	1.4
20歳代	57	57. 9	5. 3	19. 3	10. 5	29.8	7. 0	0.0	21. 1	1.8
30歳代	108	63. 9	8.3	19. 4	11.1	26. 9	8.3	0. 9	16. 7	0.0
40歳代	114	64. 9	16. 7	26. 3	10.5	21. 1	8.8	0. 9	23. 7	0.0
50歳代	124	71.0	26.6	25. 0	17. 7	16. 9	6.5	0.0	18. 5	0.0
60歳代	140	77. 9	52. 1	32. 9	20. 7	12. 9	2. 9	1.4	6. 4	0.7
70歳代以上	226	76. 5	62.8	44. 7	28. 3	11. 5	0.4	1.8	6. 2	4. 0

(6) 1か月の1日当たりの平均歩数

付問5-1 歩数計、スマートフォン、ウェアラブルデバイス等を利用し歩数を計測している方は ここ1か月の1日当たりの平均歩数を記入してください。

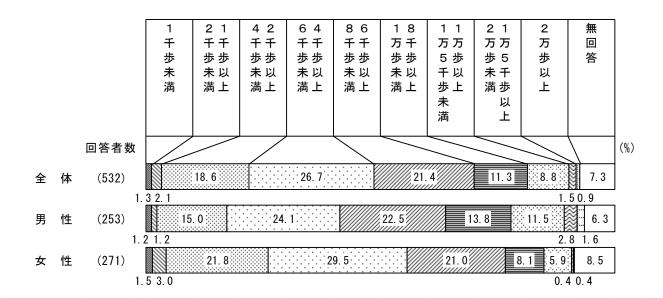
1か月の1日当たりの平均歩数については、「4千歩以上6千歩未満」が26.7%と最も高くなっている。



※平成28年度では、「昨日の歩数」と質問しているため、参考値として記載。

1か月の1日当たりの平均歩数/性別

性別では、男女とも「4千歩以上6千歩未満」が最も高く、男性は「6千歩以上8千歩未満」(22.5%)、「2千歩以上4千歩未満」(15.0%)、女性は「2千歩以上4千歩未満」(21.8%)、「6千歩以上8千歩未満」(21.0%)が続く。『2千歩~8千歩』が男性(61.6%)、女性(72.3%)とも過半数を占めている。



(7) BMI (体格指数)

問6 BMI*を調べるため、あなたの身長と体重を教えてください。

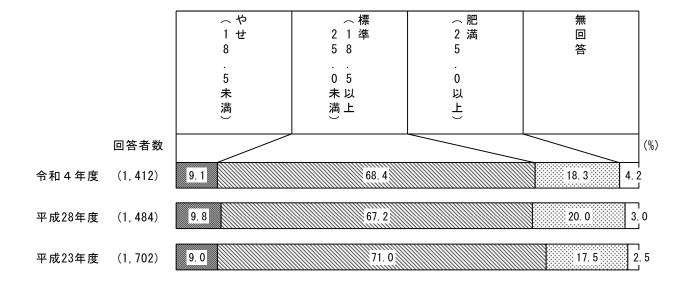
※BMI (Body Mass Index:体格指数)

肥満ややせを判定する国際的指標で、「 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)」で求められます。 日本肥満学会が定めた基準では、BMI=22が生活習慣病になりにくい最も健康的な標準値で あることから適正体重といいます。

やせ…BMI=18.5 未満 標準…BMI=18.5 以上 25.0 未満 肥満…BMI=25.0 以上

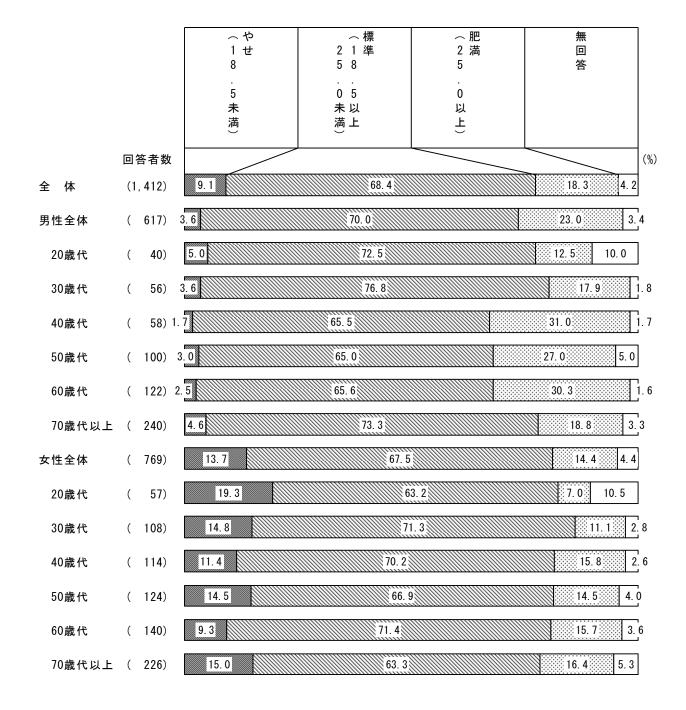
BMI (体格指数) については、「標準(18.5以上25.0未満)」が68.4%で最も高く、次いで「肥満(25.0以上)」(18.3%) 、「やせ(18.5未満)」(9.1%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



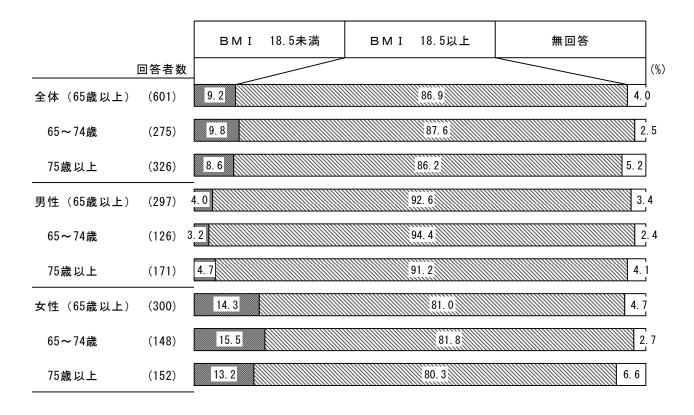
BMI (体格指数) /性・年代別

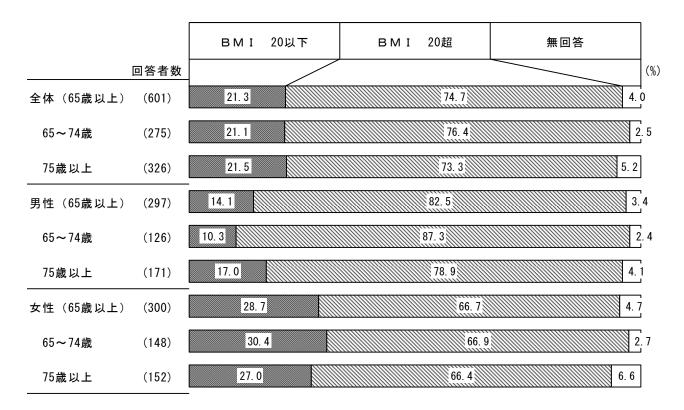
性・年代別では、「標準」は男性は 30 歳代 (76.8%)、女性は 60 歳代 (71.4%) が最も高くなっている。男性はすべての年代で「肥満」が女性を上回り、 $40\sim60$ 歳代は「肥満」が 3 割前後を占める一方、女性は「やせ」がすべての年代で男性より高い。



BMI (体格指数) /65 歳以上・性別

65 歳以上では、「18.5 未満」は女性が14.3%と、男性(4.0%)を10.3 ポイント上回る。「20 以下」は女性が28.7%と、男性(14.1%)を14.6 ポイント上回る。

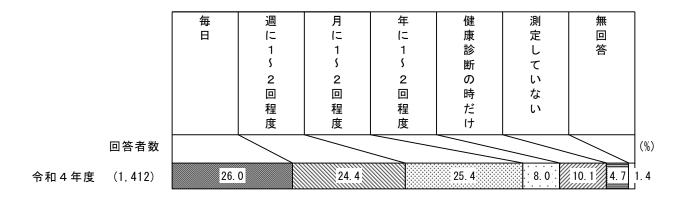


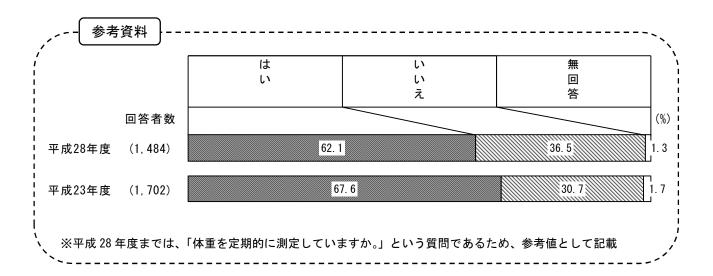


(8) 体重測定の頻度

問7 どのくらいの頻度で体重を測定していますか。(最も近いもの1つに〇)

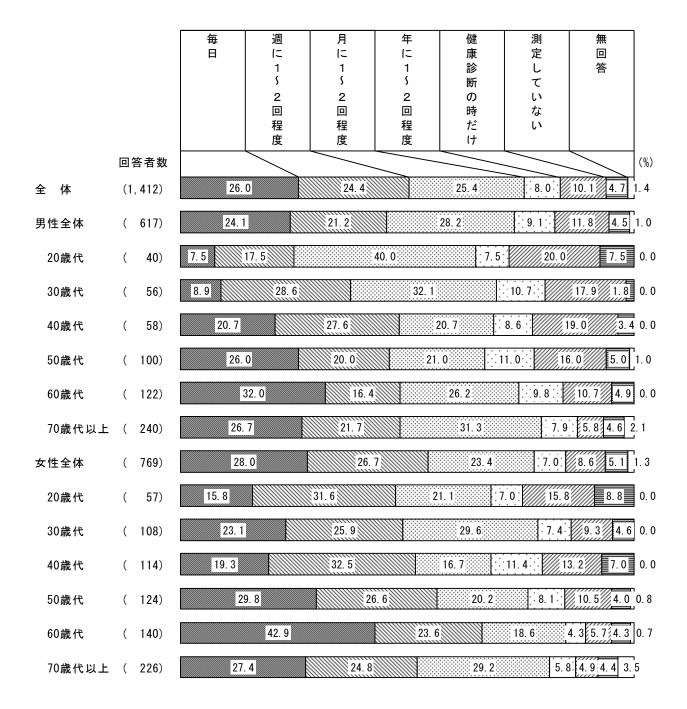
体重測定の頻度については、「毎日」が 26.0%で最も高く、次いで「月に $1 \sim 2$ 回程度」(25.4%)、「週に $1 \sim 2$ 回程度」(24.4%)、「健康診断の時だけ」(10.1%) の順となっている。





体重測定の頻度/性・年代別

性・年代別では、男性は「月に $1\sim2$ 回程度」(28.2%)、女性は「毎日」(28.0%) が最も高くなっている。女性 60 歳代は「毎日」(42.9%) が 4 割を超え、全体を 16.9 ポイント上回っている。一方、男性 20~30 歳代、女性 20 歳代 (15.8%) は「毎日」が全体を 1 割以上下回り、「健康診断の時だけ」が全体より 5 ポイント以上高くなっている。また、「測定していない」は男女とも 20 歳代が最も高くなっている。

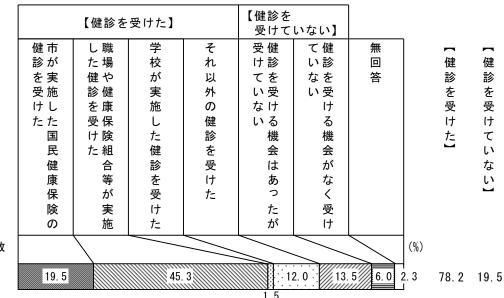


(9)健診・検診の受診状況

問8 健診・検診についてお伺いします。

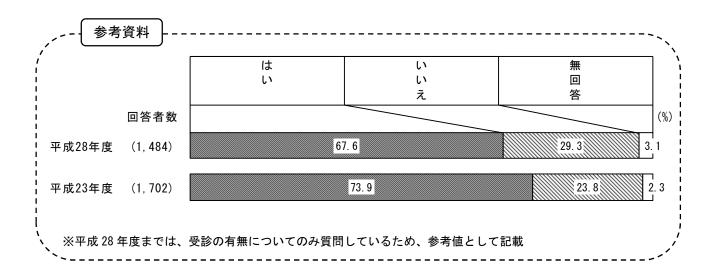
ア 過去1年間に健診(健康診断・健康診査・人間ドック)を受けましたか。(〇は1つだけ)

健診(健康診断・健康診査・人間ドック)の受診状況については、「職場や健康保険組合等が実施した健診を受けた」が 45.3%で最も高く、次いで「市が実施した国民健康保険の健診を受けた」(19.5%)、「健診を受ける機会はあったが受けていない」(13.5%)、「それ以外の健診を受けた」(12.0%)の順となっている。



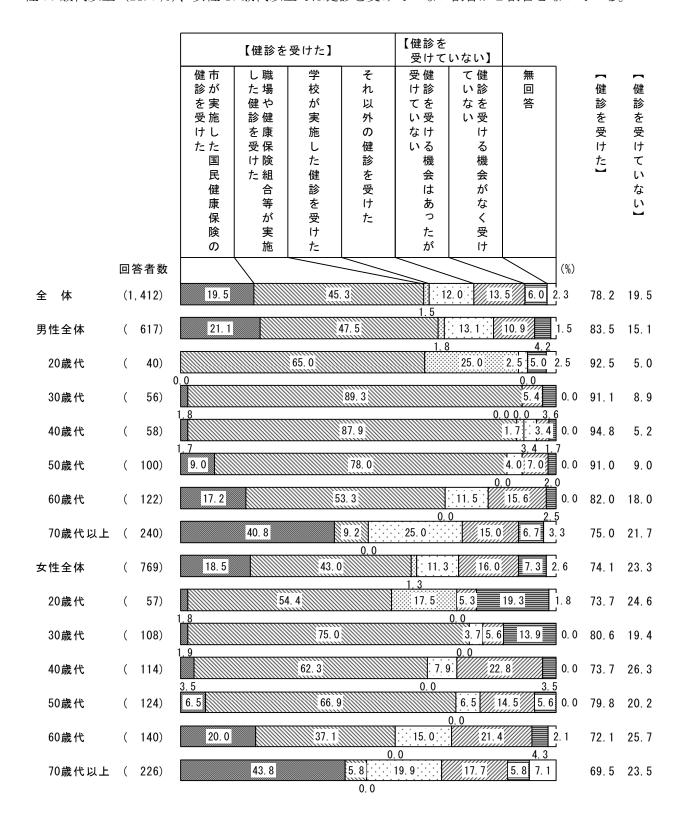
回答者数

令和 4 年度 (1,412)



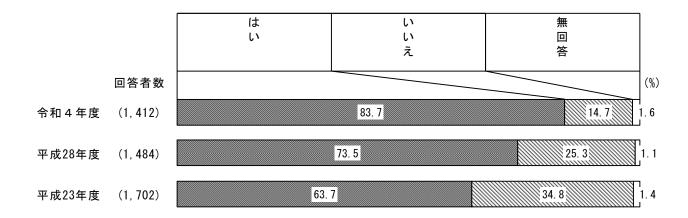
健診(健康診断・健康診査・人間ドック)の受診状況/性・年代別

性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体と共通で、男女 70 歳代以上は「市が実施した国民健康保険の健診を受けた」、それ以外は「職場や健康保険組合等が実施した健診を受けた」が1位となっている。すべての年代において、男性は7割以上、女性は6割以上が何らかの健診を受ける一方、男性 70歳代以上(21.7%)、女性40歳代以上では健診を受けていない割合が2割台となっている。



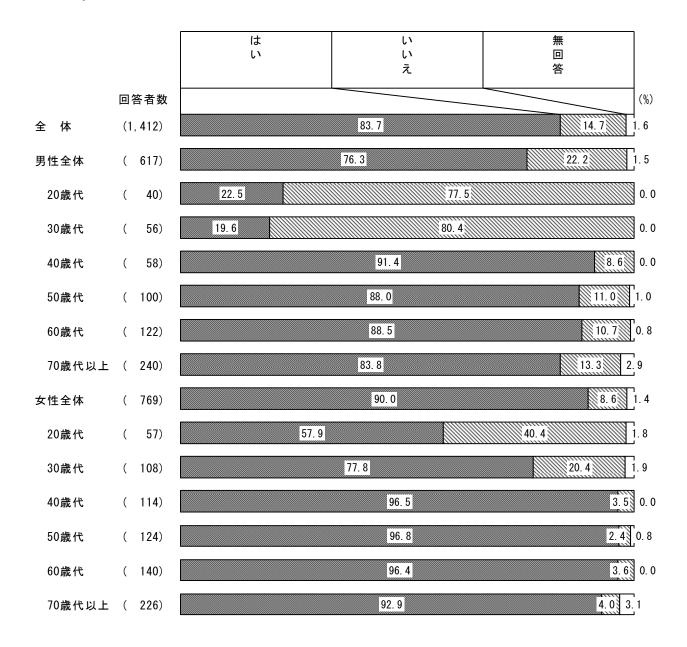
イ 川崎市にはがん検診の制度(肺がん、大腸がん、胃がん、子宮がん、乳がん)があることを知っていますか。(〇は1つだけ))

川崎市のがん検診の制度の認知度については、「はい」が83.7%、「いいえ」が14.7%となっている。 過去の調査結果と比較すると、「はい」は平成23年度以降増加傾向にあり、令和4年度は平成28年度 を10.2ポイント上回っている。



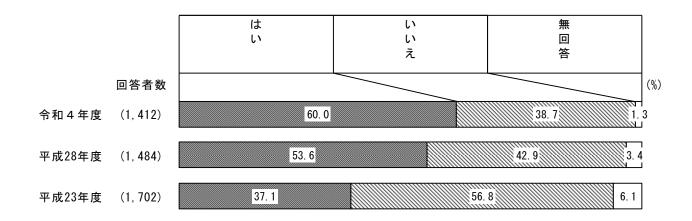
川崎市がん検診の認知度/性・年代別

性・年代別では、女性はすべての年代で「はい」が過半数を占め、40 歳代以上では 9 割を超えている。一方、男性は 40 歳代以上で「はい」が $8\sim 9$ 割を占めるが、 $20\sim 30$ 歳代は「いいえ」が 8 割前後となっている。



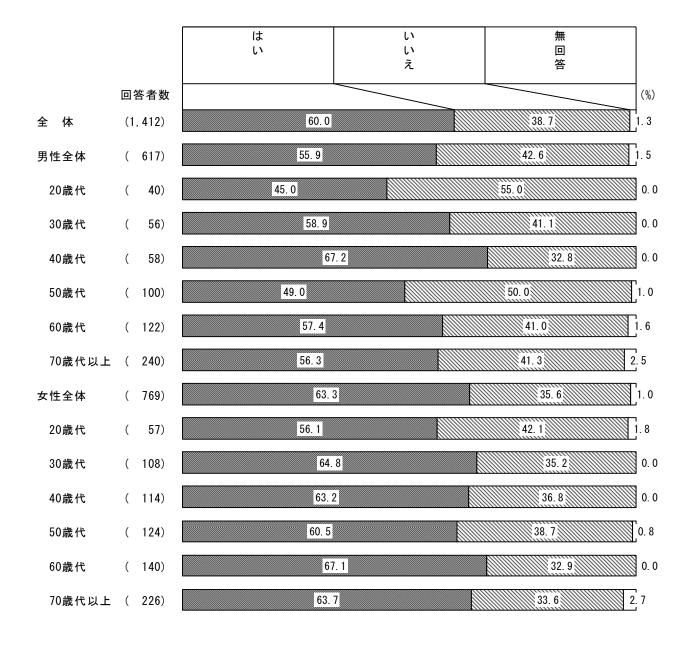
ウ 過去1年間に歯科健診を受けましたか。(〇は1つだけ)

歯科健診の受診状況については、「はい」が 60.0%、「いいえ」が 38.7%となっている。 過去の調査結果と比較すると、「はい」は平成 23 年度以降増加傾向にあり、令和 4 年度は平成 28 年度 を 6.4 ポイント上回っている。



歯科健診の受診状況/性・年代別

性・年代別では、「はい」は男性は 40 歳代 (67.2%)、女性は 60 歳代 (67.1%) が最も高く、男性 20 歳代 (45.0%)、男性 50 歳代 (49.0%) を除き、過半数を占めている。

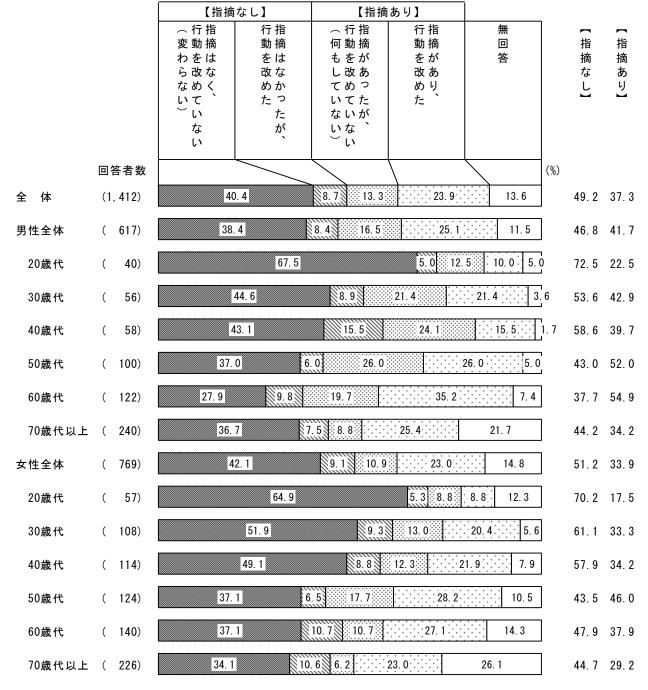


(10) 要観察・要医療などの指摘の有無

問9 問8ア~ウのいずれかの健診・検診を受診した際、要観察や要医療などの指摘を受けました か。またその結果、行動の変化はありましたか。(〇は1つだけ)

要観察・要医療などの指摘の有無については、「指摘はなく、行動を改めていない(変わらない)」が40.4%で最も高い。

性・年代別では、「指摘はなく、行動を改めていない(変わらない)」は男女とも 20 歳代で6割台となる一方、男性 30 歳代以上、女性 40 歳代以上は5割を下回り、男性 70 歳代以上(36.7%)を除き年代が上がるにつれ減少する傾向にある。【指摘なし】についても 20 歳代で男女とも7割台となる一方、50歳代以上では5割を下回っている。【指摘あり】は男性は60歳代(54.9%)、女性は50歳代(46.0%)が最も高く、男性50歳代(52.0%)も5割を超えている

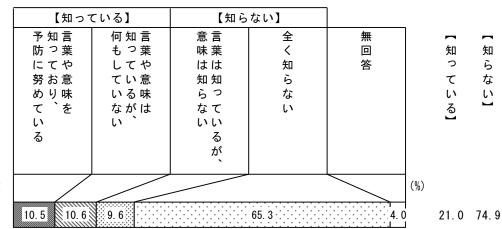


(11) 各用語の認知度

問 10 次の言葉やその意味を知っていますか。 (次のア〜エの言葉について、〇はそれぞれ1つだけ)

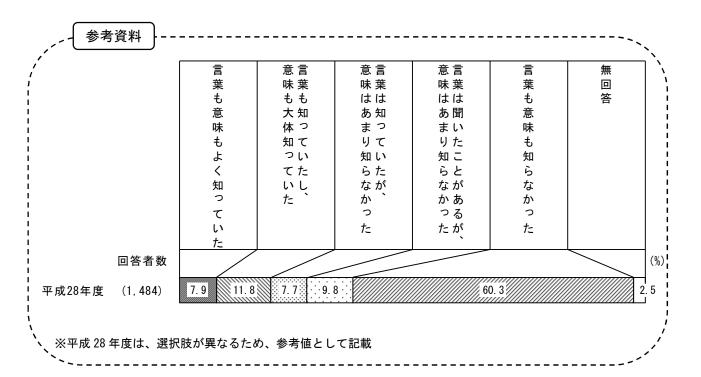
ア ロコモティブシンドローム(運動器症候群)*1

ロコモティブシンドローム (運動器症候群) については、「全く知らない」が 65.3%で最も高く、「言葉は知っているが、意味は知らない」(9.6%) を合わせた【知らない】は 74.9%となっている。一方、「言葉や意味を知っており、予防に努めている」(10.5%) と「言葉や意味は知っているが、何もしていない」(10.6%) を合わせた【知っている】は 21.0%となっている。



回答者数

令和 4 年度 (1,412)



※1 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)

体を支え動かす運動器(骨、関節、筋肉など)の衰えにより、日常生活での自立度が低下し、 要介護状態になる可能性が高い状態

ロコモティブシンドローム(運動器症候群)/性・年代別

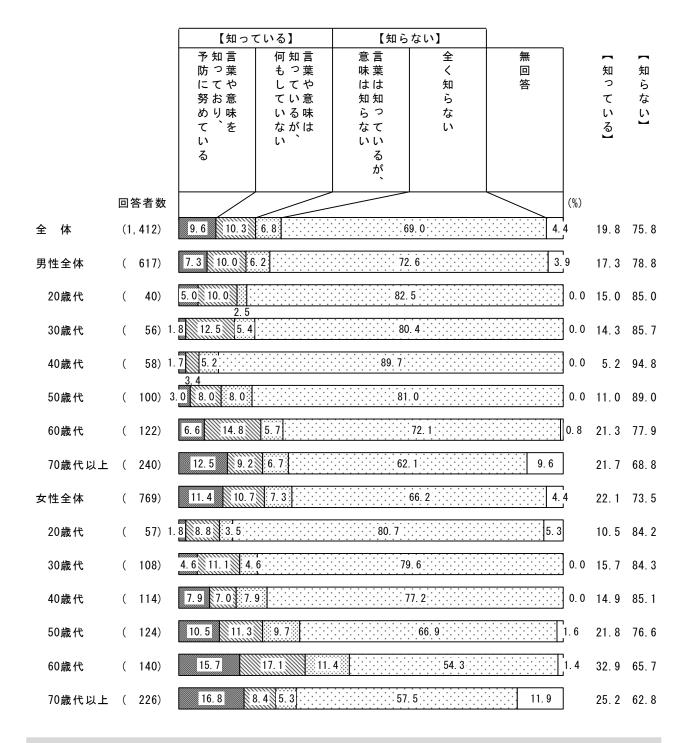
性・年代別では、男女ともすべての年代で【知らない】が過半数を占めている。【知っている】は男性は 60 歳代(21.3%)、女性は 60 歳代(34.3%)が最も高く、女性全体(25.5%)が男性全体(16.0%)を 9.5 ポイント上回っている。

				ている】		ない】			
			予知言 防つ葉	何知言 もつ葉	い が 言 [`] 葉	全 く	無回	人 知	知
			にてや	してや	意は	知	答	っ	b
			努お意 めり味	てい意 いる味	味 知 は つ	らな		てい	な い
			て`を	ながは い `	知て	い		る	
			しる	ι,	らい なる				
	回名	答者数						%)	
全体	(1	, 412)	10. 5 10. 6	9.6		65. 3	4.0	21.0	74. 9
男性全体	(617)	7. 6 8. 4 7	9	71	8	4.2	16.0	79. 7
20歳代	(40)	5. 0 15. 0	2. 5	7	7. 5:		0.0 20.0	80.0
30歳代	(56)	1.8 17.9	10. 7		69.6		0.0 19.6	80. 4
40歳代	(58)	3.4 10.3		84. {	5		0.0 5.2	94.8
50歳代	(100)	4.0 7.0 5.0		84.)		0.0 11.0	89.0
60歳代	(122)	12. 3 9. 0	10.7		67. 2	0	8 21.3	77. 9
70歳代以上	(240)	9.6 6.7 7.	5	65. 8		10.4	16.3	73. 3
女性全体	(769)	13. 0 12.	5 10.8		60.2	3 5	25. 5	71.0
20歳代	(57)	5. 3 8. 8 10	5	70	. 2	5. 3	14. 0	80. 7
30歳代	(108)	4. 6 13. 9	10. 2		71.3	(0.0 18.5	81.5
40歳代	(114)	7. 0 12. 3	10.5		70.2		0.0 19.3	80. 7
50歳代	(124)	7. 3 16. 9	13. 7		60.5].	6 24.2	74. 2
60歳代	(140)	18. 6	15. 7	4	53.6	0	.7 34.3	65.0
70歳代以上	(226)	21.7	8.4 9.3		51. 3	9.3	30. 1	60.6

第2章 調査結果の詳細

イ フレイル^{※2}

性・年代別では、男女ともすべての年代で【知らない】が過半数を占めている。【知っている】は男性は 70 歳代以上(21.7%)、女性は 60 歳代(32.9%)が最も高く、女性全体(22.1%)が男性全体(17.3%)を 4.8 ポイント上回っている。

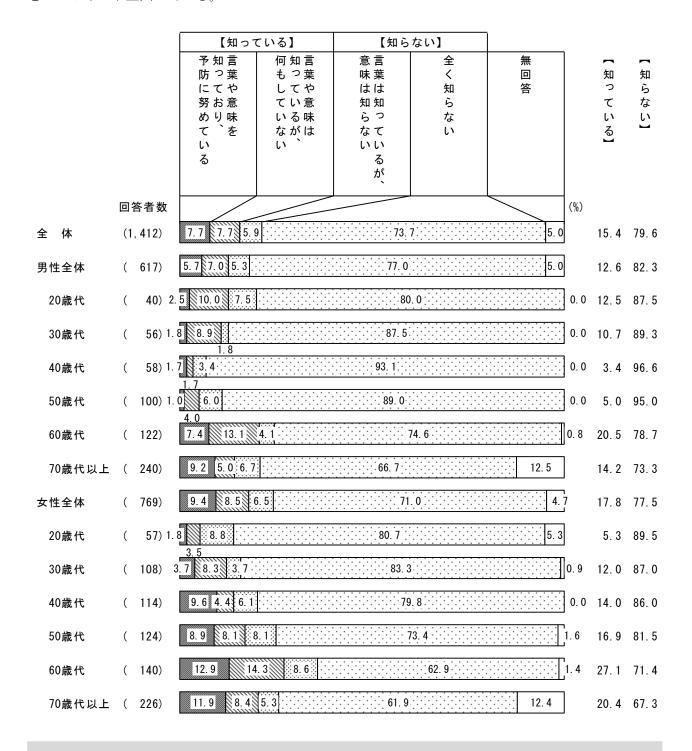


※2 フレイル

健康な状態から介護が必要な状態へ移行する中間の段階。筋力、気力の低下など、加齢に伴い 心身が衰えた状態

ウ オーラルフレイル*3

性・年代別では、男女ともすべての年代で【知らない】が過半数を占めている。【知っている】は男性は 60 歳代(20.5%)、女性は 60 歳代(27.1%)が最も高く、女性全体(17.8%)が男性全体(12.6%)を 5.2 ポイント上回っている。

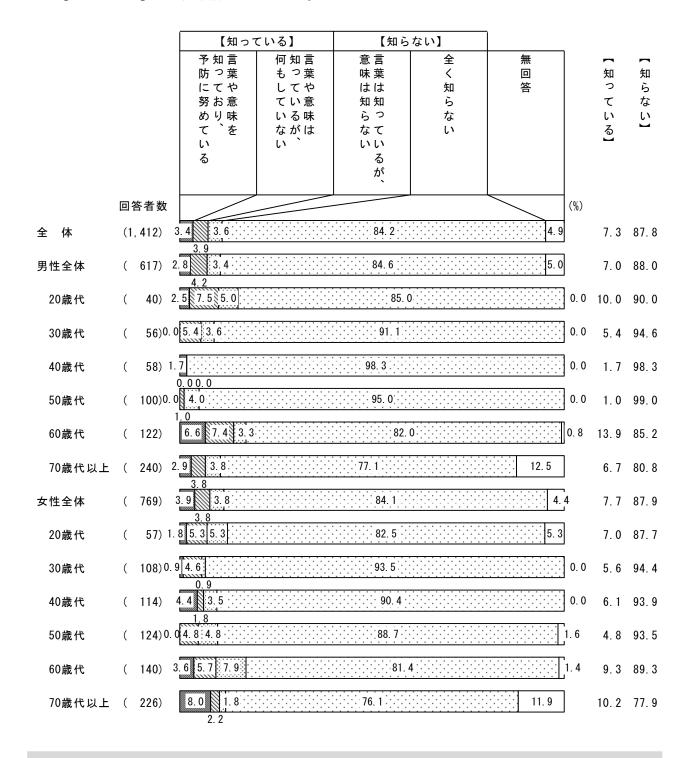


※3 オーラルフレイル

食物を噛んだり飲み込んだりする機能の低下、滑舌が悪くなるなど、口腔機能が衰えた状態

エ プラステン (+10) **4

性・年代別では、男女ともすべての年代で【知らない】が過半数を占めている。【知っている】は男性は 60 歳代 (13.9%)、女性は 70 歳代以上 (10.2%) が最も高く、男性全体 (7.0%)、女性全体 (7.7%) とも【知っている】は1割未満となっている。



※4 プラステン (+10)

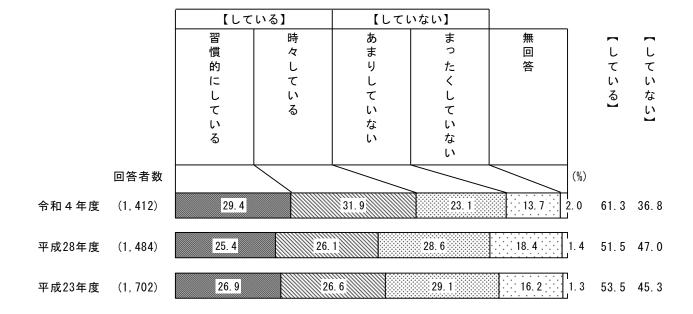
健康寿命を延ばすために、今より10分多く体を動かすこと (健康づくりのための身体活動指針より)

(12) 意識的な運動の有無

問 11 日頃から意識的に運動をしていますか。(〇は1つだけ)

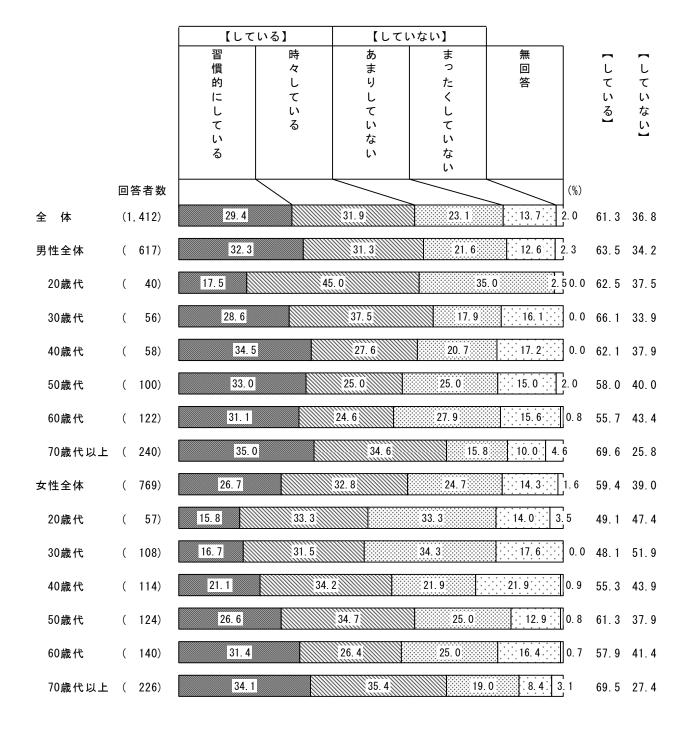
意識的な運動の有無については、「時々している」が 31.9%で最も高く、「習慣的にしている」 (29.4%) と合わせた【している】は 61.3%となっている。一方、「あまりしていない」 (23.1%) と「まったくしていない」 (13.7%) を合わせた【していない】は 36.8%となっている。

過去の調査結果と比較すると、【している】は平成28年度(51.5%)と比べ9.8ポイント増加している。



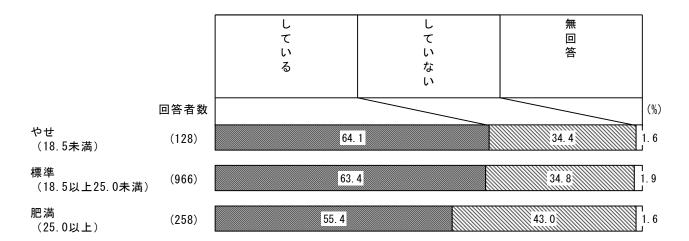
意識的な運動の有無/性・年代別

性・年代別では、【している】は男女とも 70 歳代以上が最も高く、女性 $20\sim30$ 歳代を除き過半数を占めている。一方、男性 20 歳代と女性 $20\sim30$ 歳代は「習慣的にしている」が 1 割台と低く、女性 30 歳代は【していない】(51.9%) が 5 割を超えている。



意識的な運動の有無/BMI別

BMI別では、「している」は「やせ」が64.1%で最も高く、次いで「標準」(63.4%)、「肥満」(55.4%)の順となっている。「肥満」は「やせ」「標準」に比べ、「している」が1割弱低くなっている。



(13) 運動をしている目的(理由)

付問 11-1 身体を動かしたり、運動をしている目的(理由)は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

運動をしている目的(理由)については、「健康、体力づくり」が 78.7%と最も高く、次いで「楽しみ、気晴らし、ストレス解消」(51.9%)、「美容や肥満解消」(32.5%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、多くの項目が平成28年度をやや上回るが、おおむね同様の傾向となっている。

健康、体力づくり

楽しみ、気晴らし、ストレス解消

美容や肥満解消

友人・仲間との交流

自分の記録や能力を向上させる

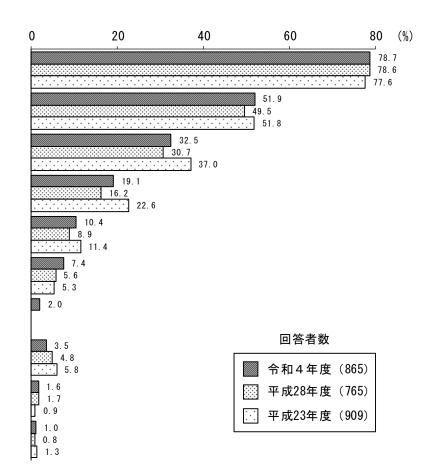
家族とのふれあい

アプリ等のポイントをためる

その他

特にない

無回答



性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体と共通で、男性 20 歳代は「楽しみ、気晴らし、ストレス解消」(72.0%)、女性 20 歳代は「美容や肥満解消」(67.9%:同率)、それ以外は「健康、体力づくり」が1位となっている。「楽しみ、気晴らし、ストレス解消」は男性 40 歳代 (72.2%) も 7 割を超えている。一方、女性は「美容や肥満解消」(42.7%)が全体を1割ほど上回り、20~40歳代は6割を超えている。また、女性は年代があがるにつれ「友人・仲間との交流」が増加する傾向にあり、70歳代以上(32.5%)は3割を超えている。

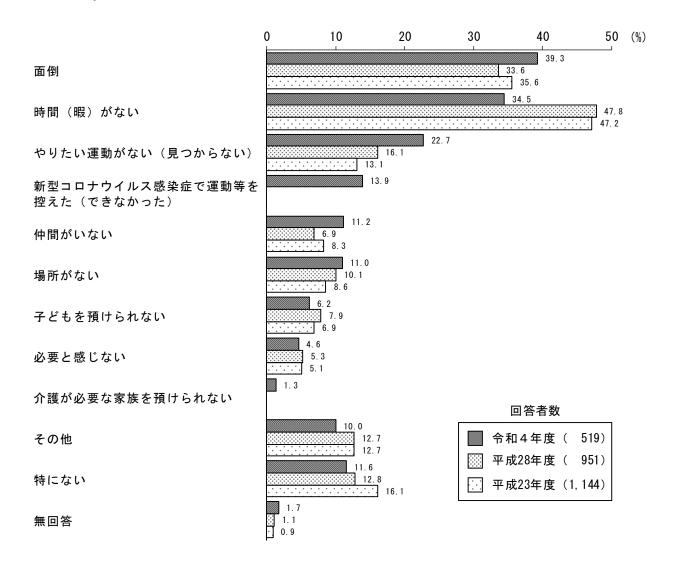
											(%)
	回答者数	健康、体力づくり	楽しみ、気晴らし、ストレス解消	美容や肥満解消	友人・仲間との交流	自分の記録や能力を向上させる	家族とのふれあい	アプリ等のポイントをためる	その他	特にない	無回答
全 体	865	78. 7	51. 9	32. 5	19. 1	10.4	7.4	2. 0	3. 5	1.6	1. 0
男性全体	392	79. 6	53. 3	20. 7	16. 1	11.7	7. 1	1.8	3. 6	2. 3	1. 0
20歳代	25	64. 0	72.0	32. 0	20. 0	8. 0	8.0	0.0	4. 0	0.0	0.0
30歳代	37	81.1	51. 4	29. 7	10.8	10.8	5. 4	0.0	2. 7	0.0	0.0
40歳代	36	75. 0	72. 2	33. 3	8.3	16. 7	11.1	8.3	2. 8	0.0	2. 8
50歳代	58	81.0	56.9	44. 8	17. 2	17. 2	6. 9	1.7	3. 4	3.4	0. 0
60歳代	68	80. 9	55. 9	22. 1	14. 7	10.3	7.4	2. 9	4. 4	0.0	0. 0
70歳代以上	167	81.4	44. 3	5. 4	18. 6	10. 2	6.6	0.6	3. 6	4. 2	1. 8
女性全体	457	78. 3	51.0	42. 7	21. 2	9. 6	7.7	2. 2	3. 5	1.1	1. 1
20歳代	28	67. 9	42. 9	67. 9	7. 1	7. 1	7. 1	3.6	7. 1	0.0	0.0
30歳代	52	78.8	46. 2	67.3	3.8	5. 8	15. 4	1.9	1. 9	0.0	0. 0
40歳代	63	73. 0	58.7	60. 3	9.5	4. 8	6.3	4.8	7. 9	0.0	0. 0
50歳代	76	77. 6	51.3	50. 0	19. 7	11.8	10. 5	2. 6	0.0	0.0	1. 3
60歳代	81	86. 4	53. 1	35.8	25. 9	6. 2	8. 6	3.7	1. 2	0.0	1. 2
70歳代以上	157	78. 3	49.7	22. 9	32. 5	14. 0	3.8	0.0	4. 5	3. 2	1. 9

(14) 運動しない(できない) 理由

付問 11-2 習慣的に身体を動かしたり、運動しない(できない)理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

運動しない(できない)理由については、「面倒」が39.3%と最も高く、次いで「時間(暇)がない」(34.5%)、「やりたい運動がない(見つからない)」(22.7%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「やりたい運動がない(見つからない)」は増加傾向にあり、平成 28 年度(16.1%)を 6.6 ポイント上回っている。また、「面倒」は 5.7 ポイント、「仲間がいない」(11.2%)は 4.3 ポイント増加している。一方、「時間(暇)がない」は平成 28 年度(47.8%)を 13.3 ポイント下回っている。



※平成28年度までは、「1回30分以上の運動を週2日程度、1年以上実施していない」と答えた人を対象に 質問をしていた。 性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体とほぼ共通で、「面倒」は男性 40 歳代以上と女性 20 歳代、「時間(暇)がない」は男性 $20\sim30$ 歳代と女性 $30\sim60$ 歳代で 1 位となっている。「面倒」、「時間(暇)がない」とも女性は年代が上がるにつれ減少する傾向にあり、 $30\sim40$ 歳代はいずれも 5 割を超える一方、後者は女性 70 歳代以上(3.2%)で 1 割未満となっている。また、「新型コロナウイルス感染症で運動等を控えた(できなかった)」は男性 50 歳代(20.0%)と女性 70 歳代以上(27.4%)、「場所がない」「子どもを預けられない」は女性 30 歳代などで 2 割台となっている。

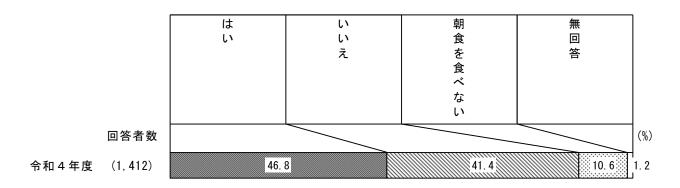
													(%)
	回答者数	面倒	時間(暇)がない	(見つからない)やりたい運動がない	運動等を控えた(できなかった)新型コロナウイルス感染症で	仲間がいない	場所がない	子どもを預けられない	いないので、	介護が必要な家族を預けられない	その他	特にない	無回答
全 体	519	39. 3	34. 5	22. 7	13. 9	11. 2	11.0	6. 2	4. 6	1.3	10. 0	11.6	1. 7
男性全体	211	40. 3	28. 0	22. 3	13. 3	10. 9	10. 4	2. 8	5.7	1.4	7. 6	14. 2	2. 8
20歳代	15	40. 0	53.3	20. 0	13. 3	6. 7	6. 7	6. 7	6. 7	6.7	0. 0	13. 3	6. 7
30歳代	19	42. 1	63. 2	15. 8	0.0	15. 8	21. 1	26.3	10.5	0.0	0. 0	0.0	5. 3
40歳代	22	54. 5	40. 9	18. 2	18. 2	13. 6	9. 1	0.0	0.0	0.0	4. 5	13. 6	0.0
50歳代	40	55. 0	32. 5	32. 5	20. 0	0.0	12. 5	0.0	5.0	0.0	2. 5	10.0	2. 5
60歳代	53	37. 7	24. 5	30. 2	13. 2	15. 1	15. 1	0.0	5.7	1.9	9. 4	9.4	0.0
70歳代以上	62	27. 4	6.5	12. 9	11. 3	12. 9	3. 2	0.0	6.5	1.6	14. 5	25. 8	4. 8
女性全体	300	39. 0	38. 7	22. 3	14. 0	11. 3	11. 3	8.3	3.0	1.3	12. 0	10.0	1.0
20歳代	27	63. 0	48. 1	7.4	3. 7	11. 1	14. 8	3.7	11. 1	0.0	0.0	11. 1	3. 7
30歳代	56	53. 6	67. 9	25.0	5. 4	14. 3	23. 2	28. 6	0.0	0.0	8. 9	1.8	0.0
40歳代	50	52. 0	54.0	28. 0	6. 0	6.0	14. 0	16.0	2. 0	0.0	14. 0	0.0	0.0
50歳代	47	31. 9	44. 7	21.3	14. 9	10.6	6. 4	0.0	0.0	4.3	8. 5	14. 9	0.0
60歳代	58	22. 4	25. 9	25. 9	19. 0	13.8	10. 3	0.0	1.7	1.7	17. 2	17. 2	0.0
70歳代以上	62	25. 8	3. 2	19. 4	27. 4	11.3	1.6	0.0	6.5	1.6	16. 1	14. 5	3. 2

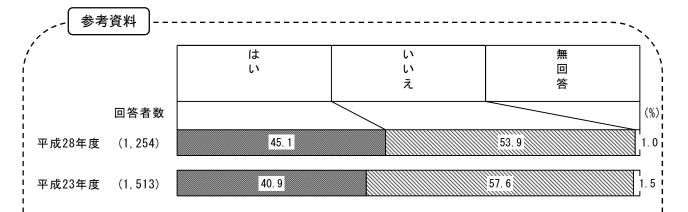
2. 食育·栄養·食生活

(1) 朝食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか

問 12 朝食に主食(ごはん・パン・めんなど)、主菜(魚・肉・卵・大豆製品の料理)、 副菜(野菜を主にした料理)をそろえて食べていますか。(〇は1つだけ)

朝食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているかについては、「はい」が 46.8%、「いいえ」が 41.4%、「朝食を食べない」が 10.6%となっている。



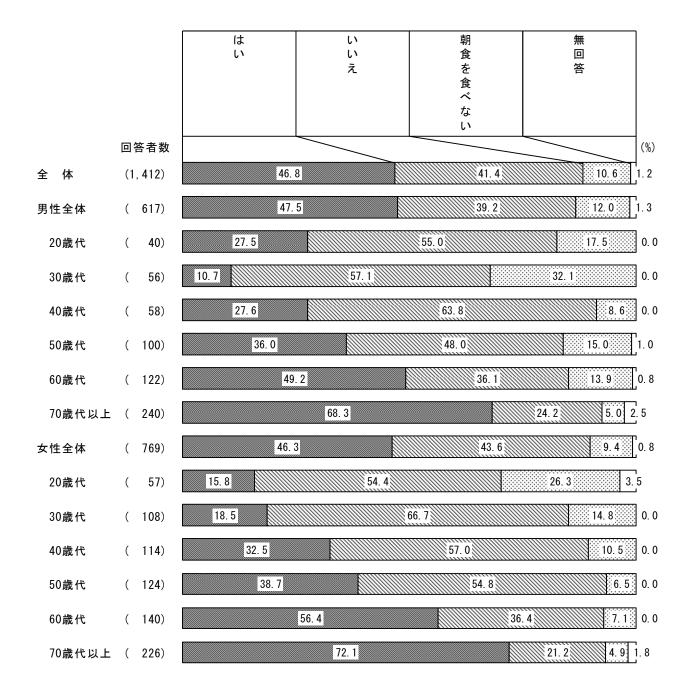


※参考値として記載

- ・平成 28 年度は、「朝食を食べるか」の回答が「食べない」「無回答」だった 230 名を除いた 1, 254 名を対象に質問した。
- ・平成 23 年度は、「朝食を食べるか」の回答が「食べない」「無回答」だった 189 名を除いた 1,513 名を 対象に質問した。

朝食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか/性・年代別

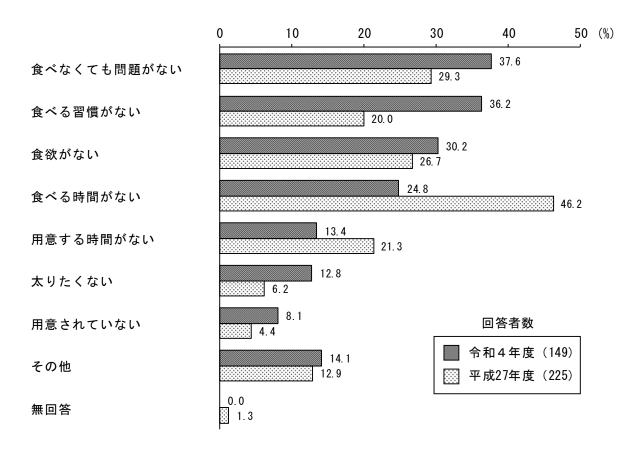
性・年代別では、男性 20 歳代 (27.5%) を除き、「はい」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、70 歳代以上では男女とも7割前後を占めている。一方、「いいえ」は男性 $20\sim40$ 歳代、女性 $20\sim50$ 歳代で5割を超え、「朝食を食べない」は男性は 30 歳代 (32.1%)、女性は 20 歳代 (26.3%) が最も高くなっている。



(2) 朝食を食べない理由

付問 12-1 朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに〇)

朝食を食べない理由については、「食べなくても問題がない」が 37.6%と最も高く、次いで「食べる 習慣がない」(36.2%)、「食欲がない」(30.2%) の順となっている。



※平成 27 年度は、朝食を「週 4 ~ 5 回食べる」「週 2 ~ 3 回食べる」「食べない」と答えた人を対象に質問をしていた。

朝食を食べない理由/性・年代別

性・年代別では、男性は「食べなくても問題ない」「食べる習慣がない」(各 33.8%)が同率 1 位、「食欲がない」(23.0%)が3位、女性は「食べなくても問題ない」(40.3%)が1位、「食べる習慣がない」「食欲がない」(各 38.9%)が同率 2 位となっており、順位は全体とおおむね同様となっている。

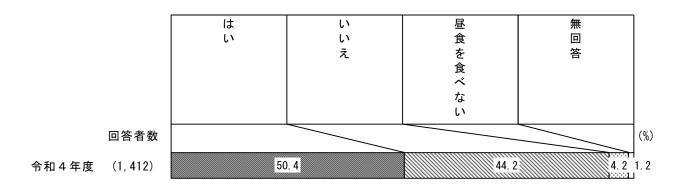
(%) 食 用 用 食 IJ 答 べ べ 欲 べ 意 の 意 回 者 な が る す た さ 他 る 答 < 習 な 時 < 数 る れ 慣 間 時 な て い て が が 間 い ŧ ll 問 が な な な 題 い い ll な が ll な い 36.2 全 体 149 37.6 30.2 24.8 13.4 12.8 8. 1 14. 1 0.0 12.2 男性全体 74 33.8 33.8 23.0 21.6 10.8 10.8 13.5 0.0 42.9 7 14.3 14. 3 20歳代 28.6 14.3 0.0 28.6 28.6 0.0 30歳代 27.8 27.8 22. 2 27.8 16. 7 0.0 18 11.1 11.1 5.6 40歳代 5 20.0 40.0 40.0 20.0 40.0 20.0 0.0 0.0 0.0 50歳代 15 60.0 46.7 13.3 13.3 6.7 6. 7 13.3 0.0 6.7 35.3 41. 2 17. 6 60歳代 17 23.5 29.4 11.8 11.8 5.9 0.0 70歳代以上 12 25.0 25.0 25.0 0.0 16. 7 33.3 0.0 0.0 0.0 女性全体 72 40.3 38.9 38.9 27.8 16.7 13.9 4. 2 15.3 0.0 20歳代 15 53.3 46.7 33.3 46.7 20.0 20.0 13.3 13.3 0.0 30歳代 16 50.0 43.8 56.3 31.3 25.0 18.8 6.3 12.5 0.0 33.3 33.3 50.0 33.3 25.0 40歳代 12 8.3 0.0 8.3 0.0 8 12.5 75.0 25.0 0.0 0.0 0.0 25.0 50歳代 0.0 0.0 40.0 20.0 30.0 30.0 10.0 20.0 60歳代 10 10.0 0.0 0.0 70歳代以上 11 36.4 18. 2 27.3 9. 1 9.1 18. 2 0.0 18. 2 0.0

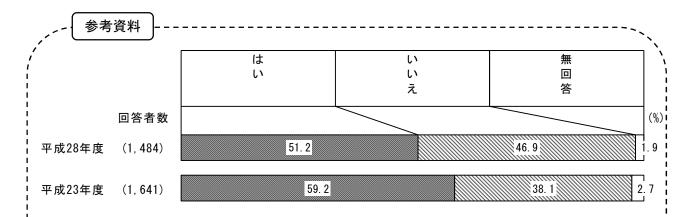
(3) 昼食・夕食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか

問13 昼食・夕食に主食、主菜、副菜をそろえて食べていますか。

ア 昼食(〇は1つだけ)

昼食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているかについては、「はい」が 50.4%、「いいえ」が 44.2%、「昼食を食べない」が 4.2%となっている。



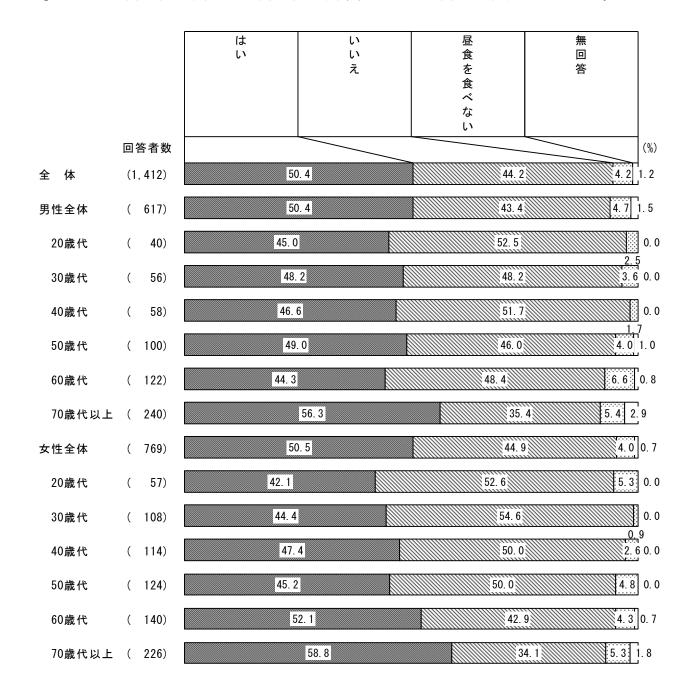


※参考値として記載

- ・平成28年度は、「昼食を食べない」選択肢がない。
- ・平成23年度は、「昼食開始時間」の回答が「食べない」「無回答」だった61名を除いた1,641名を対象に 質問した。

昼食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか/性・年代別

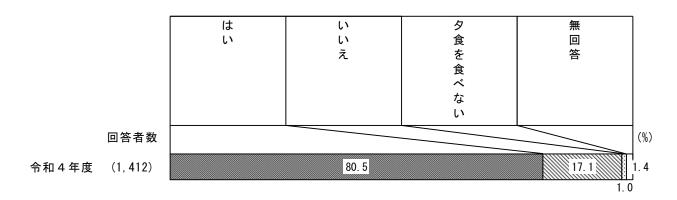
性・年代別では、「はい」は男性全体(50.4%)、女性全体(50.5%)ともほぼ5割となっている。「はい」は男女とも70歳代以上が最も高く、女性は年代が上がるにつれ増加する傾向にある。また、「いいえ」は男性20歳代(52.5%)と40歳代(51.7%)、女性20~50歳代で5割台となっている。

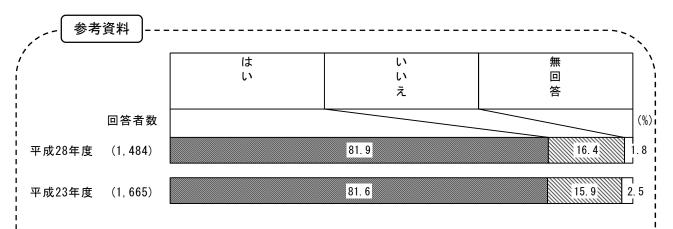


第2章 調査結果の詳細

イ 夕食(Oは1つだけ)

夕食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているかについては、「はい」が80.5%、「いいえ」が17.1%、「夕食を食べない」が1.0%となっている。



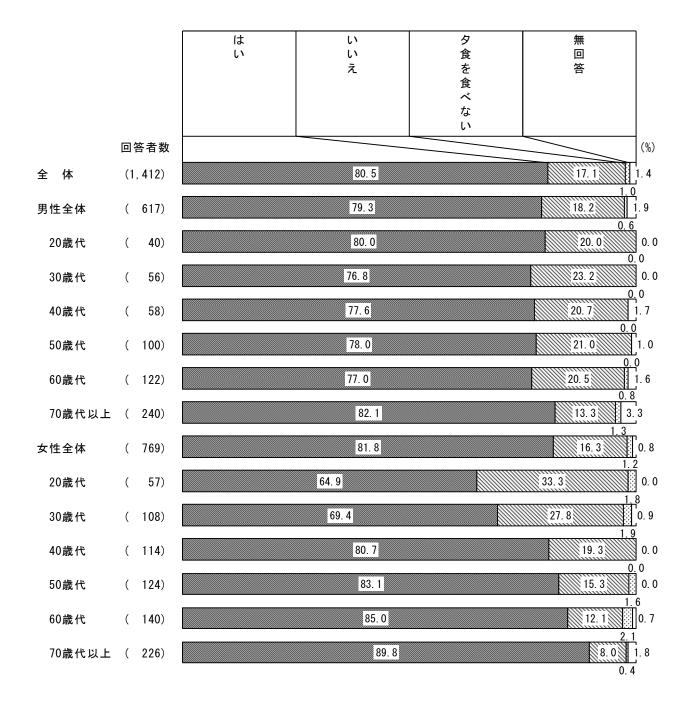


※参考値として記載

- ・平成28年度は、「夕食を食べない」選択肢がない。
- ・平成23年度は、「夕食開始時間」の回答が「食べない」「無回答」だった37名を除いた1,665名を対象に 質問した。

夕食に主食・主菜・副菜をそろえて食べているか/性・年代別

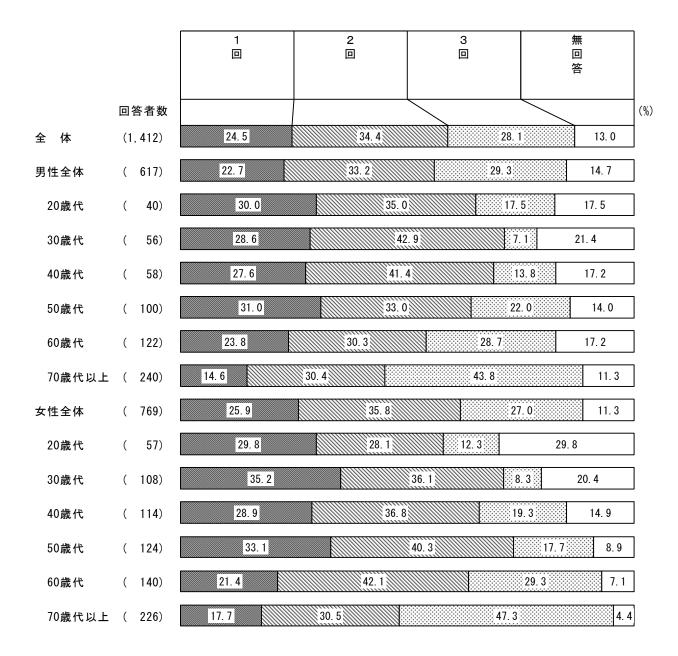
性・年代別では、「はい」は男性全体(79.3%)、女性全体(81.8%)とも8割前後となっている。「はい」は男性は30~60歳代が7割台、それ以外が8割台となる一方、女性は年代が上がるつれ増加する傾向にあり、20~30歳代は6割台、40歳代以上が8割台となっている。また、「いいえ」は男性は30歳代(23.2%)、女性は20歳代(33.3%)が最も高くなっている。



1日あたりの主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数/性・年代別

1日あたりの主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数は、「2回」が 34.4%と最も高く、次いで「3回」(28.1%)、「1回」(24.5%) の順となっている。

性・年代別では、男性全体(33.2%)、女性全体(35.8%)とも「2回」が最も高くなっている。70歳 代以上は男女とも「3回」が4割を超え最も高く、女性20歳代は「1回」が29.8%で最も高い。



※問 12: 朝食、問 13 ア: 昼食、問 13 イ: 夕食において、「はい」と回答した回数を集計

(%)

(4) 主食、主菜、副菜をそろえて食べるために必要なこと

問 14 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに())

主食、主菜、副菜をそろえて食べるために必要なことについては、全体では、「手間がかからない」が 57.1%と最も高く、次いで「時間がある」(47.0%)、「食費に余裕がある」(36.9%)、「食欲がある」(27.1%) の順となっている。

性・年代別では、男性 20 歳代は「食費に余裕がある」(70.0%)、男性 30 歳代(69.6%) と女性 20 歳代(71.9%) は「時間がある」、女性 70 歳代以上は「3 つそろえて食べるメリットを知っている」(41.6%:同率)、それ以外は「手間がかからない」が1位となっている。

時 知 3 る外 ゎ 食 食 そ っつ 答 間 間 費 欲 こ食 の か 回 が 者 が が に てそ とや 他 ら 答 数 か 余 あ いろ がコ な あ か る 裕 るえ でン い ら が きビ て な あ 食 るニ い る 環な る 境ど ኦ がで IJ あ手 ッ る軽 ۲ に を 1,412 57.1 47.0 36.9 27.1 25. 1 14.5 全 体 1.8 3.5 3.4 男性全体 617 50.6 41.8 34. 2 26.3 23.0 16.5 1.3 4. 7 4. 2 20歳代 40 57.5 65.0 70.0 17. 5 12.5 27.5 2.5 2. 5 2.5 30歳代 56 67.9 69.6 57.1 17. 9 14.3 23. 2 0.0 0.0 0.0 20.7 1.7 1.7 1.7 40歳代 58 69.0 63.8 36.2 12.1 12. 1 44.0 24.0 0.0 100 53.0 37.0 28.0 15.0 50歳代 4.0 2.0 30.3 60歳代 122 57.4 35. 2 21.3 20.5 17. 2 1.6 3.3 1.6 240 36.3 31.3 35.0 70歳代以上 20.8 30.4 12.5 1.7 7.9 8.3 769 62.3 50.8 38.9 28.0 女性全体 26.9 12.9 2.3 2.6 2.3 71.9 57.9 29.8 8.8 12.3 0.0 20歳代 57 63.2 0.0 8.8 30歳代 108 76.9 74. 1 54.6 13.0 12.0 19.4 0.0 0.0 0.9 19.3 40歳代 114 77. 2 64.0 50.9 21.1 12. 3 1.8 1.8 0.0 50歳代 124 69.4 59.7 45.2 25.0 23.4 11.3 1.6 0.8 0.0 3.6 140 65.7 40.0 30.7 32.9 30.0 60歳代 7. 1 3.6 2. 1

37.6

41.6

14.6

4.0

6.2

3.1

70歳代以上

226

41.6

29.6

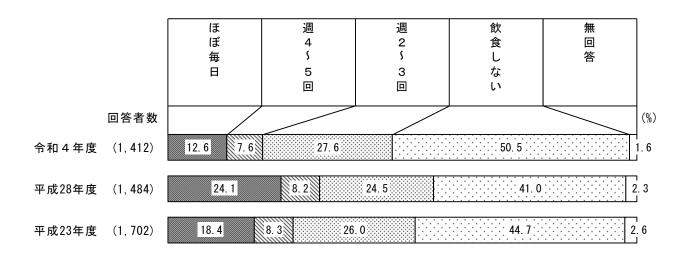
22. 1

(5) 就寝前の食事や間食

問 15 就寝前の 2 時間以内に食事や間食をとることがありますか。(〇は 1 つだけ)

就寝前の食事や間食については、「飲食しない」が 50.5% と最も高く、次いで「週 $2 \sim 3$ 回」(27.6%)、「ほぼ毎日」(12.6%)、「週 $4 \sim 5$ 回」(7.6%)の順となっている。

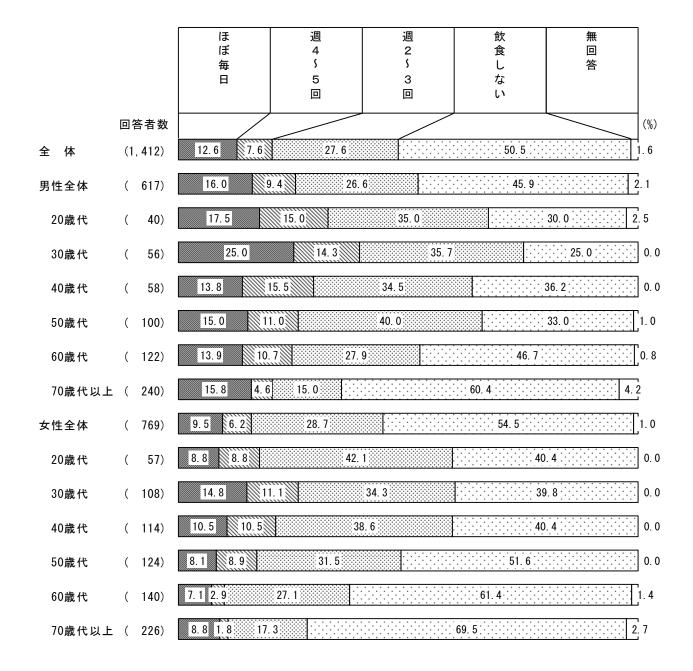
過去の調査結果と比較すると、平成28年度と比べ、「飲食しない」は9.5ポイント増加する一方、「ほぼ毎日」は11.5ポイント減少している。



※平成28年度までは、「夕食後の飲食」について質問していた。

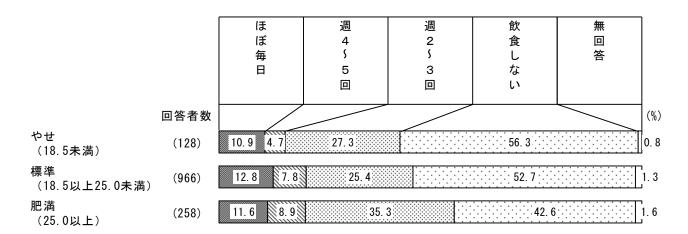
就寝前の食事や間食/性・年代別

性・年代別では、「飲食しない」は女性(54.5%)が男性(45.9%)を8.6ポイント上回っている。「飲食しない」は男性50歳代以上、女性40歳代以上では年代が上がるにつれ増加する傾向にある。一方、「ほぼ毎日」は男性は30歳代(25.0%)が最も高くなっている。



就寝前の食事や間食/BMI別

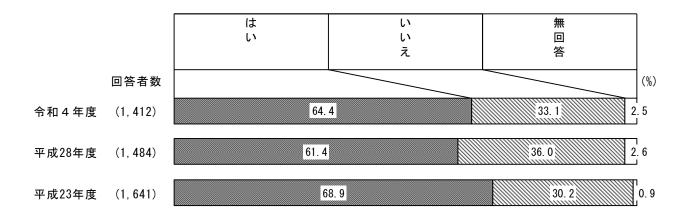
BMI別では、「飲食しない」は「やせ」が 56.3%で最も高く、次いで「標準」 (52.7%)、「肥満」 (42.6%) の順となっている。「飲食しない」は「やせ」「標準」で5割を超える一方、「肥満」は1割以上低くなっている。また、「週 $2 \sim 3$ 回」は「肥満」 (35.3%) で 3 割半ば、「ほぼ毎日」はいずれも1割台となっている。



(6) 自分の適切な食事内容・量の認知度

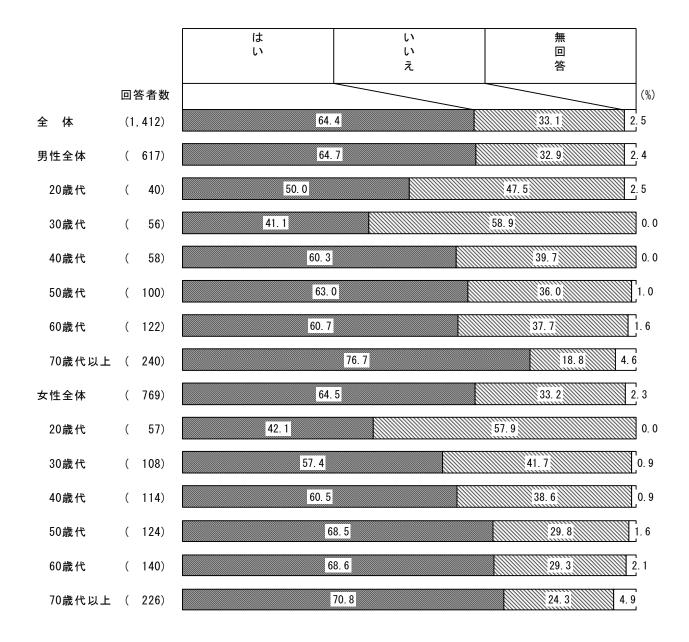
問16 ご自身の適切な食事内容・量を知っていますか。(〇は1つだけ)

自分の適切な食事内容・量の認知度については、「はい」が 64.4%、「いいえ」が 33.1%となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



自分の適切な食事内容・量の認知度/性・年代別

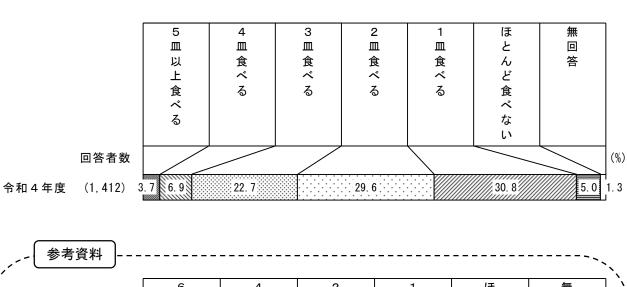
性・年代別では、「はい」は男性全体(64.7%)、女性全体(64.5%)とも6割台となっている。男女とも70歳代以上が7割台で最も高くなっている。一方、「いいえ」は男性30歳代(58.9%)、女性20歳代(57.9%)で5割を超えている。

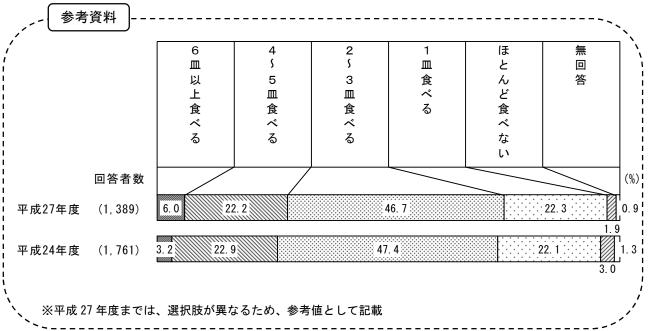


(7) 1日あたりの野菜摂取量

問 17 野菜料理*を1日にどのくらい食べていますか。(〇は1つだけ) ※野菜料理約 70g(トマトなら半分、サラダ1皿分程度)を1皿として、例を参考に、 お皿の数でお答えください。

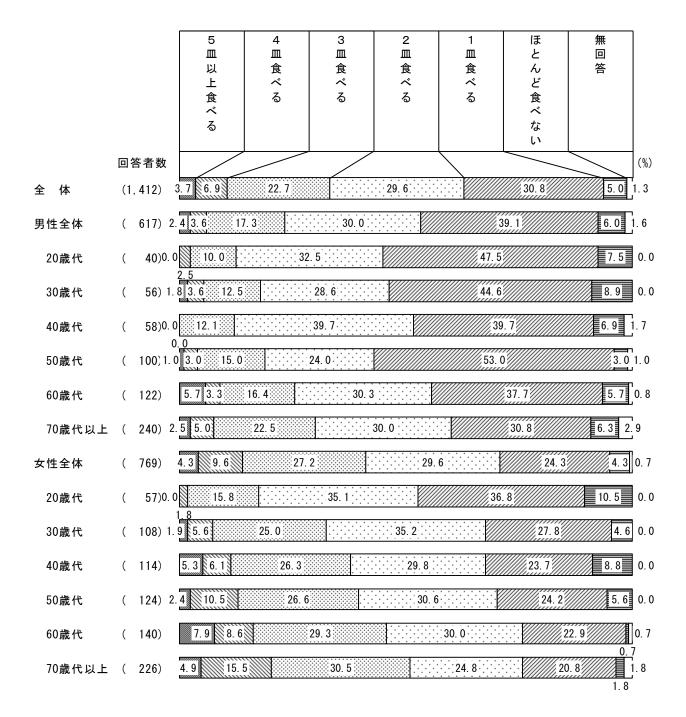
1日あたりの野菜摂取量については、「1皿食べる」が 30.8%と最も高く、次いで「2皿食べる」 (29.6%)、「3皿食べる」(22.7%)、「4皿食べる」(6.9%)の順となっている。一方、「ほとんど食べない」(5.0%)は1割未満となっている。





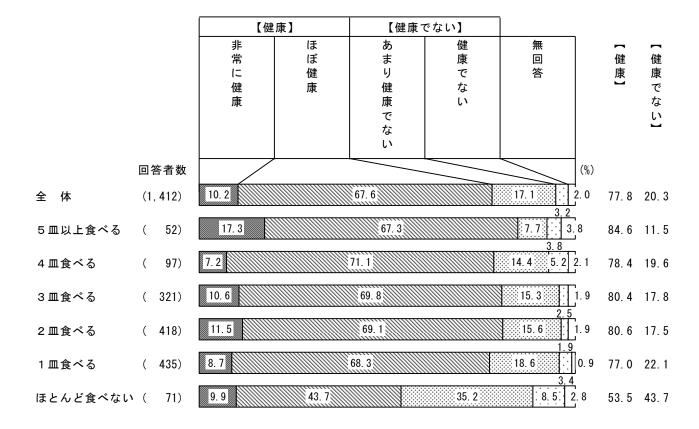
1日あたりの野菜摂取量/性・年代別

性・年代別では、男性はすべての年代で「1 皿食べる」が最も高く、40 歳代は「2 皿食べる」(39.7%) も同率となっている。女性は 20 歳代が「1 皿食べる」(36.8%)、70 歳代以上が「3 皿食べる」(30.5%)、それ以外は「2 皿食べる」が最も高くなっている。一方、「ほとんど食べない」は女性 20 歳代 (10.5%) が最も高く、それ以外は男女とも 1 割未満となっている。



自分の健康状態/1日あたりの野菜摂取量別

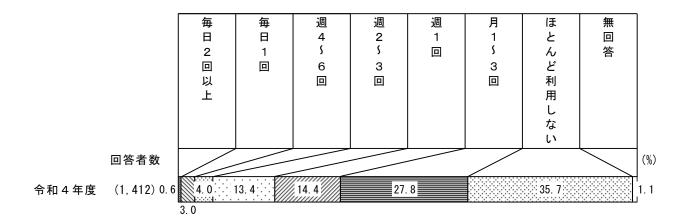
1日あたりの野菜摂取量別では、「非常に健康」は「5皿以上食べる」が 17.3%で最も多い。「ほとんど食べない」は【健康でない】 (43.7%) が全体を2割以上上回る。

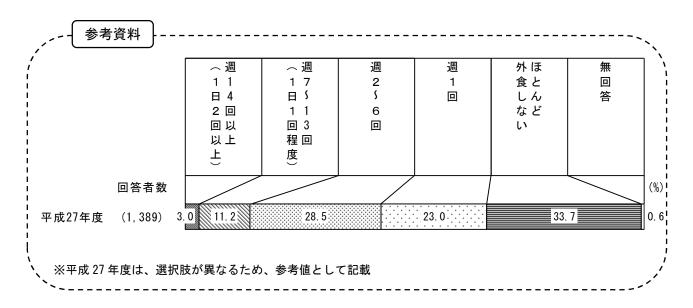


(8) 外食の利用頻度

問18 外食(飲食店での食事)をどのくらい利用していますか。(〇は1つだけ)

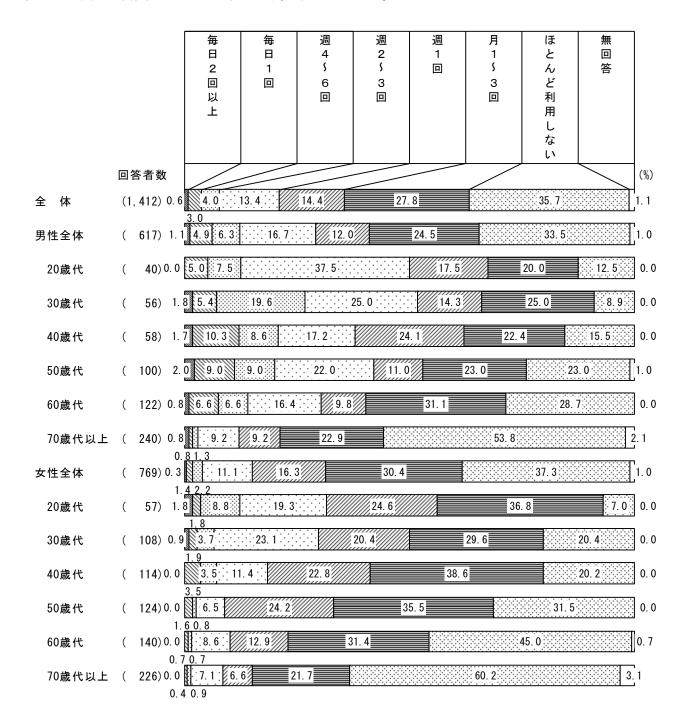
外食の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が 35.7%と最も高く、次いで「月 $1\sim3$ 回」 (27.8%)、「週1回」 (14.4%)、「週 $2\sim3$ 回」 (13.4%) の順となっている。





外食の利用頻度/性・年代別

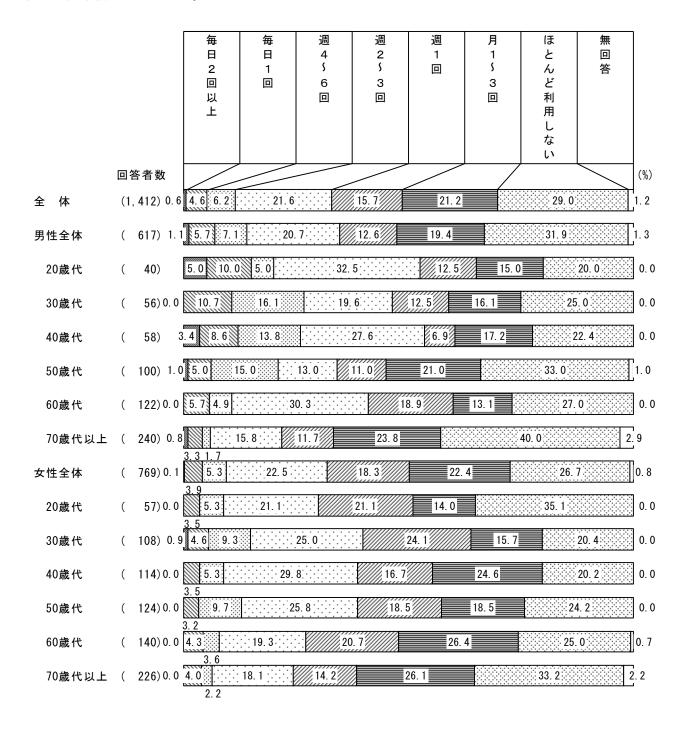
性・年代別では、「ほとんど利用しない」は年代が上がるにつれ増加する傾向にあり、男性 50 歳代 (23.0%:同率)、70歳代以上(53.8%)、女性 60歳代以上で最も高くなっている。男性の 20~40歳代、女性 20歳代の半数以上は週1回以上外食を利用している。



(9) 持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度

問19 持ち帰りの弁当や総菜をどのくらい利用していますか。(〇は1つだけ)

持ち帰りの弁当や総菜の利用頻度については、全体では、「ほとんど利用しない」が 29.0%と最も高く、次いで「週2~3回」(21.6%)、「月1~3回」(21.2%)、「週1回」(15.7%) の順となっている。性・年代別では、「ほとんど利用しない」は男性70歳代以上(40.0%)が最も高く、男性50歳代(33.0%)、女性20歳代(35.1%)、70歳代以上(33.2%)も3割台となっている。一方、毎日1回以上利用している割合は男性20歳代(15.0%)が最も高く、男性30~40歳代も1割を超える一方、女性はすべての年代で1割未満となっている。



(10) 主な食品の購入場所

問 20 主にどこで食品を購入していますか。(あてはまるものすべてにO)

主な食品の購入場所については、全体では、「スーパーマーケット」が91.8%と最も高く、次いで「コンビニエンスストア」(33.8%)、「ドラッグストア」(11.8%)、「宅配サービス(主に食材)」(10.4%)の順となっている。

性・年代別では、「スーパーマーケット」は男性はすべての年代で8割台、女性は9割台を占めている。一方、「コンビニエンスストア」は男性 $20\sim30$ 歳代、女性 20 歳代(57.9%)で5割を超えるが、年代が上がるにつれ減少する傾向にあり、男性 70 歳代以上(25.0%)、女性 50 歳代以上は2割台となっている。

(%) □ 宅 飲 配 Ϊ ラッ 答 配 店 食 食 の 口 ۱, ビ 者 店 サ サ 街 他 答 グ 数 = マー エンスス ス ビ ビ ス ス ア ケ ッ 主 主 ۲ ۲ に に ァ 食 弁 当 材 全 体 1,412 91.8 33.8 11.8 10.4 9.3 6.2 2.0 2.7 1.1 男性全体 617 87.0 37.8 10.2 7.3 2. 1 1.9 9.9 6.8 1.6 20歳代 40 82.5 62.5 12.5 5.0 2.5 17.5 0.0 0.0 2.5 89.3 53.6 30歳代 56 21.4 8.9 12.5 3.6 0.0 0.0 3.6 10.3 40歳代 58 84.5 43.1 5. 2 8.6 8.6 6.9 0.0 0.0 50歳代 100 43.0 89.0 7.0 5.0 10.0 9.0 1.0 2.0 1.0 60歳代 122 86.1 41.0 9.0 6.6 8. 2 4.9 2.5 2. 5 1.6 70歳代以上 240 87.5 25. 0 9.2 13.8 2.9 2.5 8.8 3.3 1.3 769 95.7 31.1 12.7 2.0 女性全体 13.1 9.1 5.9 3.4 0.5 57.9 57 96.5 10.5 5.3 0.0 0.0 20歳代 8.8 7.0 8.8 30歳代 108 97.2 44.4 25.0 13.9 4.6 12.0 5.6 0.0 0.0 40歳代 114 95.6 32.5 14.9 18.4 12.3 13.2 0.9 3.5 0.0 50歳代 95.2 28. 2 12.9 14.5 124 6.5 2.4 1.6 2.4 0.0 97.9 25.0 12.9 0.7 60歳代 140 9.3 7.9 1.4 5.0 0.0 70歳代以上 226 93.8 22.6 7.5 11.5 12.4 3.1 0.9 5.3 1.8

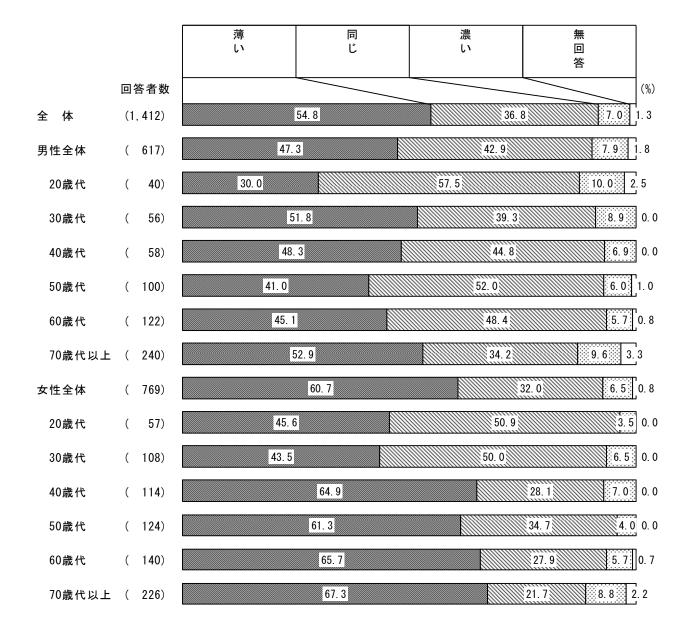
(11) 食事のしかた

問21 あなたの食事のしかたについて教えてください。

ア 家庭の味付けは外食と比べてどうですか。(〇は1つだけ)

家庭の味付けについては、全体では、「薄い」が 54.8%と最も高く、次いで「同じ」(36.8%)、「濃い」 (7.0%) の順となっている。

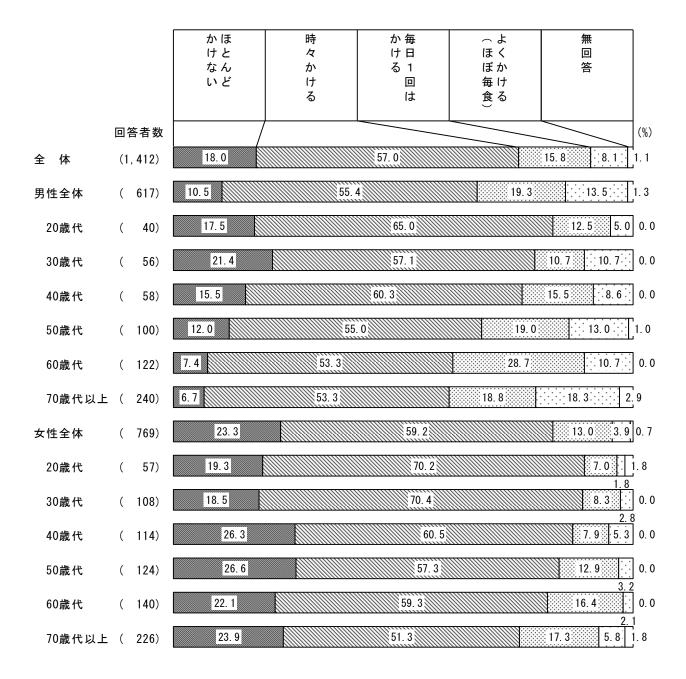
性・年代別では、「薄い」は女性(60.7%)が男性(47.3%)を13.4ポイント上回っている。



イ しょうゆやソースをかける頻度はどうですか。(Oは1つだけ)

しょうゆやソースをかける頻度については、全体では、「時々かける」が 57.0%と最も高く、次いで「ほとんどかけない」(18.0%)、「毎日1回はかける」(15.8%)、「よくかける(ほぼ毎食)」(8.1%)の順となっている。

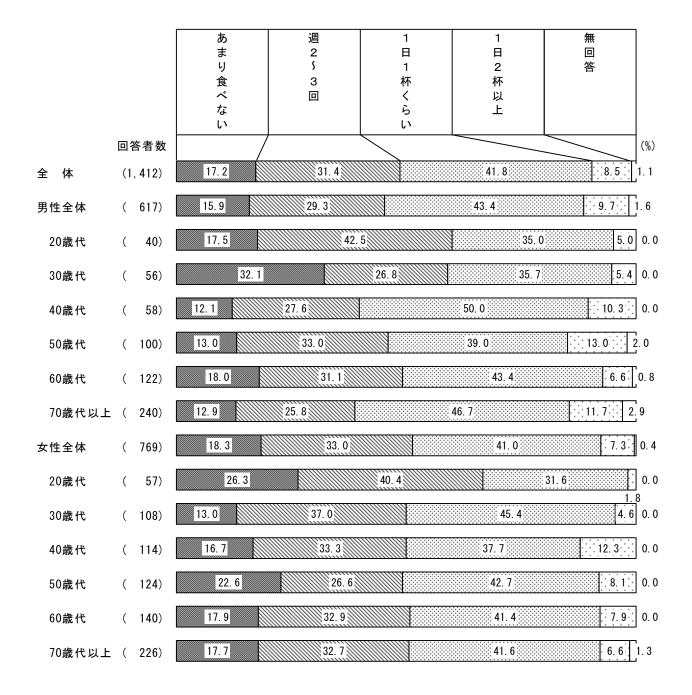
性・年代別では、「ほとんどかけない」は女性 (23.3%) が男性 (10.5%) を 12.8 ポイント上回り、「毎日1回はかける」は男性 60 歳代 (28.7%)、「よくかける (ほぼ毎食)」は男性 70 歳代以上 (18.3%) が全体を1割以上上回っている。



ウ みそ汁、スープなどの汁物を食べる頻度はどうですか。(Oは1つだけ)

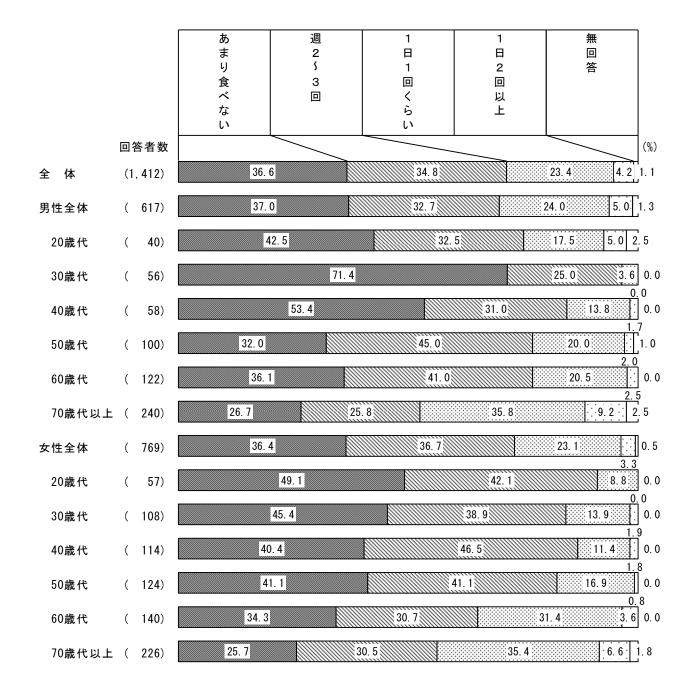
汁物を食べる頻度については、全体では、「1日1杯くらい」が 41.8%と最も高く、次いで「週 $2\sim3$ 回」(31.4%)、「あまり食べない」(17.2%)、「1日2杯以上」(8.5%) の順となっている。

性・年代別では、男女 20 歳代は「週 2~3回」、それ以外は「1日1杯くらい」が最も多くなっている。また、「あまり食べない」は男性 30 歳代(32.1%)が最も高く、女性 20 歳代(26.3%)と 50 歳代(22.6%)も 2割台となっている。



エ 漬物 (キムチなどを含む) や梅干しを食べる頻度はどうですか。(〇は1つだけ)

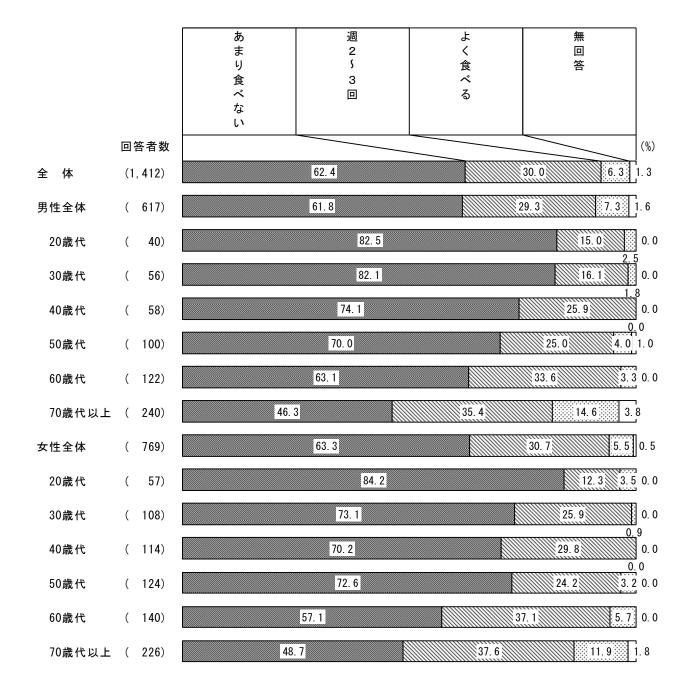
漬物や梅干しを食べる頻度については、全体では、「あまり食べない」が 36.6%と最も高く、次いで「週2~3回」(34.8%)、「1日1回くらい」(23.4%)、「1日2回以上」(4.2%)の順となっている。性・年代別では、男性は「あまり食べない」(37.0%)、女性は「週2~3回」(36.7%)が最も高くなっている。男性70歳代以上、女性60歳代と70歳代以上では1日1回以上食べる人が3割以上いる。



オ あじの開き、塩鮭、みりん干しなどを食べる頻度はどうですか。(〇は1つだけ)

あじの開き、塩鮭、みりん干しなどを食べる頻度については、全体では、「あまり食べない」が 62.4% と最も高く、次いで「週 $2 \sim 3$ 回」 (30.0%)、「よく食べる」 (6.3%) の順となっている。

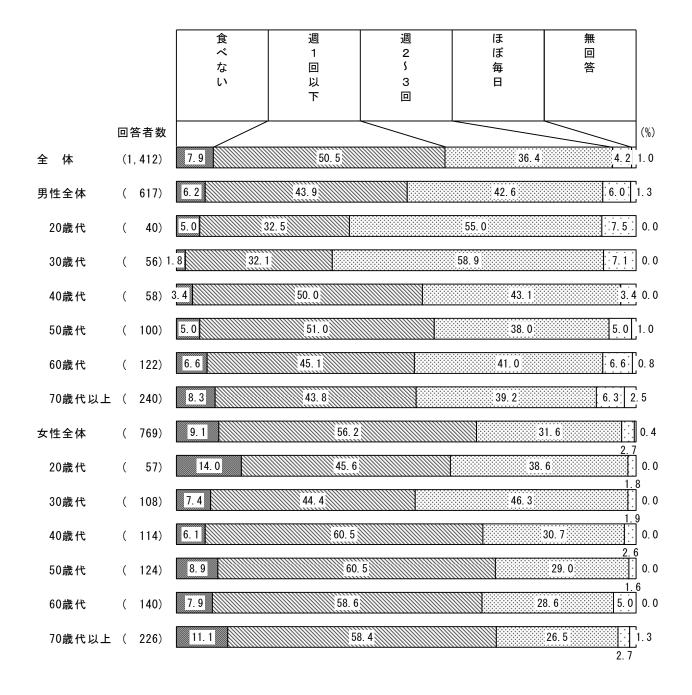
性・年代別では、「週 $2 \sim 3$ 回」は男女とも 60 歳代以上で 3 割台を占め、他の年代と比較して割合が多くなっている。



カ 麺類 (ラーメン・うどんなど) を食べる頻度はどうですか。(〇は1つだけ)

麺類を食べる頻度については、全体では、「週1回以下」が50.5%と最も高く、次いで「週2~3回」(36.4%)、「食べない」(7.9%)、「ほぼ毎日」(4.2%)の順となっている。

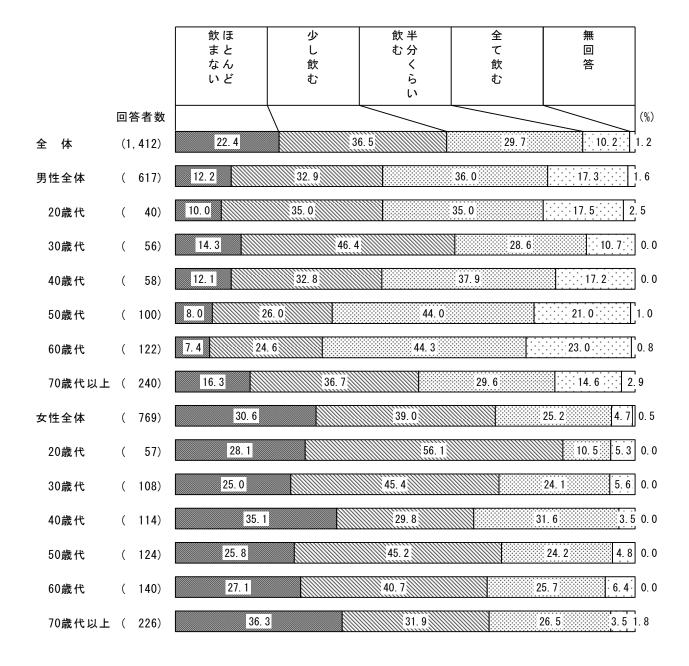
性・年代別では、「週 $2 \sim 3$ 回」は男性(42.6%)が女性(31.6%)より 11.0 ポイント高く、男性 $20 \sim 30$ 歳代は 5 割台となっている。



キ 麺類の汁を飲みますか。(〇は1つだけ)

麺類の汁については、全体では、「少し飲む」が 36.5% と最も高く、次いで「半分くらい飲む」(29.7%)、「ほとんど飲まない」(22.4%)、「全て飲む」(10.2%)の順となっている。

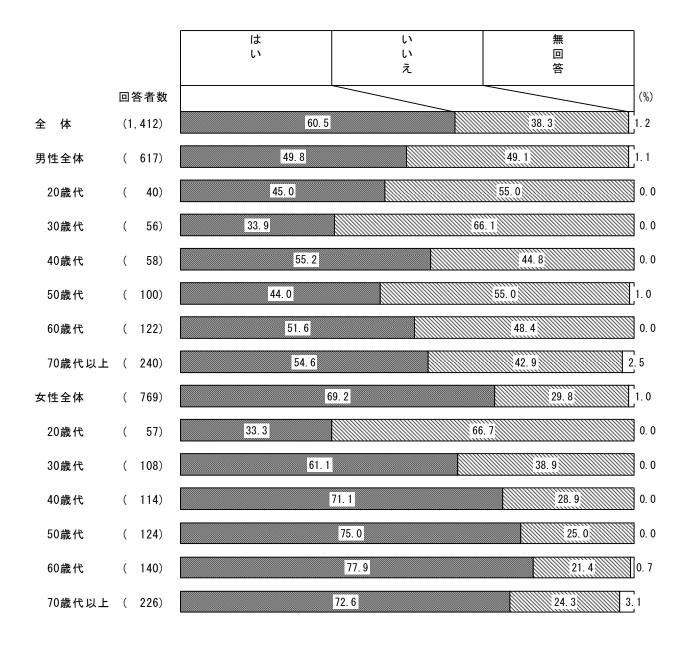
性・年代別では、男性は「半分くらい飲む」(36.0%)、女性は「少し飲む」(39.0%) が最も高くなっている。「ほとんど飲まない」は、男性はすべての年代で2割未満となっている。



(12) 地産地消

問 22 国産・県内産・川崎産など産地を意識して食品を購入(地産地消) したことがありますか。 (〇は1つだけ)

地産地消については、全体では、「はい」が 60.5%、「いいえ」が 38.3%となっている。 性・年代別では、「はい」は女性 (69.2%) が男性 (49.8%) を 19.4 ポイント上回っている。

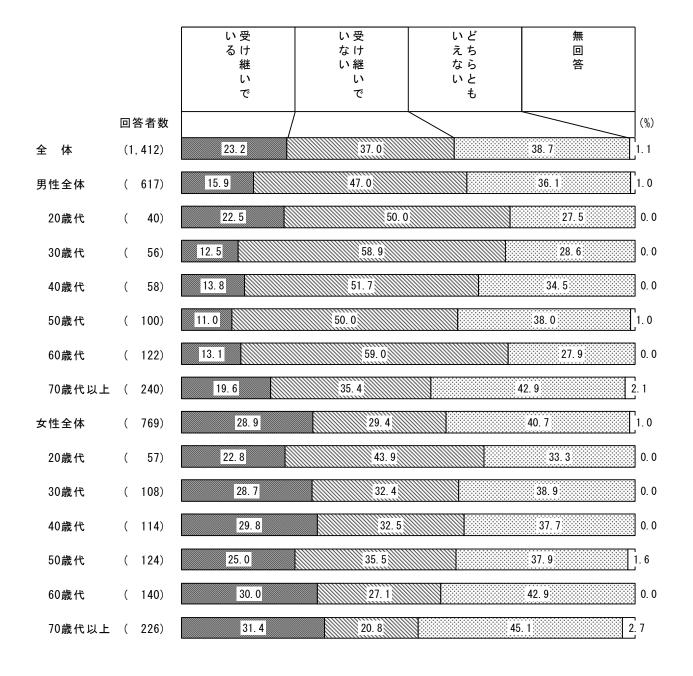


(13) 料理や味、食べ方・作法の継承

問 23 地域や家庭で受け継がれてきた料理(郷土料理や伝統料理を含む)や味、食べ方・作法を 受け継いでいますか。(〇は1つだけ)

料理や味、食べ方・作法の継承については、全体では、「受け継いでいる」が 23.2%、「受け継いでいない」が 37.0%、「どちらともいえない」が 38.7%となっている。

性・年代別では、「受け継いでいる」は女性 (28.9%) が男性 (15.9%) を 13.0 ポイント上回っている。「受け継いでいる」は男性が 20 歳代 (22.5%) を除き 1 割台であるのに対し、女性は 60 歳代以上が 3 割台、それ以外は 2 割台となっている。



(14) 食品ロスを減らすために取り組んでいること

問 24 日本の「食品ロス」の発生量は 570 万トン(令和元年度推計)であり、1人1日あたりお茶碗1杯分の食事を毎日捨てていることになります。この食品ロスを減らすために、あなたが取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに〇)

食品ロスを減らすために取り組んでいることは、全体では、「残さず食べる」が 65.4%と最も高く、 次いで「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、食べられるか自分で判断する」(57.9%)、「冷 凍保存する」(54.6%)、「料理を作りすぎない」(43.6%) の順となっている。

性・年代別では、男性は「残さず食べる」(67.4%)、女性は「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、食べられるか自分で判断する」(65.7%)が最も高くなっている。

															(%)
	回答者数	残さず食べる	判断するとなったもれるか自分でるのではなく、食べられるか自分で「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨て	冷凍保存する	料理を作りすぎない	表示を確認する冷蔵庫などの食材の種類・量・期限	などで食べられる量を購入する小分け商品、少量パック、バラ売り	ト還元の商品を率先して選ぶ期限間近による値引き商品・ポイン	飲食店などで注文しすぎない	残った料理を別の料理に作り替える	を購入する商品棚の手前に並ぶ期限に近い商品	選ぶに沿った量で料理を提供する店舗を外食時には、小盛メニューなど希望	その他	特にない	無回答
全 体	1, 412	65. 4	57. 9	54. 6	43. 6	34. 1	29. 7	28. 7	24. 1	23. 9	11. 8	5. 6	1.6	4. 8	1. 6
男性全体	617	67. 4	48. 8	45. 4	36. 3	23.8	21. 4	23. 3	21. 1	15. 9	9. 6	3. 7	1.0	8.8	1.8
20歳代	40	70.0	45. 0	50. 0	35. 0	17. 5	12. 5	25. 0	25. 0	5.0	17. 5	0.0	0.0	10.0	0.0
30歳代	56	76.8	51.8	51.8	26.8	19. 6	14. 3	28. 6	21.4	19.6	16. 1	1.8	1.8	7. 1	0.0
40歳代	58	69.0	37. 9	32. 8	22. 4	13.8	20. 7	19. 0	19. 0	3.4	13. 8	1.7	3.4	8.6	1.7
50歳代	100	76.0	46. 0	43. 0	32. 0	24. 0	22. 0	24. 0	18. 0	19.0	7. 0	1.0	0.0	9.0	2. 0
60歳代	122	72. 1	52. 5	50. 0	38. 5	28. 7	27. 0	29. 5	30. 3	18.9	12. 3	3. 3	0.8	5. 7	0.8
70歳代以上	240	58.8	50.8	45. 0	42. 9	25.8	21. 7	19. 6	17. 5	17. 1	5. 4	6. 7	0.8	10.0	2. 9
女性全体	769	63.7	65. 7	62. 4	49. 7	42. 7	36. 4	33. 2	26. 5	30. 2	13. 7	7. 0	2. 0	1.7	1. 2
20歳代	57	70. 2	43. 9	57. 9	28. 1	28. 1	21. 1	17. 5	31.6	19.3	12. 3	3. 5	0.0	7.0	0.0
30歳代	108	77.8	68. 5	71.3	39. 8	34. 3	32. 4	37. 0	27. 8	29.6	16. 7	8. 3	0.9	0.0	0. 9
40歳代	114	68. 4	63. 2	64. 9	54. 4	40. 4	35. 1	37. 7	36.8	36.0	18. 4	4. 4	1.8	2. 6	0. 9
50歳代	124	65.3	69. 4	62. 9	57. 3	44. 4	40. 3	37. 9	30. 6	28. 2	14. 5	5. 6	1.6	0.8	0.8
60歳代	140	66. 4	64. 3	65. 0	52. 9	50. 7	37. 9	35. 7	19. 3	33.6	12. 9	7. 1	2. 9	1.4	0.0
70歳代以上	226	50. 4	69. 9	56. 2	51.3	45. 6	39. 8	28.8	21.7	29. 2	10. 2	9. 3	2. 7	1.3	2. 7

(15) 食品ロスの原因

問 25 購入した食品を食べないまま捨ててしまう場合、その原因は何ですか。 (あてはまるものすべてに〇)

食品ロスの原因については、全体では、「食べないまま捨てることはほとんどない」が 53.0%と最も高く、次いで「購入後、保管場所に入れたまま存在を忘れてしまった」(39.4%)、「必要以上に買いすぎてしまった」(17.6%)、「購入したものの、調理の仕方や食べ方がわからなかった」(2.6%)の順となっている。

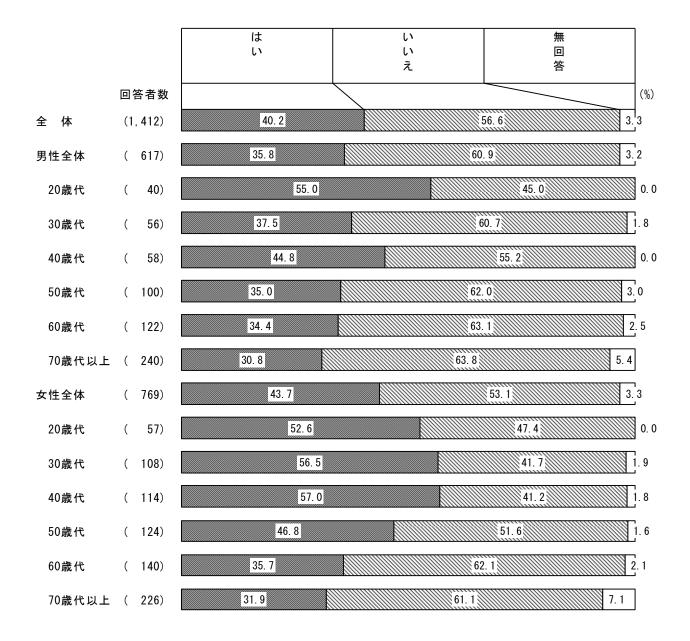
								(%)
	回答者数	んどないまま捨てることはほと食べないまま捨てることはほと	存在を忘れてしまった購入後、保管場所に入れたまま	必要以上に買いすぎてしまった	食べ方がわからなかった購入したものの、調理の仕方や	その他	わからない	推回 ీ
全 体	1, 412	53.0	39. 4	17. 6	2. 6	4. 2	1.8	2. 3
男性全体	617	58.8	32.6	16.0	1.6	2. 9	3. 2	2. 3
20歳代	40	55.0	30.0	22. 5	0.0	0.0	2. 5	2. 5
30歳代	56	35. 7	44.6	23. 2	0.0	3.6	3.6	0.0
40歳代	58	51.7	37. 9	12. 1	0.0	6.9	1. 7	0.0
50歳代	100	54.0	34. 0	11.0	2.0	3.0	4. 0	2. 0
60歳代	122	59.0	33.6	19. 7	2. 5	4. 1	2.5	1.6
70歳代以上	240	68.8	27.9	14. 6	2. 1	1. 7	3.3	3.8
女性全体	769	48.8	44.6	18. 7	3.4	5.3	0.7	2. 1
20歳代	57	47. 4	47.4	21. 1	7.0	0.0	1.8	0.0
30歳代	108	38. 9	49.1	21.3	3. 7	4. 6	0.0	1. 9
40歳代	114	36.8	52.6	19. 3	3.5	12. 3	0.9	0. 9
50歳代	124	54. 0	39. 5	16.1	4. 8	1.6	0.8	1.6
60歳代	140	47. 1	42.9	15. 0	1.4	5.0	1.4	0. 7
70歳代以上	226	58.0	41.6	20. 4	2. 7	5.8	0.0	4. 4

(16) 農林漁業体験の参加の有無

問 26 農林漁業体験のある子どもは、食べ物を大切にする意識や食べ物への関心をもつようになり、食べ残しが少なくなることなどが報告されています。あなた又は同居のご家族の中で、野菜の収穫、稲刈り、家畜の世話などの農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。 (〇は1つだけ)

農林漁業体験に参加したことがあるかについては、全体では、「はい」が 40.2%、「いいえ」が 56.6% となっている。

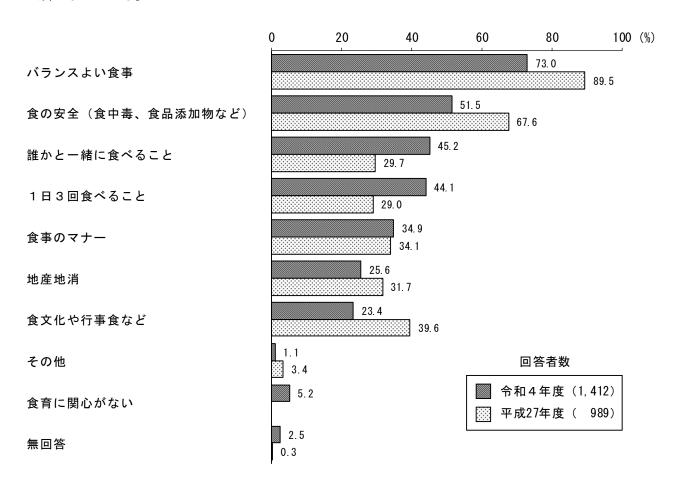
性・年代別では、「はい」は女性(43.7%)が男性(35.8%)を7.9ポイント上回っている。「はい」は男性20歳代(55.0%)、女性20~40歳代で5割を超えるが、男性40歳代を除き年代が上がるにつれ減少する傾向にある。一方、「いいえ」は男性30歳代以上、女性50歳代以上で過半数を占めている。



(17) 食育について関心がある項目

問 27 食育について関心がある項目はどれですか。(あてはまるものすべてにO)

食育について関心がある項目は、「バランスよい食事」が 73.0% と最も高く、次いで「食の安全(食中毒、食品添加物など)」(51.5%)、「誰かと一緒に食べること」(45.2%)、「1 日 3 回食べること」(44.1%) の順となっている。



※平成 27 年度は、食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」と回答した 989 人(全体の 71.2%) を 対象に質問している。

食育について関心がある項目/性・年代別

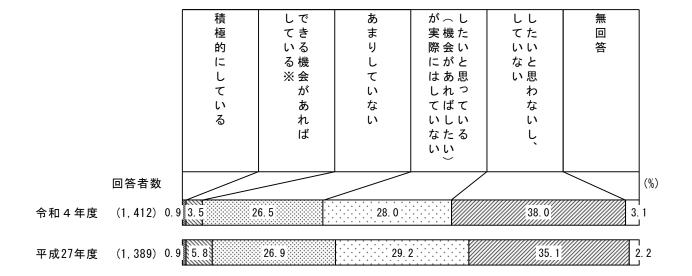
性・年代別では、男性全体、女性全体とも「バランスよい食事」が1位、「食の安全(食中毒、食品添加物など)」が2位を占め、前者は男女ともすべての年代で1位となっている。7項目いずれも女性が男性を上回り、「食の安全(食中毒、食品添加物など)」(56.6%)、「誰かと一緒に食べること」(50.7%)、「食事のマナー」(39.9%)、「食文化や行事食など」(30.2%)は男性を1割以上上回っている。

											(%)
	回答者数	バランスよい食事	(食中毒、食品添加物など)食の安全	誰かと一緒に食べること	1日3回食べること	食事のマナー	地産地消	食文化や行事食など	その他	食育に関心がない	無回答
全 体	1, 412	73. 0	51.5	45. 2	44. 1	34. 9	25.6	23. 4	1.1	5. 2	2. 5
男性全体	617	68. 2	44. 9	38.6	42. 0	28.7	20.9	15. 6	1.1	8.3	2. 3
20歳代	40	75.0	42. 5	52. 5	57. 5	27.5	22. 5	27. 5	5.0	0.0	2. 5
30歳代	56	62.5	44. 6	37.5	21.4	33.9	33.9	28. 6	0.0	16. 1	0.0
40歳代	58	75. 9	41.4	62. 1	39. 7	53.4	25. 9	25. 9	1.7	1.7	0.0
50歳代	100	69.0	44. 0	44.0	37. 0	36.0	29.0	16. 0	1.0	9.0	2. 0
60歳代	122	69.7	49. 2	35. 2	32.8	26. 2	20.5	17. 2	1.6	11.5	1. 6
70歳代以上	240	65.8	44. 6	30.4	51. 7	20.0	13.3	6. 7	0.4	7.5	3.8
女性全体	769	76.6	56.6	50. 7	45. 4	39.9	29.8	30. 2	1.0	2. 9	2. 6
20歳代	57	59.6	29.8	45. 6	35. 1	36.8	24. 6	26. 3	0.0	10.5	1.8
30歳代	108	79.6	56.5	61.1	41. 7	56.5	29.6	41. 7	0.0	4. 6	0. 9
40歳代	114	80. 7	49.1	64. 9	43. 0	57.9	36.8	46. 5	3.5	1.8	0. 9
50歳代	124	83. 1	62. 1	45. 2	35. 5	43. 5	39.5	33. 1	0.8	0.8	1.6
60歳代	140	78. 6	60.0	52. 1	39. 3	32. 1	28.6	30.0	0.7	3.6	0.7
70歳代以上	226	72. 6	61.9	42. 0	60. 2	26.5	23.0	15. 9	0.9	1.3	6. 2

(18) 食育に関する活動や行動の状況

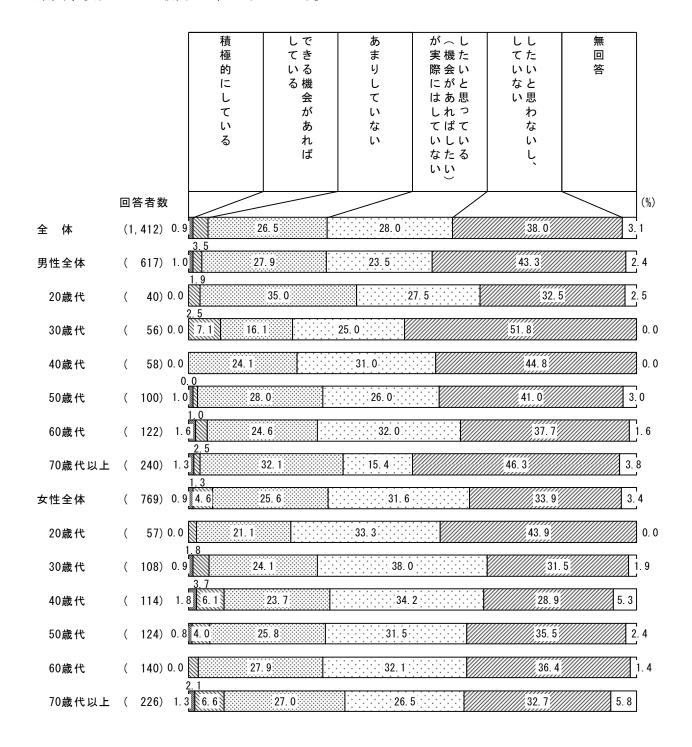
問 28 地域で食育に関する何らかの活動をおこなったり、参加したりしていますか。 (〇は1つだけ)

食育活動への参加については、「したいと思わないし、していない」が 38.0%と最も高く、次いで「したいと思っている(機会があればしたい)が実際にはしていない」(28.0%)、「あまりしていない」(26.5%)、「できる機会があればしている」(3.5%)、「積極的にしている」(0.9%)の順となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



※平成27年度の選択肢は、「できる機会があればしている」は「できるだけしようとしている」としていた。

性・年代別では、男女とも「したいと思わないし、していない」が最も高く、男性(43.3%) は女性(33.9%)を9.4ポイント上回っている。「したいと思わないし、していない」は男性30歳代(51.8%)で5割を超え、男性20歳代(32.5%)、女性 $30\sim40$ 歳代以外で1位となっている。「したいと思っている(機会があればしたい)が実際にはしていない」は女性(31.6%)が男性(23.5%)より8.1ポイント高く、女性 $30\sim40$ 歳代で1位となっている。

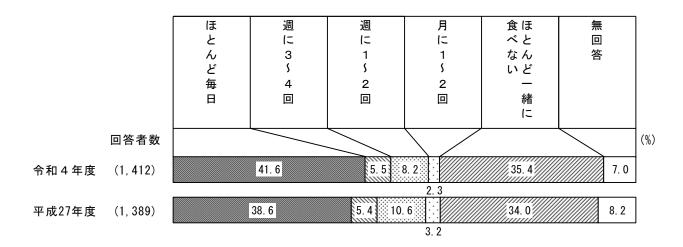


(19) 家族や友人・知人などとの食事の頻度

問 29 家族や友人・知人などと一緒に食事をしますか。 (次のア〜ウの項目について、〇はそれぞれ 1 つだけ)

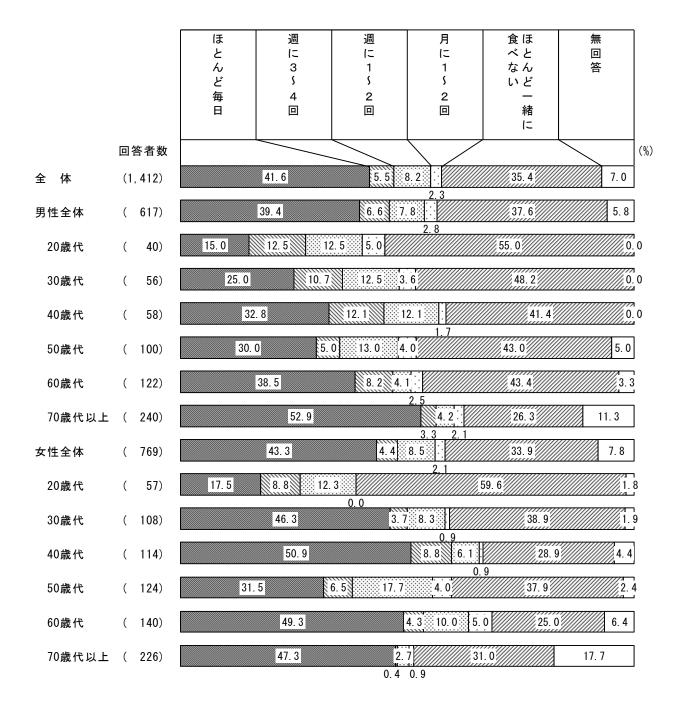
ア 朝食

朝食については、「ほとんど毎日」が 41.6%と最も高く、次いで「ほとんど一緒に食べない」(35.4%)、「週に $1\sim2$ 回」(8.2%)、「週に $3\sim4$ 回」(5.5%)、「月に $1\sim2$ 回」(2.3%) の順となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



朝食/性・年代別

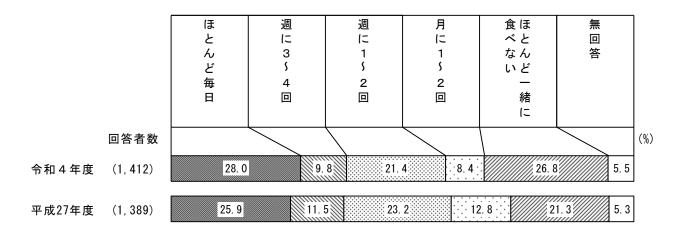
性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体と共通となっている。男性 70 歳代以上 (52.9%) と女性 40 歳代 (50.9%) は「ほとんど毎日」が 5 割台を占めている。



第2章 調査結果の詳細

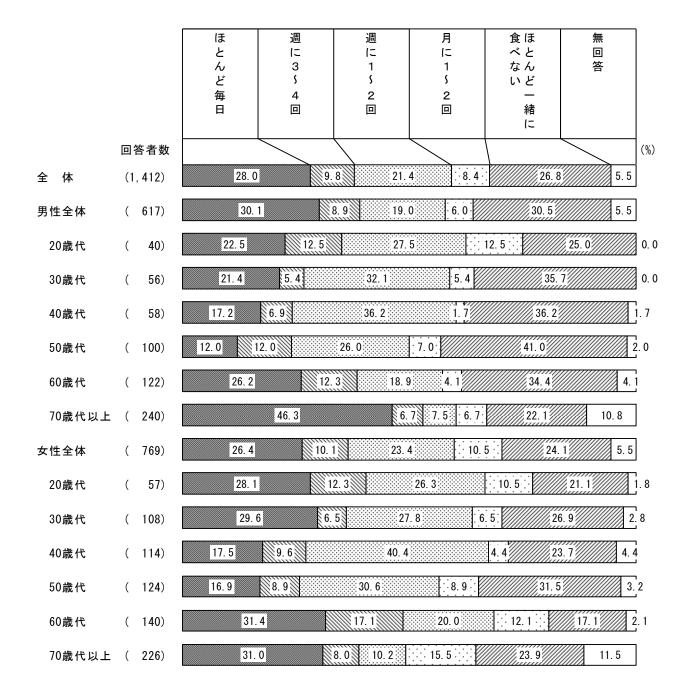
イ 昼食

昼食については、「ほとんど毎日」が 28.0%と最も高く、次いで「ほとんど一緒に食べない」(26.8%)、「週に $1 \sim 2$ 回」(21.4%)、「週に $3 \sim 4$ 回」(9.8%)、「月に $1 \sim 2$ 回」(8.4%)の順となっている。 過去の調査結果と比較すると、平成 27 年度と比べ「ほとんど一緒に食べない」が 5.5 ポイント増加する一方、「月に $1 \sim 2$ 回」は 4.4 ポイント減少している。



昼食/性・年代別

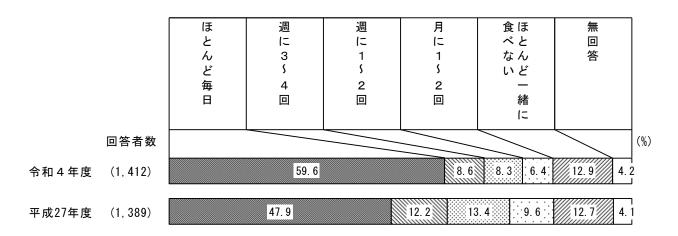
性・年代別では、男性は「ほとんど一緒に食べない」(30.5%)、女性は「ほとんど毎日」(26.4%) が最も高くなっている。男性70歳以上は「ほとんど毎日」(46.3%) が4割を超えている。



第2章 調査結果の詳細

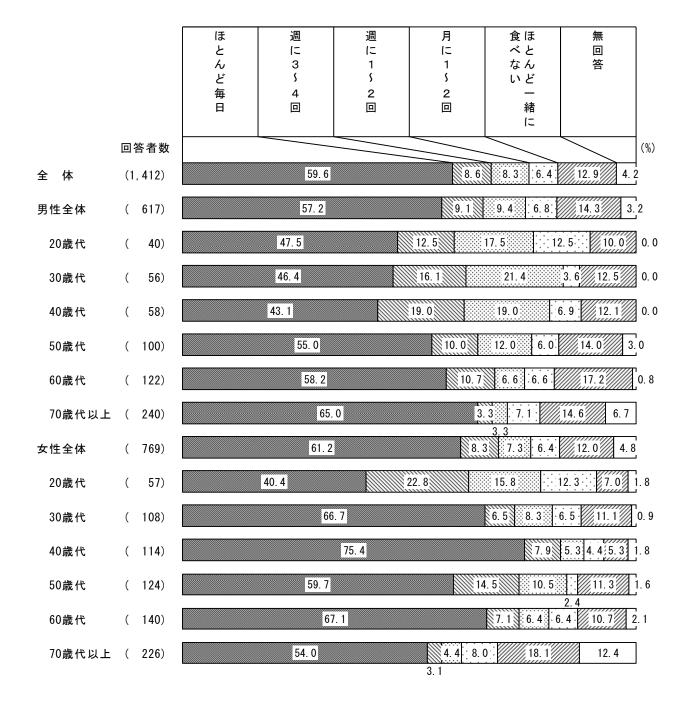
ウ 夕食

夕食については、「ほとんど毎日」が 59.6%と最も高く、次いで「ほとんど一緒に食べない」(12.9%)、「週に $3\sim4$ 回」(8.6%)、「週に $1\sim2$ 回」(8.3%)、「月に $1\sim2$ 回」(6.4%) の順となっている。 過去の調査結果と比較すると、平成 27 年度と比べ「ほとんど毎日」が 11.7 ポイント増加する一方、「週に $1\sim2$ 回」は 5.1 ポイント、「週に $3\sim4$ 回」は 3.6 ポイント、「月に $1\sim2$ 回」は 3.2 ポイント減少している。

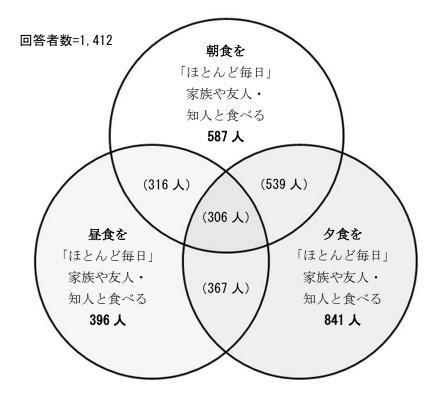


夕食/性・年代別

性・年代別では、男性全体、女性全体とも順位は全体とほぼ共通で、男女ともすべての年代で「ほとんど毎日」が1位となっている。

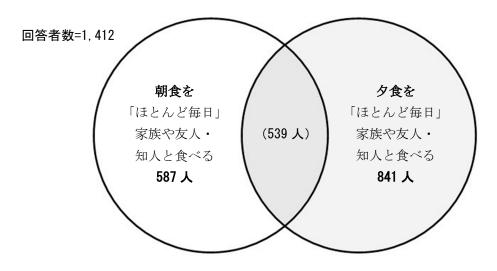


<参考 1日のどこか1食でも「ほとんど毎日」家族や友人・知人と食事をする頻度>



1日のどこか1食でも「ほとんど毎日」家族や友人・知人と食事をする割合= (587+396+841-(316+367+539-306)) ÷1,412=64.3 (%)

<参考 朝食と夕食のどちらかを「ほとんど毎日」家族や友人・知人と食事をする頻度>

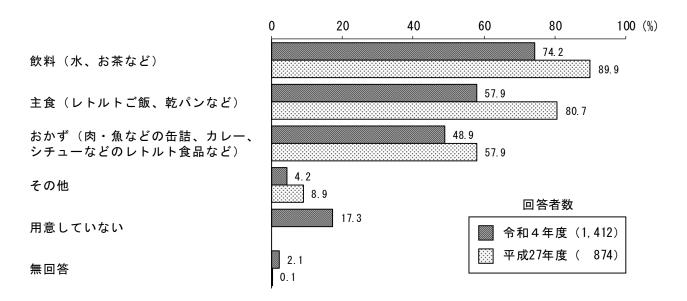


朝食と夕食のどちらかを「ほとんど毎日」家族や友人・知人と食事をする割合= $(587+841-539) \div 1,412=63.0 (%)$

(20) 非常食の備蓄

問30 災害時(地震や風水害だけでなく、新型コロナウイルス感染症拡大も含む)に備えて、 非常用の食料としてどのようなものを用意していますか。(あてはまるものすべてに〇)

非常食の備蓄については、「飲料(水、お茶など)」が 74.2%と最も高く、次いで「主食(レトルトご飯、乾パンなど)」(57.9%)、「おかず(肉・魚などの缶詰、カレー、シチューなどのレトルト食品など)」 (48.9%) の順となっている。



※平成27年度は、非常食の備蓄を「用意している」と回答した874人(全体の62.9%)を対象に質問している。

非常食の備蓄/性・年代別

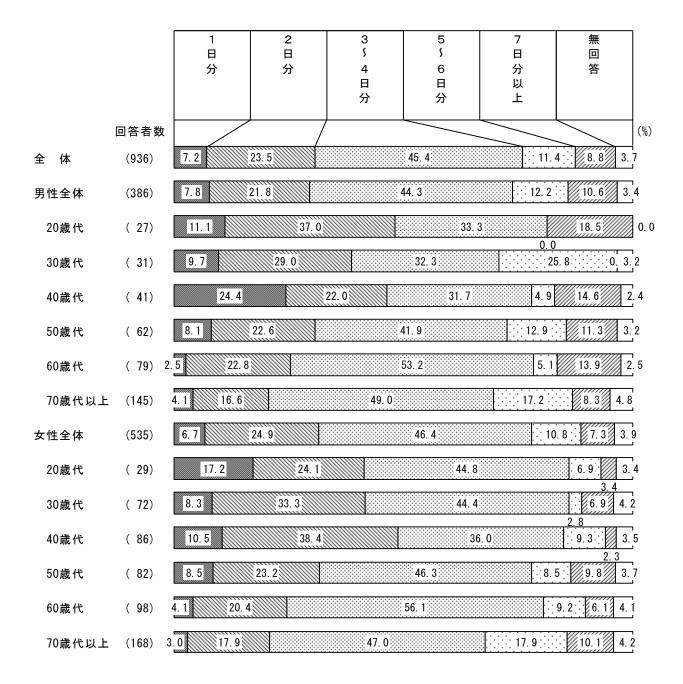
性・年代別では、女性は年代が上がるにつれ「飲料(水、お茶など)」が増加する傾向にあり、「おかず(肉・魚などの缶詰、カレー、シチューなどのレトルト食品など)」についても40歳代を除き同様の傾向となっている。また、女性20歳代は上位3項目いずれも全体を1割以上下回っている。

							(%)
	回答者数	飲料(水、お茶など)	など) 主食(レトルトご飯、乾パン	ルト食品など) カレー、シチューなどのレトおかず(肉・魚などの缶詰、	その他	用意していない	無回答
全 体	1, 412	74. 2	57. 9	48. 9	4. 2	17. 3	2. 1
男性全体	617	73. 4	54. 0	43. 6	1.9	19. 3	2. 1
20歳代	40	67.5	55. 0	50. 0	0.0	22. 5	2. 5
30歳代	56	69.6	53. 6	32. 1	0.0	23. 2	1.8
40歳代	58	81.0	62. 1	36. 2	3. 4	13. 8	0.0
50歳代	100	69.0	56.0	40.0	2. 0	22. 0	2.0
60歳代	122	72. 1	55. 7	46. 7	4. 1	22. 1	1.6
70歳代以上	240	75. 8	50. 0	46. 7	1. 3	16. 7	2. 9
女性全体	769	75. 2	61.5	52. 8	6. 2	15. 5	2. 0
20歳代	57	47. 4	43. 9	28. 1	3.5	33. 3	1.8
30歳代	108	66. 7	60. 2	42. 6	5. 6	22. 2	0.9
40歳代	114	75. 4	67. 5	54. 4	7. 9	13. 2	1.8
50歳代	124	75. 8	58. 1	49. 2	5. 6	15. 3	1.6
60歳代	140	80. 7	61.4	57. 9	8.6	14. 3	1.4
70歳代以上	226	82. 3	65. 5	61.9	5. 3	9. 7	3. 1

(21) 飲料水以外の食料の備蓄量

付問30-1 非常食として飲料水以外の食料を何日分用意していますか。(○は1つだけ)

飲料水以外の食料の備蓄量については、全体では、「 $3\sim4$ 日分」が 45.4%と最も高く、次いで「2日分」(23.5%)、「 $5\sim6$ 日分」(11.4%) の順となっている。

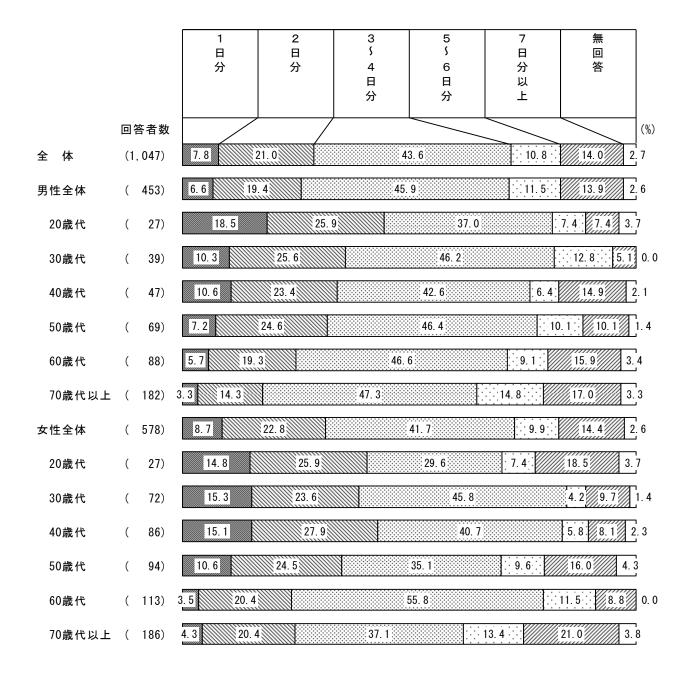


(22) 飲料水の備蓄量

付問 30-2 非常食として飲料水*を何日分用意していますか。(〇は1つだけ) ※飲料水は1人3Lを1日分とする

飲料水の備蓄量については、全体では、「 $3\sim4$ 日分」が43.6%と最も高く、次いで「2日分」(21.0%)、「7日分以上」(14.0%)の順となっている。

性・年代別では、「 $3\sim4$ 日分」は女性 60 歳代(55.8%)で5割を超えている。男性は年代が上がるにつれ $1\sim2$ 日分が減少し、5日分以上が増加する傾向にある。



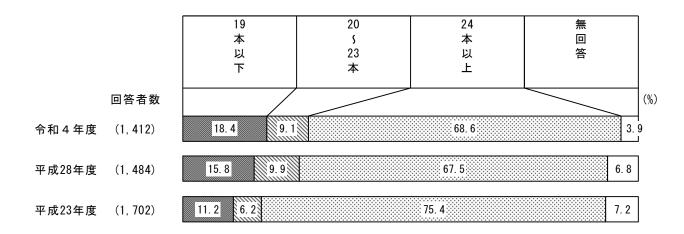
3. 歯と口の健康

(1)歯の本数

問31 歯の本数は、現在何本ですか。

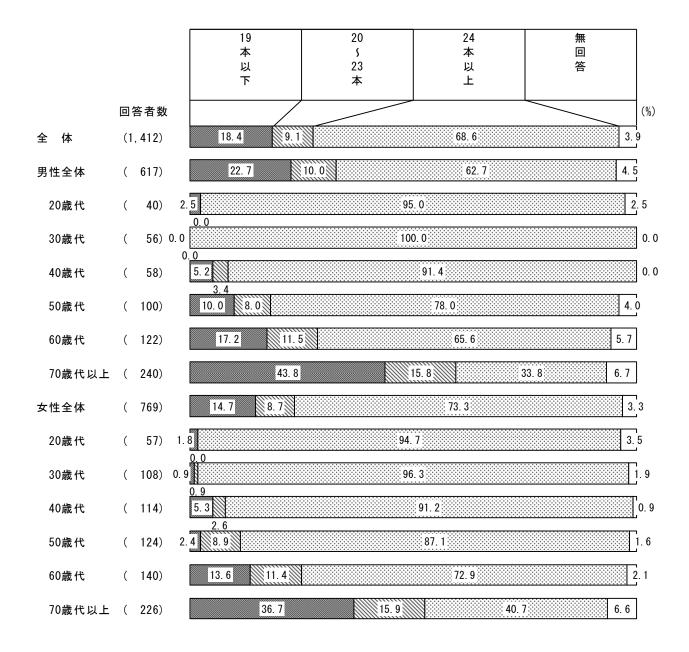
歯の本数については、「24本以上」が68.6%と最も高く、次いで「19本以下」(18.4%)、「20~23本」(9.1%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「19 本以下」は平成 23 年度以降増加傾向にあり、「24 本以上」は平成 28 年度をやや上回ったが、平成 23 年度と比べ 6.8 ポイント減少している。



歯の本数/性・年代別

性・年代別では、男女とも $20\sim40$ 歳代は「24 本以上」が 9割を超えるが、年代が上がるにつれ「19 本以下」、「 $20\sim23$ 本」が増加する傾向にある。特に「19 本以下」は男女ともに 60 歳代から 70 歳代以上にかけて大幅に増加している。

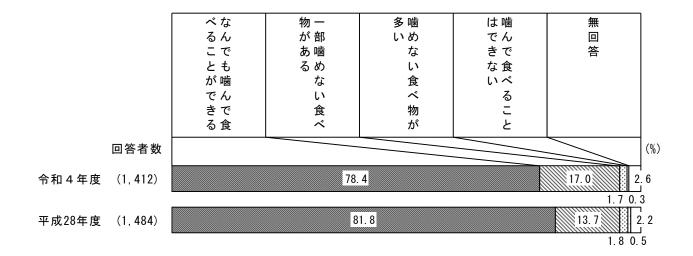


(2) 噛んで食べる時の状態

問32 噛んで食べる時の状態は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つだけ)

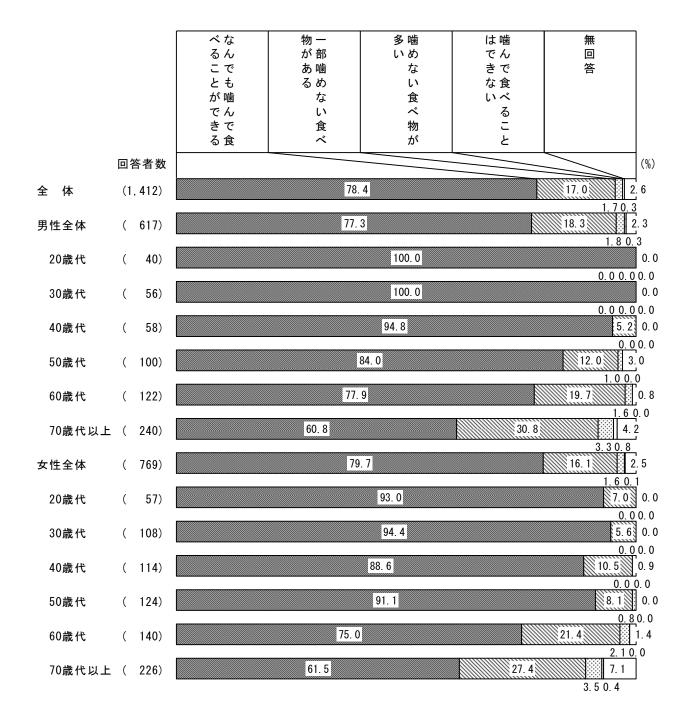
噛んで食べる時の状態については、「なんでも噛んで食べることができる」が 78.4%と最も高く、次いで「一部噛めない食べ物がある」(17.0%)、「噛めない食べ物が多い」(1.7%)、「噛んで食べることはできない」(0.3%) の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成28年度と比べ「一部噛めない食べ物がある」が3.3ポイント増加する一方、「なんでも噛んで食べることができる」は3.4ポイント減少している。



噛んで食べる時の状態/性・年代別

性・年代別では、男女ともすべての年代で「何でも噛んで食べることができる」が過半数を占めているが、年代が上がるにつれて減少する傾向にある。男性は20~40歳代にかけ「何でも噛んで食べることができる」割合が女性を上回るが、男性50歳代(84.0%)は40歳代(94.8%)から10.8ポイント減少している。60歳代は男女とも7割台、70歳代以上は6割台となっている。



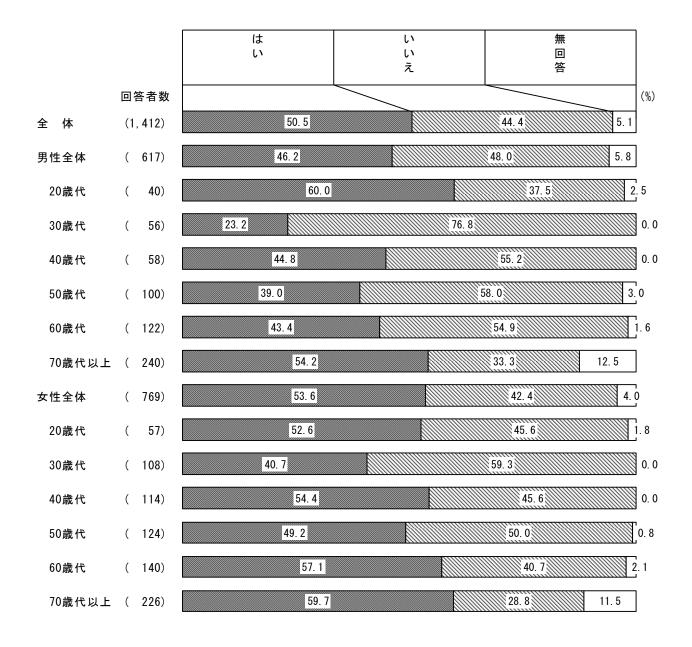
(3) 食べ方や食事中の様子

問33 あなたの食べ方や食事中の様子についてお答えください。 (次のア~オの項目について、〇はそれぞれ1つだけ)

ア ゆっくり噛んで食事をする

全体では、「はい」が50.5%、「いいえ」が44.4%となっている。

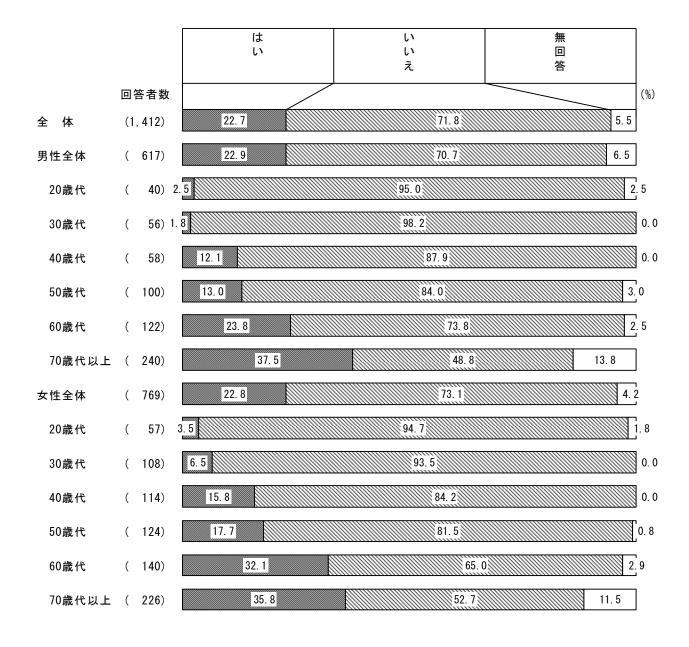
性・年代別では、男女ともに、30歳代で「いいえ」が最も高くなっている。「はい」は50歳代以上で年代が上がるにつれて増加する傾向がみられる。



イ 半年前に比べて固いものが食べにくくなった

全体では、「はい」が22.7%、「いいえ」が71.8%となっている。

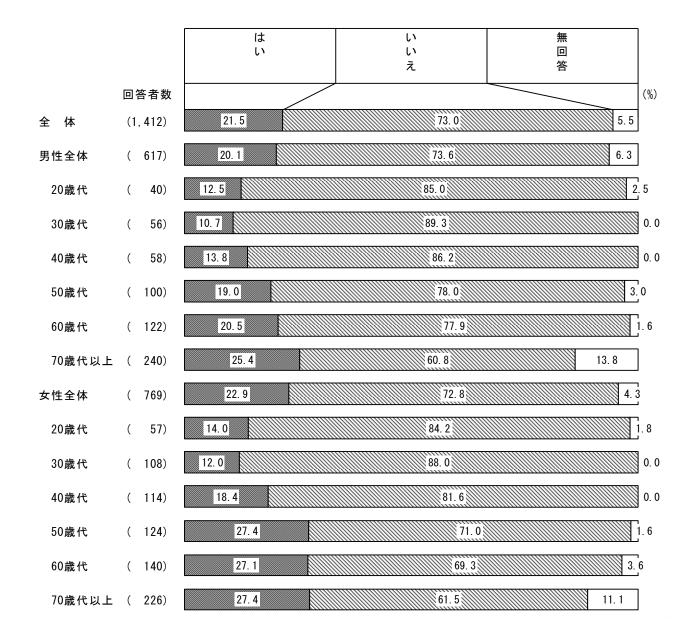
性・年代別では、男女ともすべての年代で「いいえ」が「はい」を上回り、男性 70 歳代以上(48.8%)を除き過半数を占めている。「はい」は年代が上がるにつれ増加する傾向がみられる。



ウ お茶や汁物などでむせることがある

全体では、「はい」が21.5%、「いいえ」が73.0%となっている。

性・年代別では、男女ともすべての年代で「いいえ」が6割以上を占めている。「はい」は男性60歳代以上、女性50歳代以上で2割台となっている。

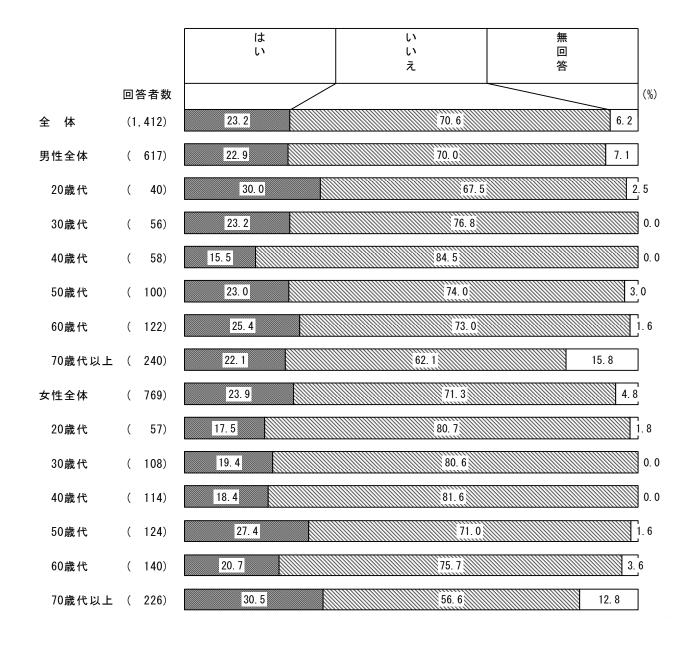


第2章 調査結果の詳細

エ 口の渇きが気になる

全体では、「はい」が23.2%、「いいえ」が70.6%となっている。

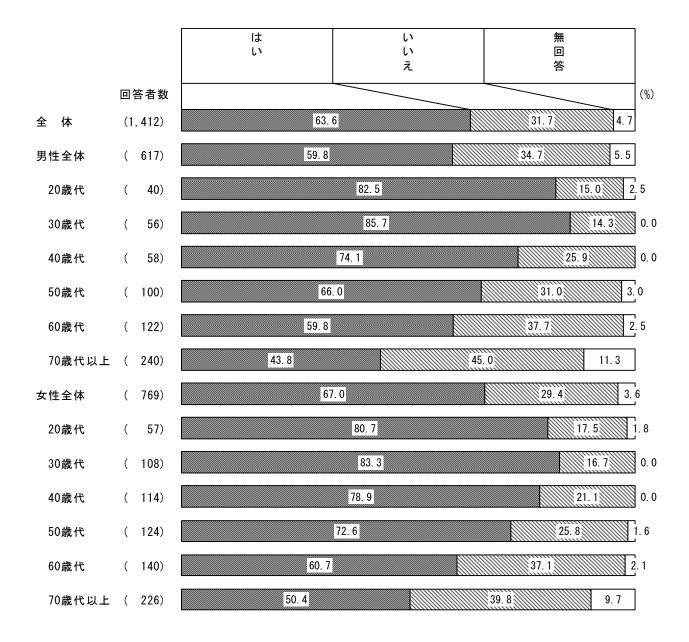
性・年代別では、男女ともすべての年代で「いいえ」が過半数を占めている。「はい」は男性は 20 歳代 (30.0%)、女性は 70 歳代以上 (30.5%) で最も高くなっている。



オ 左右両方の奥歯でしっかり噛みしめられる

全体では、「はい」が63.6%、「いいえ」が31.7%となっている。

性・年代別では、「はい」は男性70歳代以上(43.8%)を除き過半数を占めているが、男女とも30歳代以降は年代が上がるにつれ減少する傾向にある。

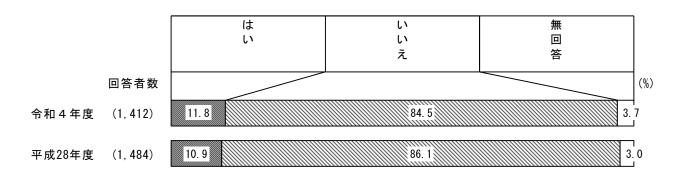


(4) 歯ぐきの状態

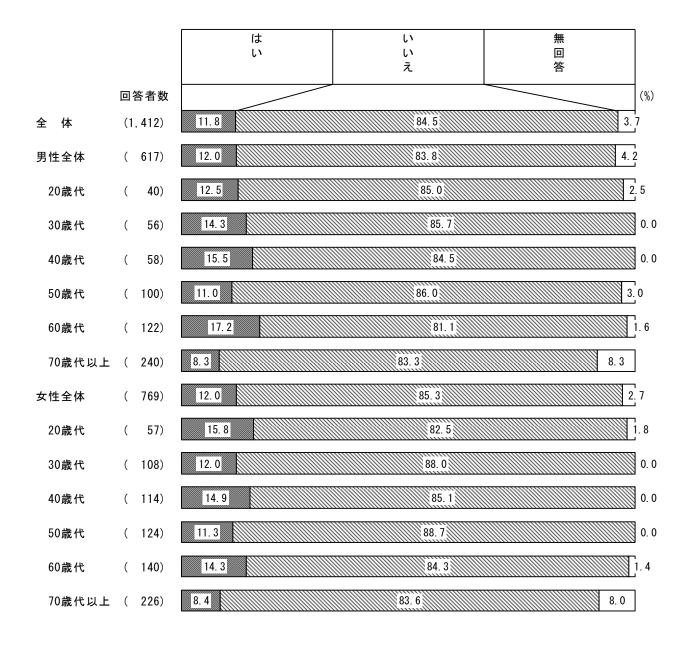
問34 歯ぐきの状態について、お答えください。 (次のア〜イの項目について、〇はそれぞれ1つだけ)

ア 歯ぐきが腫れている

歯ぐきが腫れている状態については、「はい」が 11.8%、「いいえ」が 84.5%となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



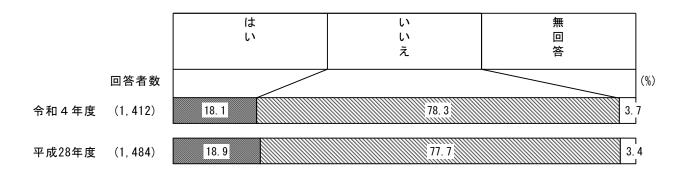
性・年代別では、男女ともすべての年代で「いいえ」が8割台となっている。



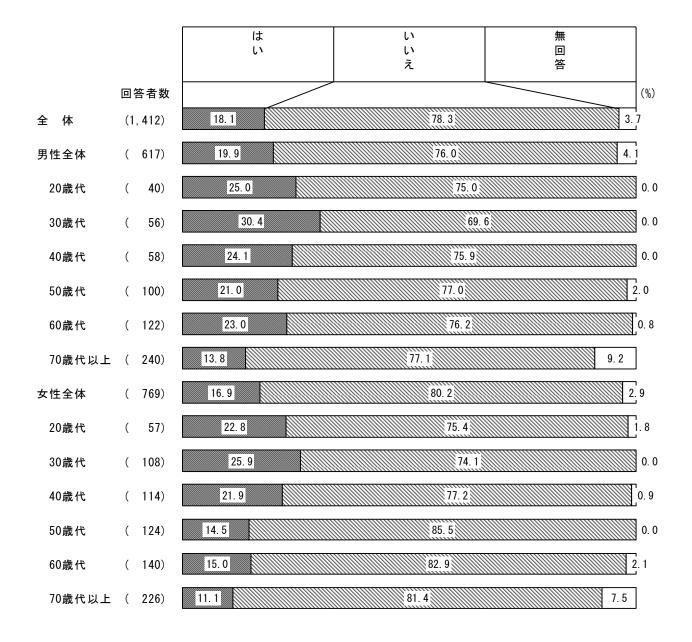
第2章 調査結果の詳細

イ 歯を磨いた時に血が出る

歯を磨いた時に血が出る状態については、「はい」が 18.1%、「いいえ」が 78.3%となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



性・年代別では、男性 30 歳代(69.6%)を除き、男女とも「いいえ」が7割以上を占めている。「はい」は男女とも30歳代が最も高く、男性20~60歳代、女性20~40歳代で2割を超えている。



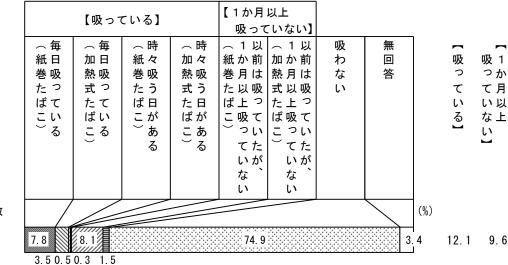
第2章 調査結果の詳細

4. たばこ・アルコール

(1) 喫煙の状況

問35 習慣的にたばこ(加熱式たばこを含む)を吸っていますか。(最も近いもの1つに〇)

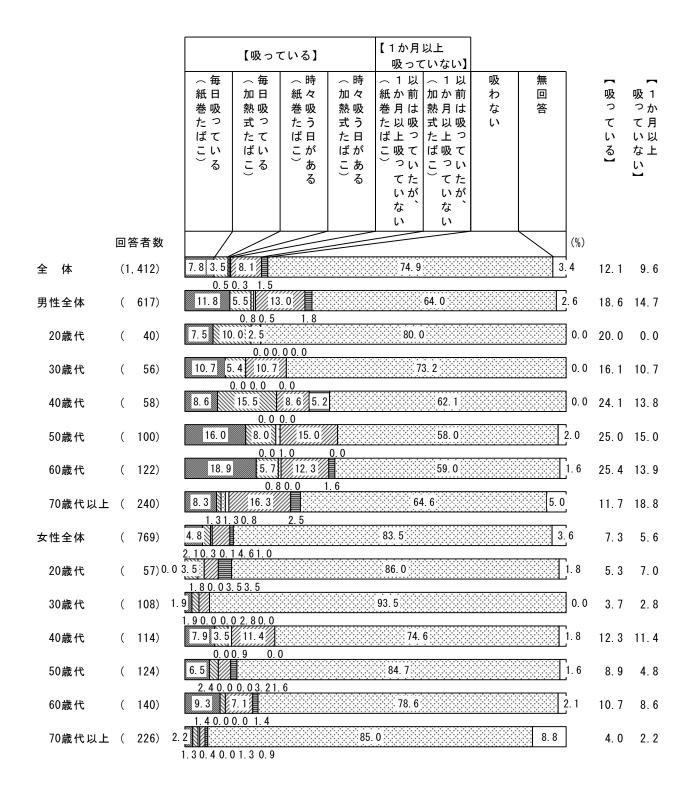
喫煙の状況については、「吸わない」が 74.9%と最も高く、次いで「以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない (紙巻たばこ)」(8.1%)、「毎日吸っている (紙巻たばこ)」(7.8%)、「毎日吸っている (加熱式たばこ)」(3.5%) の順となっている。



回答者数 令和 4 年度 (1, 412)

参考資料 毎 時 1 以 吸 無 日 Þ か前 ゎ 回 吸 吸 月は な 答 っ う 以吸 L 上っ て 日 い が 吸て つい あ てた いが な い (%) 回答者数 8.4 13.5 平成28年度 (1,484) 75.8 1.1 ※平成28年度は、「紙巻たばこ」「加熱式たばこ」の区別をせずに質問しているため、参考値として記載

性・年代別では、男女ともすべての年代で「吸わない」が過半数を占めている。「吸わない」は女性 (83.5%) が男性 (64.0%) を 19.5 ポイント上回っている。「吸っている」は男性 20 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代で2割を超えている。

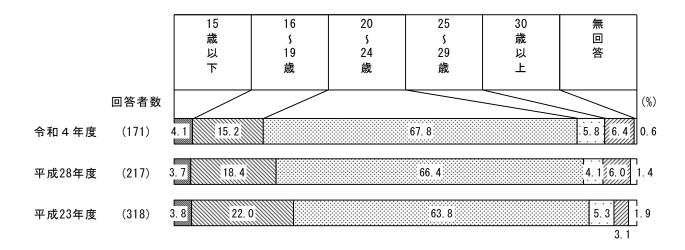


(2) たばこを吸うようになった年齢

付問35-1 たばこを習慣的に吸うようになったのは、何歳頃からですか。

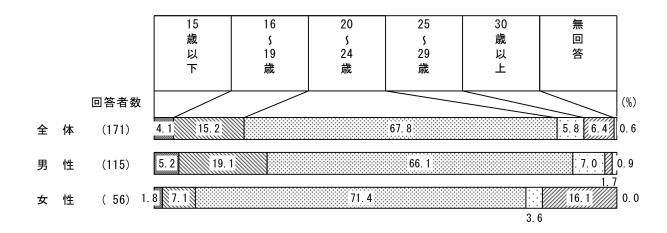
たばこを吸うようになった年齢については、「20~24歳」が 67.8%と最も高く、次いで「16~19歳」 (15.2%)、「30歳以上」(6.4%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 23 年度以降「20~24 歳」「30 歳以上」が増加傾向にある一方、「16~19 歳」は減少傾向にある。



たばこを吸うようになった年齢/性別

性別では、男性は「 $20\sim24$ 歳」が 66.1%と最も高く、次いで「 $16\sim19$ 歳」(19.1%)、「 $25\sim29$ 歳」(7.0%)の順となっている。女性は「 $20\sim24$ 歳」が 71.4%と最も高く、次いで「30 歳以上」(16.1%)、「 $16\sim19$ 歳」(7.1%)の順となっている。

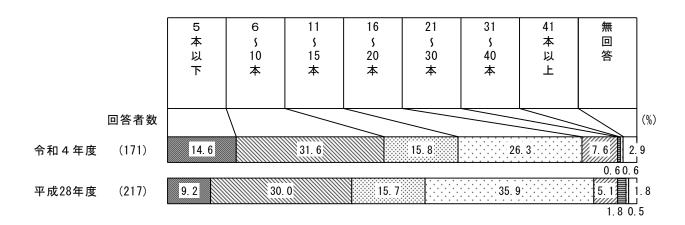


(3) 1日の喫煙量

付問 35-2 1日何本吸っていますか。

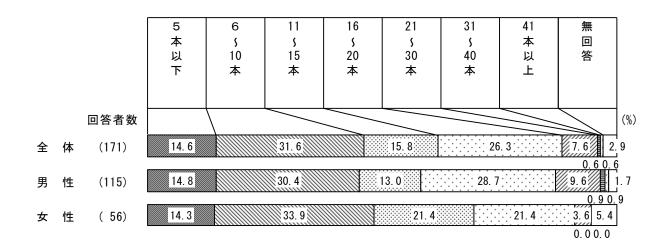
1日の喫煙量については、「6~10本」が31.6%と最も高く、次いで「16~20本」(26.3%)、「11~15本」(15.8%)、「5本以下」(14.6%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ、「5 本以下」が 5.4 ポイント増加する一方、「16~20 本」は 9.6 ポイント減少している。



1日の喫煙量/性別

性別では、男性は「 $6\sim10$ 本」が 30.4%と最も高く、次いで「 $16\sim20$ 本」(28.7%)、「5 本以下」 (14.8%)、「 $11\sim15$ 本」(13.0%)、の順となっている。女性は「 $6\sim10$ 本」が 33.9%と最も高く、次いで「 $11\sim15$ 本」「 $16\sim20$ 本」(6 21.4%)、「5 本以下」(14.3%) の順となっている。

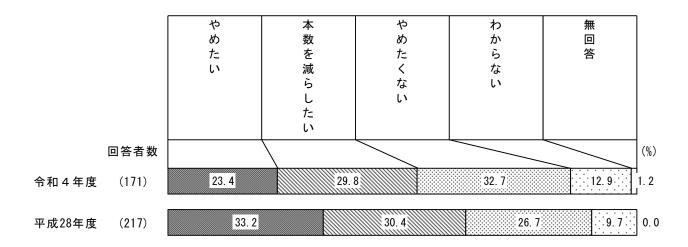


(4) たばこをやめたいと思うか

付問 35-3 たばこをやめたいと思いますか。

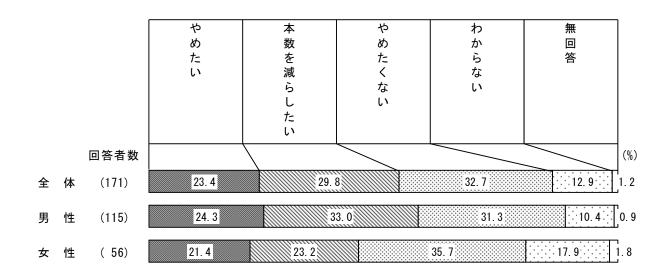
たばこをやめたいと思うかについては、「やめたくない」が 32.7%と最も高く、次いで「本数を減らしたい」(29.8%)、「やめたい」(23.4%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ「やめたくない」が 6.0 ポイント増加する一方、「やめたい」は 9.8 ポイント減少している。



たばこをやめたいと思うか/性別

性別では、男性は「本数を減らしたい」が 33.0% と最も高く、次いで「やめたくない」(31.3%)、「やめたい」(24.3%) の順となっている。女性は「やめたくない」が 35.7% と最も高く、次いで「本数を減らしたい」(23.2%)、「やめたい」(21.4%) の順となっている。

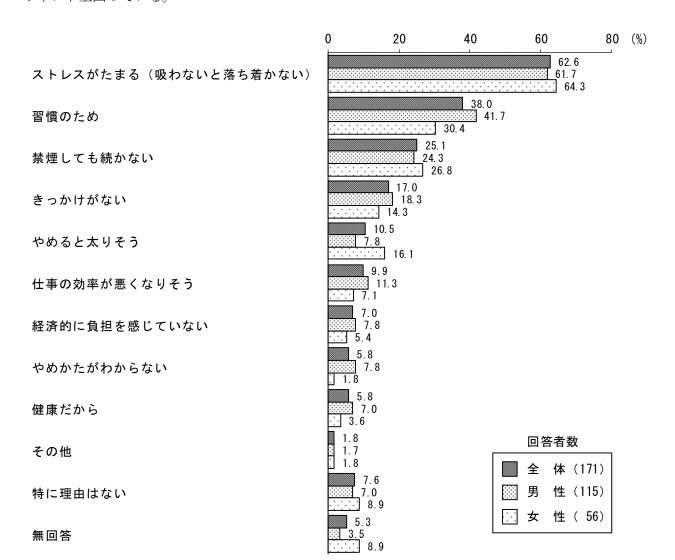


(5) たばこをやめられない理由

付問 35-4 たばこをやめたくない(やめられない)と思う理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに〇)

たばこをやめられない理由については、「ストレスがたまる(吸わないと落ち着かない)」が 62.6% と最も高く、次いで「習慣のため」(38.0%)、「禁煙しても続かない」(25.1%)、「きっかけがない」(17.0%)の順となっている。

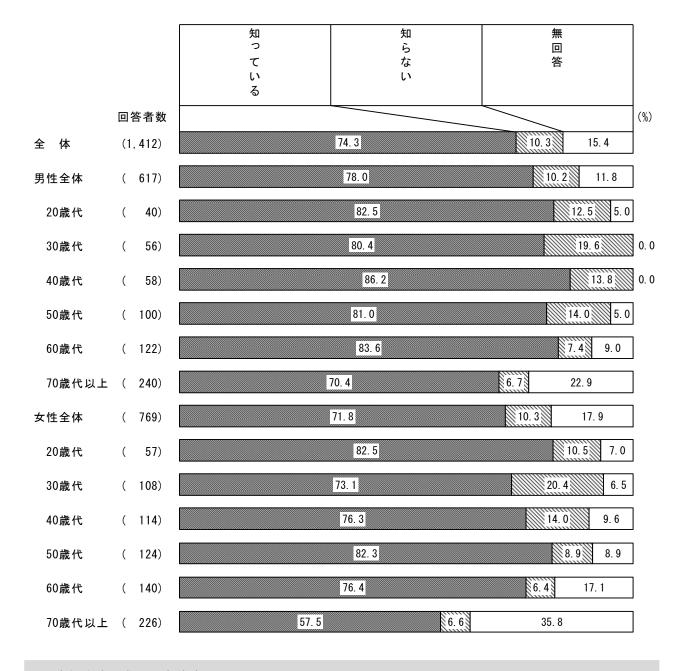
性別では、男性全体、女性全体とも上位 3項目は全体と共通で、1位の「ストレスがたまる(吸わないと落ち着かない)」が 6割台となっている。男性は「習慣のため」(41.7%)が女性(30.4%)を 11.3ポイント上回り、「やめかたがわからない」「仕事の効率が悪くなりそう」「きっかけがない」なども女性より高くなっている。一方、「やめると太りそう」は女性(16.1%)で 4位となり、男性(7.8%)を 8.3ポイント上回っている。



(6) 配慮義務の認知

問 36 喫煙をする際には、屋外(路上等を含む)であっても周囲の状況に配慮しなければならない、 配慮義務*があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

配慮義務の認知については、全体では、「知っている」が 74.3%、「知らない」が 10.3%となっている。性・年代別では、男女ともすべての年代で「知っている」が過半数を占め、女性 70 歳代以上 (57.5%)を除き 7 割以上となっている。「知っている」は男性 (78.0%) が女性 (71.8%) を 6.2 ポイント上回り、40 歳代、70 歳代以上では 1 割前後の差が生じている。



※喫煙をする際の配慮義務

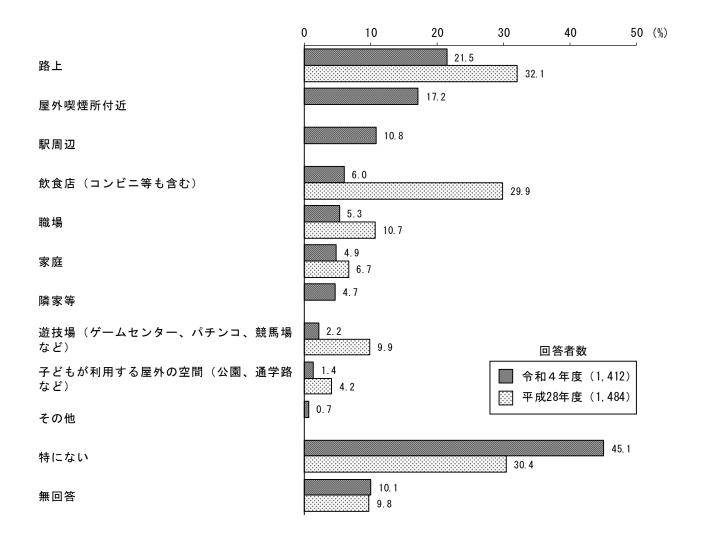
喫煙禁止場所以外の場所において喫煙をする際、望まない受動喫煙を生じさせることがないよう 周囲の状況に配慮しなければなりません。

(7) 受動喫煙の機会が多いと感じた場所

問37 この1か月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)が多いと感じた場所はありましたか。(あてはまるものすべてに○)

受動喫煙の機会が多いと感じた場所については、「路上」が 21.5%と最も高く、次いで「屋外喫煙所付近」(17.2%)、「駅周辺」(10.8%)、「飲食店 (コンビニ等も含む)」(6.0%)の順となっている。一方、「特にない」は 45.1%となっている。

過去の調査結果と比較すると、既存の項目はいずれも平成 28 年度を下回り、「飲食店(コンビニ等も含む)」は 23.9 ポイント、「路上」は 10.6 ポイント、「遊技場(ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)」(2.2%)は 7.7 ポイント、「職場」(5.3%)は 5.4 ポイント減少している。一方、「特にない」は 14.7 ポイント増加した。



受動喫煙の機会が多いと感じた場所/性・年代別

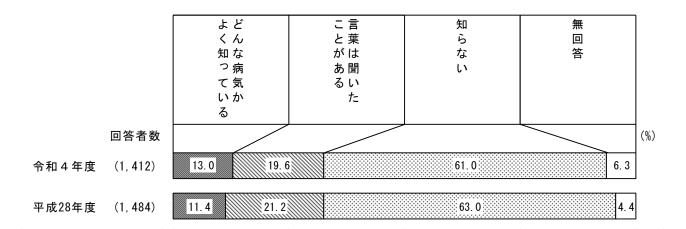
性・年代別では、男性全体、女性全体とも上位 3 項目は全体と共通で、男性 $40\sim60$ 歳代と女性 40 歳代 (30.7%: 同率)、女性 <math>70 歳代以上 (11.1%: 同率) は「屋外喫煙所付近」、それ以外は「路上」が 1 位となっている。一方、「特にない」は男性 70 歳代以上 (53.3%) と女性 60 歳代 (52.1%) で 5 割を超え、男女ともすべての年代で 3 割以上を占めており、30 歳代を除き「路上」を上回っている。

													(%)
	回答者数	路上	屋外喫煙所付近	駅周辺	飲食店(コンビニ等も含む)	職場	家庭	隣家等	パチンコ、 競馬場など)遊技場(ゲームセンター、	(公園、通学路など)子どもが利用する屋外の空間	その他	特にない	無回答
全体	1, 412	21.5	17. 2	10.8	6.0	5. 3	4. 9	4. 7	2. 2	1.4	0.7	45. 1	10. 1
男性全体	617	19. 1	17.8	10. 5	7.8	7. 5	1.8	3.6	2. 8	0.6	0.8	47. 6	9.6
20歳代	40	27. 5	20.0	17.5	17.5	20. 0	2. 5	0.0	5. 0	2. 5	0.0	35. 0	2. 5
30歳代	56	39. 3	17.9	19. 6	12.5	12. 5	3.6	10. 7	1.8	3.6	0.0	35. 7	0.0
40歳代	58	24. 1	25. 9	12. 1	3.4	20. 7	1.7	3.4	0.0	0.0	1.7	44. 8	0.0
50歳代	100	19.0	23.0	12. 0	12.0	13. 0	1.0	2. 0	3.0	1.0	2. 0	47. 0	5.0
60歳代	122	19. 7	29. 5	11. 5	8.2	4. 1	1.6	4. 1	1.6	0.0	0.0	47. 5	4. 1
70歳代以上	240	11. 7	7.5	5. 8	4. 2	0. 4	1.7	2. 9	3.8	0.0	0.8	53.3	20.0
女性全体	769	23. 0	16.8	10. 4	4.4	3. 6	7.4	5. 2	1.7	1.7	0. 7	43.8	10. 1
20歳代	57	31. 6	21.1	28. 1	12.3	5. 3	8.8	1.8	1.8	0.0	1.8	36.8	3.5
30歳代	108	38. 9	15.7	17.6	3.7	8. 3	8.3	8.3	0.0	4.6	0.0	33. 3	1.9
40歳代	114	30. 7	30.7	10. 5	7.9	4. 4	8.8	7.0	3. 5	4.4	0.0	35. 1	2. 6
50歳代	124	25. 8	16.9	8. 9	4.0	2. 4	9.7	6.5	2. 4	0.0	1.6	47. 6	3. 2
60歳代	140	17. 9	13.6	7. 1	2. 9	2. 9	5.7	3.6	2. 9	0.0	0.7	52. 1	10. 7
70歳代以上	226	11. 1	11. 1	5. 3	2. 2	1.8	5.8	4. 0	0.4	1.3	0.4	47. 8	23. 0

(8) COPDという病気の認知度

問 38 COPD*(シーオーピーディー)(慢性閉塞性肺疾患)という病気を知っていますか。 (Oは1つだけ)

COPDという病気の認知度については、「知らない」が 61.0%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」(19.6%)、「どんな病気かよく知っている」(13.0%)の順となっている。 過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。

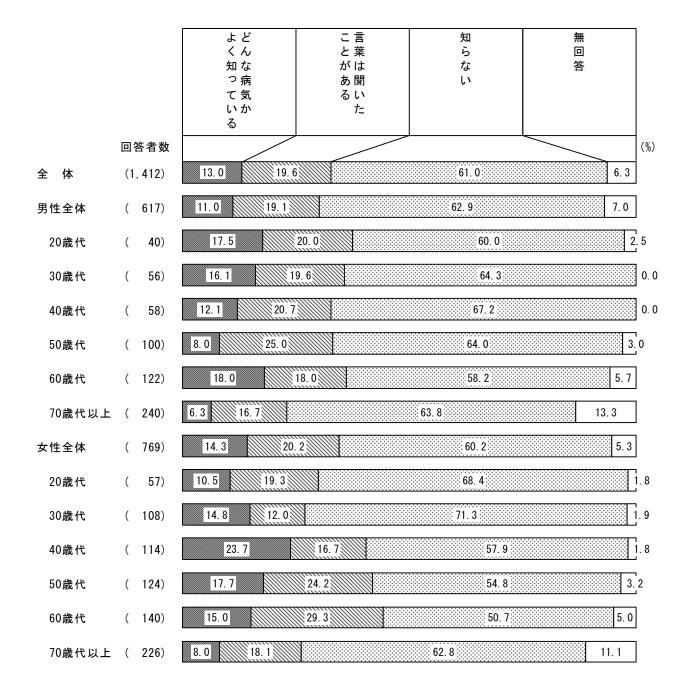


***COPD**

肺の機能が低下し、呼吸困難を招く病気です。最大の原因は「喫煙」であり、『たばこ病』とも呼ばれており、特に10年以上喫煙を続けている人やヘビースモーカーはリスクが高くなります。

COPDという病気の認知度/性・年代別

性・年代別では、男女ともすべての年代で「知らない」が過半数を占め、女性 30 歳代 (71.3%) は7割を超えている。一方、「どんな病気かよく知っている」は男性は 60 歳代 (18.0%)、女性は 40 歳代 (23.7%) が最も高くなっている。

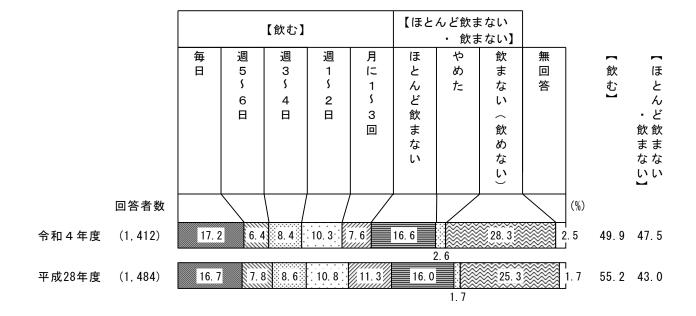


(9) 飲酒の状況

問39 週に何日位お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(〇は1つだけ)

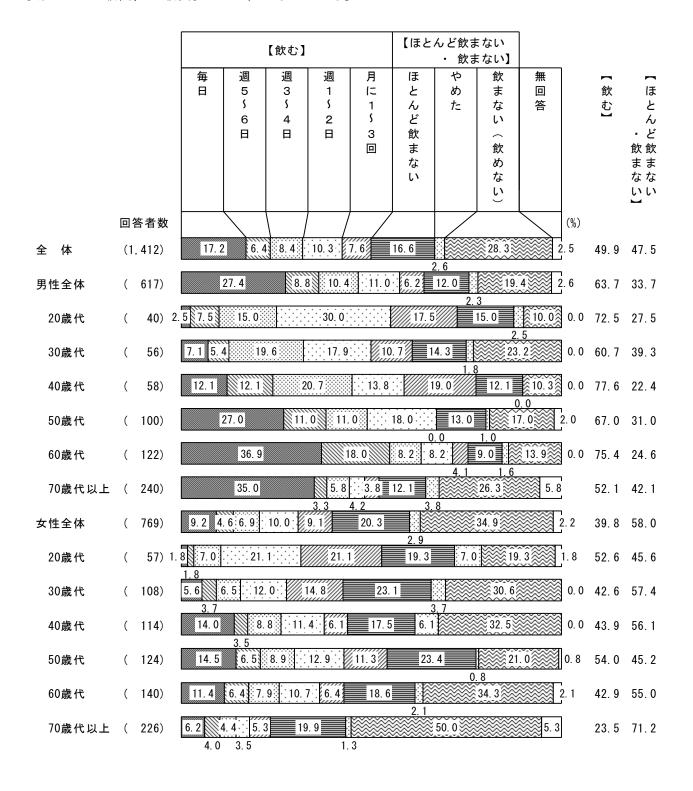
飲酒の状況については、「飲まない(飲めない)」が 28.3% と最も高く、次いで「毎日」(17.2%)、「ほとんど飲まない」(16.6%)、「週 $1 \sim 2$ 日」(10.3%) の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ、「飲まない(飲めない)」が 3.0 ポイント増加する 一方、「月に $1 \sim 3$ 回」 (7.6%) は 3.7 ポイント減少している。



飲酒の状況/性・年代別

性・年代別では、男性は「毎日」(27.4%)、女性は「飲まない(飲めない)」(34.9%)が最も高く、それぞれ他方より1割以上高くなっている。女性は「ほとんど飲まない」(20.3%)も男性(12.0%)を8.3 ポイント上回っている。男性は年代が上がるにつれ「毎日」が増加する傾向にあり、60歳代以上で3割を超える。「毎日」は男性50歳代以上で1位となっている。「飲まない(飲めない)」は女性70歳以上(50.0%)で5割、女性30~40歳代、60歳代(34.3%)で3割台を占め、男性30歳代(23.2%)と女性30~40歳代、60歳代以上で1位となっている。

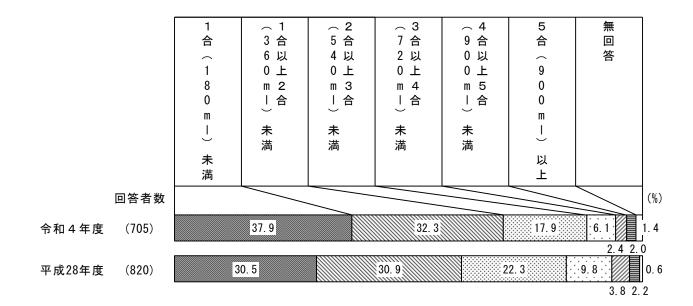


(10) 飲酒量

付問 39-1 お酒を飲む日は 1 日あたり、清酒に換算してどれくらいの量を飲みますか。 (〇は 1 つだけ)

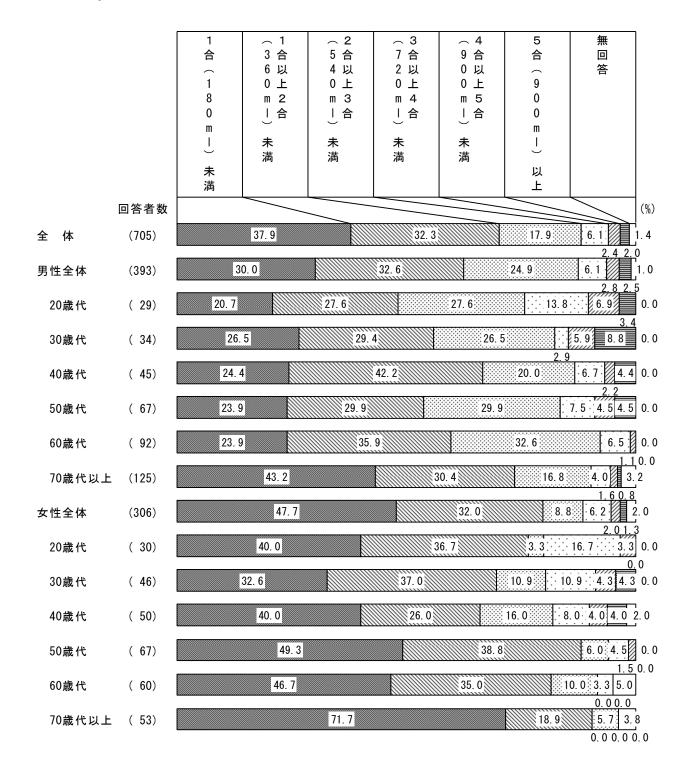
飲酒量については、「1合(180ml)未満」が 37.9%と最も高く、次いで「1合以上2合(360ml)未満」(32.3%)、「2合以上3合(540ml)未満」(17.9%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ、「1 合 (180ml) 未満」が 7.4 ポイント増加する一方、「2 合以上 3 合 (540ml) 未満」は 4.4 ポイント、「3 合以上 4 合 (720ml) 未満」 (6.1%) は 3.7 ポイント減少している。



飲酒量/性・年代別

性・年代別では、男性は「1合以上2合(360ml)未満」(32.6%)が最も高く、30~60歳代などで1位となっている。女性は「1合(180ml)未満」(47.7%)が最も高く、30歳代(32.6%)を除き1位となっている。



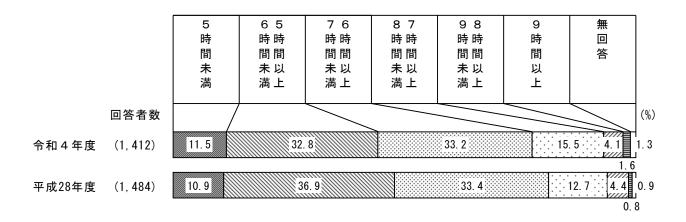
5. 休養・こころの健康

(1) 1日の平均睡眠時間

問40 ここ1か月間、1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか。(〇は1つだけ)

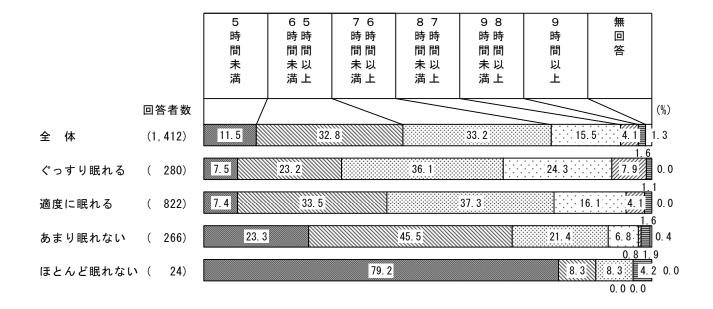
1日の平均睡眠時間については、「6時間以上7時間未満」が33.2%と最も高く、次いで「5時間以上6時間未満」(32.8%)、「7時間以上8時間未満」(15.5%)、「5時間未満」(11.5%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成28年度と比べ、「5時間以上6時間未満」は4.1ポイント減少している。



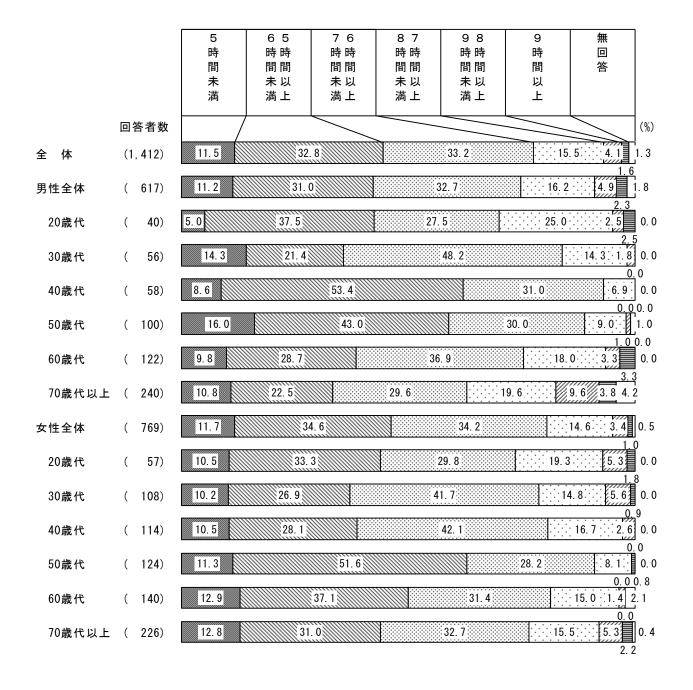
1日の平均睡眠時間/睡眠状況別

睡眠状況別では、「5時間未満」は「ほとんど眠れない」で 79.2%を占める一方、「ぐっすり眠れる」 (7.5%)、「適度に眠れる」(7.4%) は1割未満となっている。「6時間以上7時間未満」は「ぐっすり 眠れる」(36.1%)、「適度に眠れる」(37.3%) で3割を超える。



1日の平均睡眠時間/性・年代別

性・年代別では、男女ともすべての年代で「5時間以上6時間未満」と「6時間以上7時間未満」の合計が過半数、上位2項目を占めている。男性は「6時間以上7時間未満」(32.7%)が最も高く、30歳代(48.2%)で5割近くを占め、60歳代以上も1位となっている。女性は「5時間以上6時間未満」(34.6%)が最も高く、50歳代(51.6%)で5割を超え、20歳代(33.3%)、60歳代(37.1%)も1位となっている。「5時間以上6時間未満」は男性40~50歳代も4~5割台となっている。

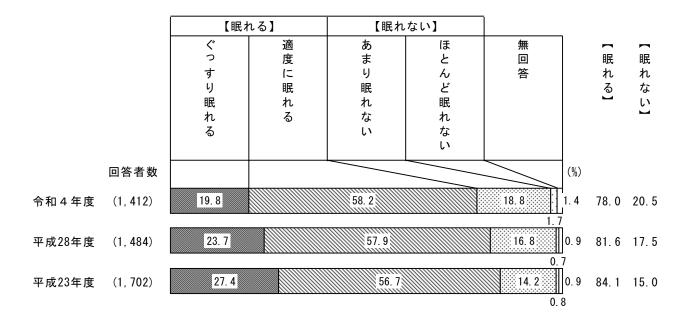


(2) よく眠ることができているか

問 41 普段、よく眠ることはできますか。(Oは 1 つだけ)

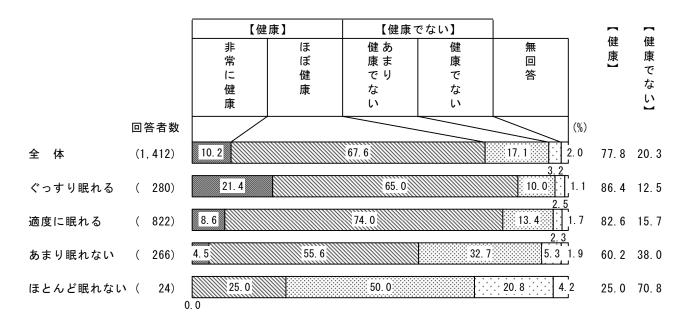
普段、よく眠ることができているかについては、「適度に眠れる」が 58.2%で最も高く、「ぐっすり眠れる」(19.8%) と合わせた【眠れる】は 78.0%となっている。一方、【眠れない】(「あまり眠れない」と「ほとんど眠れない」の合計) は 20.5%となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成23年度以降、【眠れる】が減少し、【眠れない】が増加する傾向にある。また、「ぐっすり眠れる」は平成28年度と比べ3.9ポイント減少している。



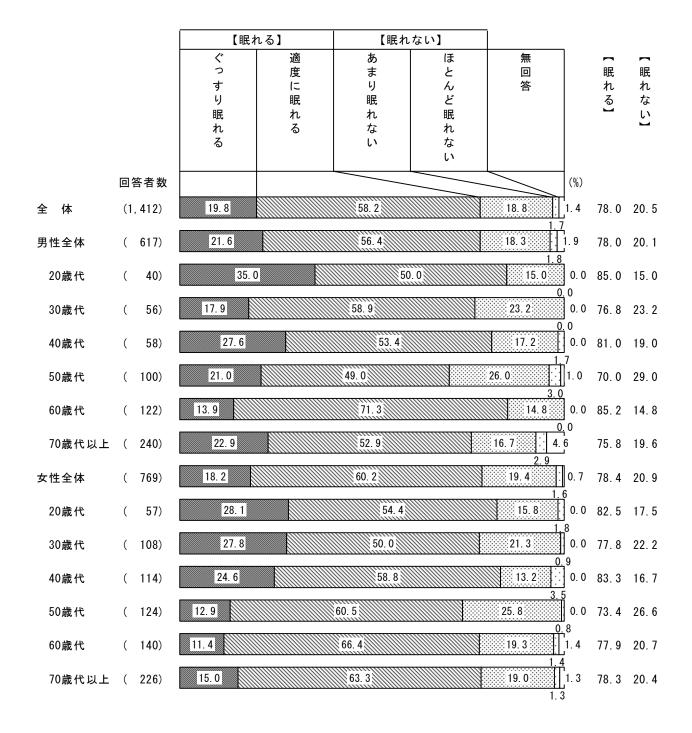
自分の健康状態/睡眠状況別

睡眠状況別では、「非常に健康」は「ぐっすり眠れる」で 21.4%を占め、「ほぼ健康」と合わせた【健康】は、「ぐっすり眠れる」(86.4%)、「適度に眠れる」(82.6%) で 8割を超える。



よく眠ることができているか/性・年代別

性・年代別では、男女ともすべての年代で「適度に眠れる」が最も高く、男性 50 歳代 (49.0%) を除き5割以上となっている。【眠れる】は男女ともすべての年代で7割以上を占め、男性は60歳代(85.2%)、女性は40歳代(83.3%)が最も高くなっている。一方、【眠れない】は男性は50歳代(29.0%)、女性は50歳代(26.6%)が最も高くなっている。

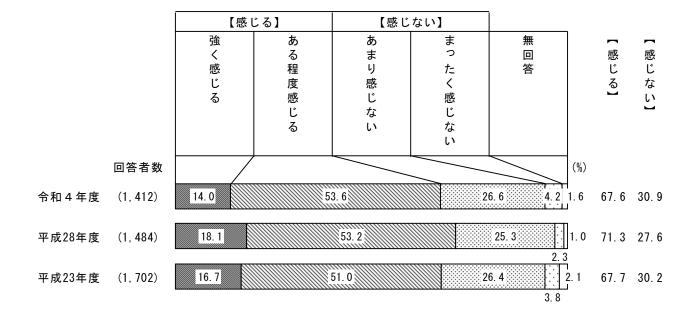


(3) ストレスを感じるか

問 42 最近、どの程度ストレスを感じていますか。(Oは1つだけ)

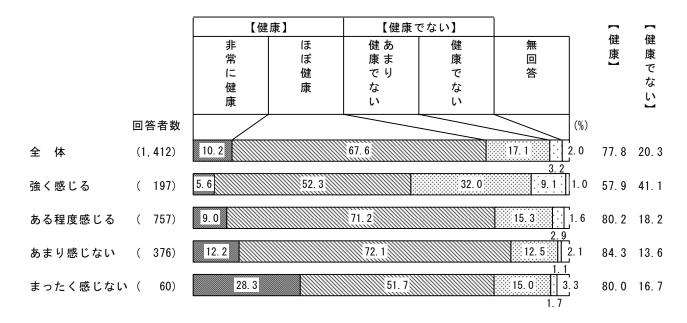
ストレスを感じるかについては、「ある程度感じる」が 53.6%で最も高く、「強く感じる」(14.0%) と合わせた【感じる】は 67.6%となっている。一方、【感じない】(「あまり感じない」と「まったく感じない」の合計) は 30.9%となっている。

過去の調査結果と比較すると、「強く感じる」は平成28年度を4.1ポイント下回っている。



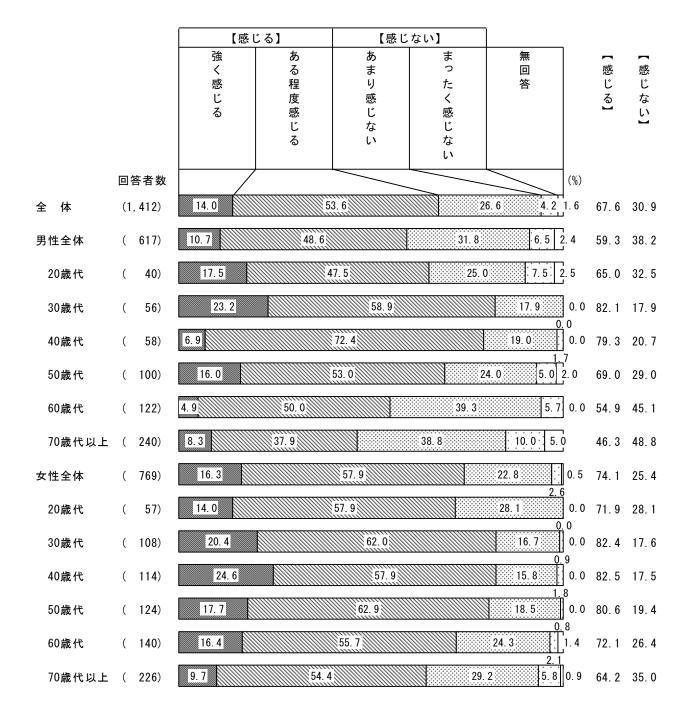
自分の健康状態/ストレスの程度別

ストレスの程度別では、「非常に健康」は「まったく感じない」で 28.3%を占め、「ほぼ健康」と合わせた【健康】は「まったく感じない」(80.0%)、「あまり感じない」(84.3%)、「ある程度感じる」(80.2%)で 8割台となっている。一方、「強く感じる」(57.9%)は【健康】が全体を約 2割下回っている。



ストレスを感じるか/性・年代別

性・年代別では、「ある程度感じる」が男性 70 歳以上 (37.9%) を除き 1 位となっている。【感じる】 は男性 30~40 歳代、女性 30~50 歳代で 8 割前後を占める。

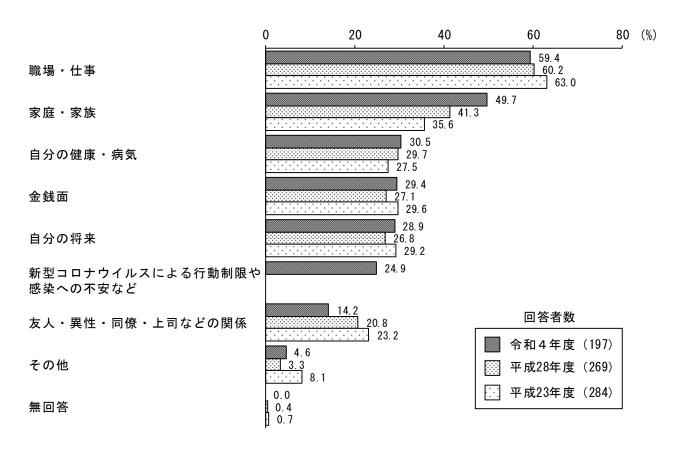


(4) ストレスの主な原因

付問 42-1 ストレスの主な原因は何だと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

ストレスの主な原因については、「職場・仕事」が 59.4% と最も高く、次いで「家庭・家族」(49.7%)、「自分の健康・病気」(30.5%)、「金銭面」(29.4%) の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「職場・仕事」、「友人・異性・同僚・上司などの関係」(14.2%) が減少傾向にある一方、「家庭・家族」は平成28年度を8.4ポイント上回り、平成23年度以降増加傾向にある。



ストレスの主な原因/性・年代別

性・年代別では、男性は「職場・仕事」(65.2%)が最も高く、女性(55.2%)を10.0ポイント上回っている。一方、女性は「家庭・家族」(58.4%)が男性(31.8%)を26.6ポイント上回り、最も高くなっている。女性は「新型コロナウイルスによる行動制限や感染への不安など」(31.2%)も男性(15.2%)を16.0ポイント上回っている。

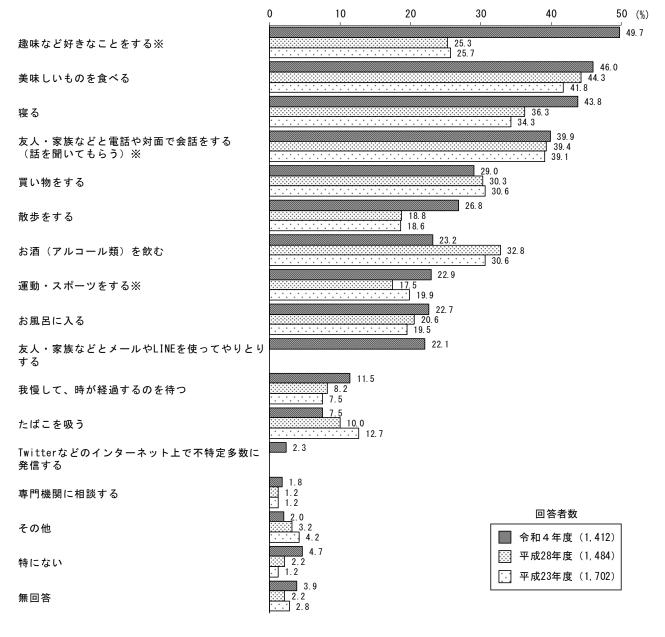
										(%)
	回答者数	職場・仕事	家庭・家族	自分の健康・病気	金銭面	自分の将来	や感染への不安など新型コロナウイルスによる行動制限	友人・異性・同僚・上司などの関係	その他	地回 独
全体	197	59. 4	49. 7	30. 5	29. 4	28. 9	24. 9	14. 2	4. 6	0.0
男性全体	66	65. 2	31.8	31.8	28. 8	27. 3	15. 2	12. 1	4. 5	0.0
20歳代	7	57. 1	57. 1	14. 3	14. 3	42. 9	0.0	14. 3	0.0	0.0
30歳代	13	100.0	7.7	15. 4	23. 1	23. 1	7.7	30.8	0.0	0.0
40歳代	4	100.0	25. 0	25. 0	75. 0	75. 0	0.0	50. 0	0.0	0.0
50歳代	16	93.8	37.5	25. 0	18. 8	37. 5	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	6	83. 3	16. 7	16. 7	66. 7	16. 7	16. 7	16. 7	0.0	0.0
70歳代以上	20	10.0	40.0	60. 0	25. 0	10.0	40.0	0.0	15. 0	0.0
女性全体	125	55. 2	58. 4	31. 2	29. 6	29. 6	31. 2	16.0	4. 8	0.0
20歳代	8	75. 0	25. 0	25. 0	25. 0	50. 0	12. 5	0.0	0.0	0.0
30歳代	22	72. 7	86.4	27. 3	36. 4	36. 4	27. 3	18. 2	0.0	0.0
40歳代	28	67. 9	57. 1	32. 1	32. 1	32. 1	28. 6	21. 4	3. 6	0.0
50歳代	22	77. 3	59. 1	27. 3	31.8	27. 3	22. 7	9. 1	0.0	0.0
60歳代	23	39. 1	60. 9	30. 4	26. 1	30. 4	39. 1	17. 4	4. 3	0.0
70歳代以上	22	9. 1	40.9	40. 9	22. 7	13. 6	4 5. 5	18. 2	18. 2	0.0

(5) ストレスの対処法

問 43 ストレスの対処法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

ストレスの対処法については、「趣味など好きなことをする」が 49.7%と最も高く、次いで「美味しいものを食べる」(46.0%)、「寝る」(43.8%)、「友人・家族などと電話や対面で会話をする(話を聞いてもらう)」(39.9%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ「趣味など好きなことをする」は 24.4 ポイント、「寝る」は 7.5 ポイント増加し、上位 4 項目はいずれも平成 23・28 年度を上回っている。また、「散歩をする」(26.8%) は 8.0 ポイント、「運動・スポーツをする」(22.9%) は 5.4 ポイント、平成 28 年度を上回った。一方、「お酒(アルコール類)を飲む」(23.2%) は平成 28 年度と比べ 9.6 ポイント減少している。



※平成28年度までは、「趣味など好きなことをする」は「趣味に打ち込む」、

「友人・家族などと電話や対面で会話をする(話を聞いてもらう)」は「友人・家族等と会話する(話を聞いてもらう)」、「運動・スポーツをする」は「スポーツをする」としていた。

ストレスの対処法/性・年代別

性・年代別では、男性は「趣味など好きなことをする」(51.1%)が最も高く、20歳代(67.5%)、50歳代(55.0%)、70歳代以上(48.3%)で1位となっている。女性は「美味しいものを食べる」(54.7%)が男性(35.8%)を18.9ポイント上回り最も高く、 $20\sim50$ 歳代で1位となっている。「お酒(アルコール類)を飲む」は男性 $20\sim60$ 歳代で3割を超え、男性(34.5%)が女性(14.7%)を19.8ポイント上回っている。一方、女性は「友人・家族などと電話や対面で会話をする(話を聞いてもらう)」(51.5%)、「買い物をする」(39.8%)、「友人・家族などとメールやLINEを使ってやりとりする」(31.1%)が男性を2割以上上回っている。

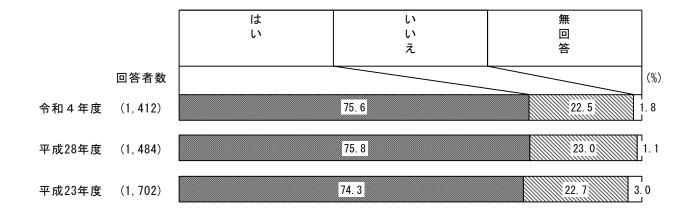
																		(%)
	回答者数	趣味など好きなことをする	美味しいものを食べる	寝る	話をする(話を聞いてもらう)友人・家族などと電話や対面で会	買い物をする	散歩をする	お酒(アルコール類)を飲む	運動・スポー ツをする	お風呂に入る	LINEを使ってやりとりする友人・家族などとメールや	我慢して、時が経過するのを待つ	たばこを吸う	ネット上で不特定多数に発信するTwitterなどのインター	専門機関に相談する	その他	特にない	無回答
全 体	1, 412	49. 7	46. 0	43.8	39. 9	29. 0	26. 8	23. 2	22. 9	22. 7	22. 1	11.5	7. 5	2. 3	1.8	2. 0	4. 7	3. 9
男性全体	617	51. 1	35. 8	48. 5	25. 3	15. 7	31. 1	34.5	27.7	22. 9	10.5	9.9	11.8	1.1	0.3	1. 1	6.0	4. 5
20歳代	40	67. 5	52. 5	55. 0	52. 5	22. 5	20.0	37.5	35. 0	22. 5	22.5	17. 5	12. 5	0.0	0.0	2. 5	0.0	2. 5
30歳代	56	48. 2	60. 7	57. 1	28. 6	23. 2	12. 5	30.4	37. 5	21. 4	8.9	17. 9	10. 7	3. 6	0.0	0.0	3.6	0.0
40歳代	58	56. 9	48. 3	58. 6	19.0	25. 9	22. 4	43.1	36. 2	32. 8	13.8	13. 8	17. 2	1.7	0.0	3. 4	1.7	0.0
50歳代	100	55. 0	40. 0	42. 0	19.0	19.0	24. 0	42.0	34. 0	19. 0	7.0	8.0	17. 0	2. 0	0.0	0.0	6.0	2.0
60歳代	122	45. 9	32. 0	58. 2	30. 3	15. 6	30. 3	38. 5	27. 9	27. 0	7.4	10. 7	17. 2	0.8	0.0	3. 3	9.0	1.6
70歳代以上	240	48. 3	24. 6	40.8	21.7	9. 2	42. 9	27.5	19. 6	20. 4	11.3	5.8	5. 8	0.4	0.8	0.0	7. 1	9.6
女性全体	769	49. 2	54. 7	40. 2	51.5	39.8	23. 9	14. 7	19. 1	22. 6	31.1	12. 6	4. 3	3.4	2. 9	2. 7	3.6	3.0
20歳代	57	64. 9	71. 9	63. 2	59.6	63. 2	14. 0	15.8	19. 3	26. 3	38.6	12. 3	3. 5	12. 3	5.3	1.8	0.0	1.8
30歳代	108	55. 6	78. 7	68.5	50. 9	52. 8	20. 4	17. 6	19. 4	24. 1	29.6	16. 7	2. 8	9.3	3.7	1.9	0.0	0.0
40歳代	114	50. 0	64. 9	56. 1	58.8	46. 5	23. 7	23.7	20. 2	24. 6	31.6	16. 7	7. 9	4.4	4.4	6. 1	2. 6	0.9
50歳代	124	46. 8	54. 8	33. 9	52. 4	40. 3	21.8	22.6	22. 6	25. 0	36.3	10. 5	4. 0	1.6	2. 4	1.6	4. 8	1.6
60歳代	140	43. 6	48. 6	28. 6	50.0	35. 0	22. 9	12. 9	22. 9	16. 4	32. 1	7. 1	6. 4	0. 7	2. 1	2. 9	2. 1	4.3
70歳代以上	226	46. 5	37. 6	23. 5	46. 5	27. 0	30. 1	5.3	14. 2	22. 6	26.1	13. 3	2. 2	0.4	1.8	2. 2	7. 1	5.8

(6) 相談相手の有無

問 44 あなたや周りの人のこころの健康や悩みについて、相談できる人(家族や友人、専門家など) はいますか。(〇は1つだけ)

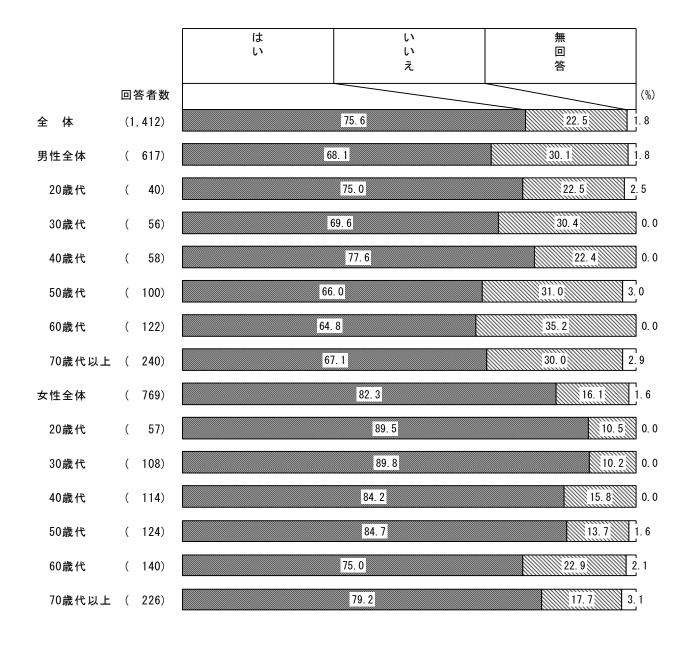
こころの健康や悩みについて相談できる人の有無については、「はい」が 75.6%、「いいえ」が 22.5% となっている。

過去の調査結果と比較すると、おおむね同様の傾向となっている。



相談相手の有無/性・年代別

性・年代別では、男女ともすべての年代で「はい」が 6割以上を占めている。「はい」は女性 (82.3%) が男性 (68.1%) を 14.2 ポイント上回り、男性は 40歳代 (77.6%)、女性は 30歳代 (89.8%) が最も高くなっている。一方、「いいえ」は男性 30歳代 (30.4%) と 50歳代以上で 3割台となっている。

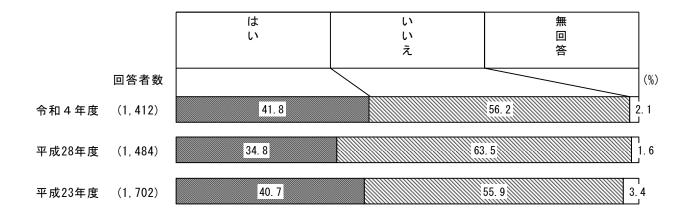


(7) 相談機関の認知度

問 45 あなたや周りの人のこころの健康や悩みについて、相談できる機関を知っていますか。 (〇は1つだけ)

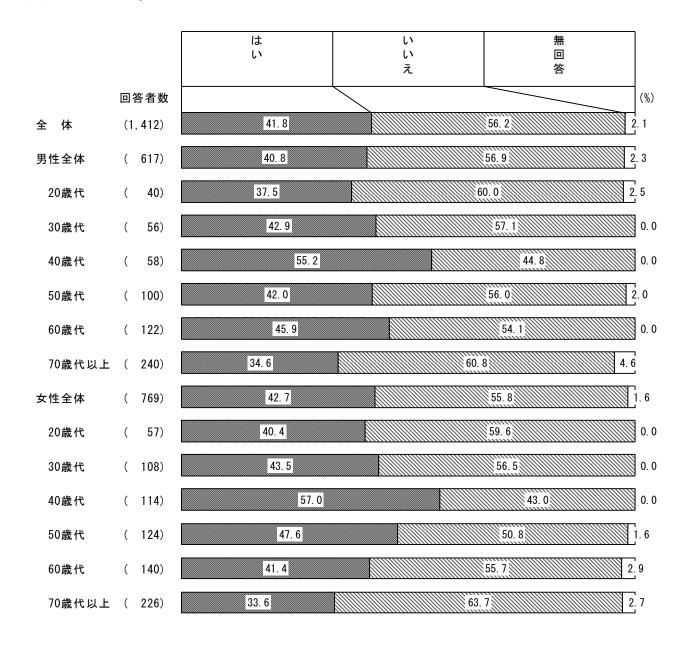
こころの健康や悩みを相談できる機関の認知度については、「はい」が 41.8%、「いいえ」が 56.2% となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成28年度と比べ、「はい」は7.0ポイント増加した。



相談機関の認知度/性・年代別

性・年代別では、男女とも 40 歳代を除き、「いいえ」が過半数を占めている。「はい」は 40 歳代が最も高く、男性 (55.2%)、女性 (57.0%) とも 5割台を占めるが、男性 20 歳代、男女 70 歳代以上では 3割台となっている。



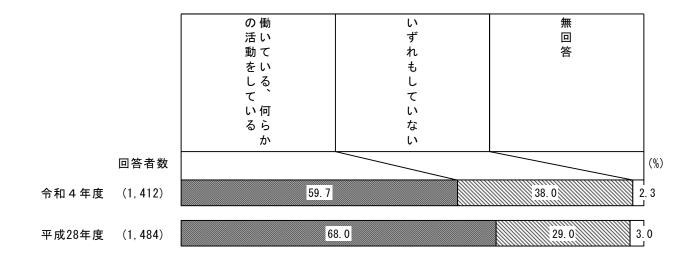
6. つながり

(1)活動状況

問 46 現在働いていますか。または、ボランティア活動、地域社会活動(町内会、地域行事など)、 趣味の活動をしていますか。(〇は1つだけ)

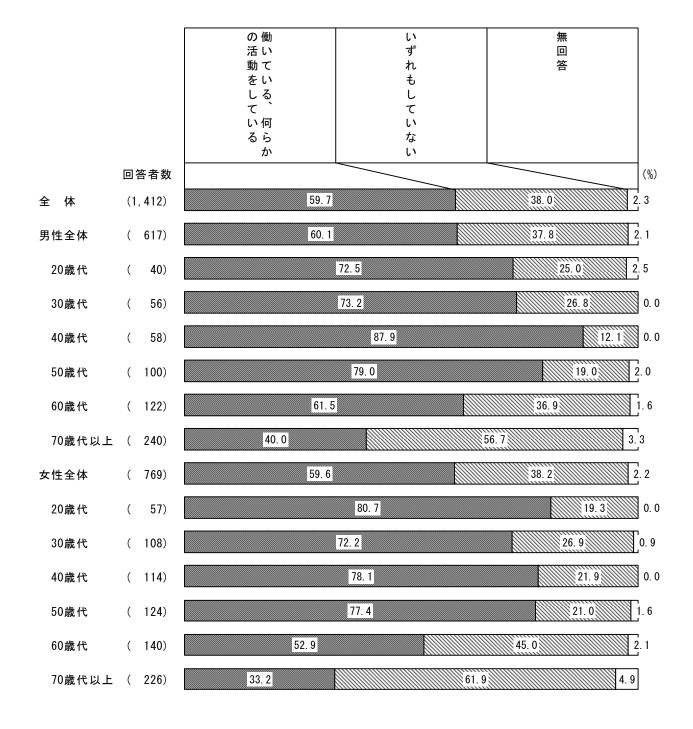
仕事、ボランティア活動、地域社会活動、趣味の活動状況については、「働いている、何らかの活動を している」が 59.7%、「いずれもしていない」が 38.0%となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度と比べ、「働いている、何らかの活動をしている」が 8.3 ポイント減少し、「いずれもしていない」は 9.0 ポイント増加した。



活動状況/性•年代別

性・年代別では、男女とも 70 歳代以上を除き「働いている、何らかの活動をしている」が過半数を占めている。「働いている、何らかの活動をしている」は男性は 40 歳代 (87.9%)、女性は 20 歳代 (80.7%) が 8 割台で最も高くなっている。一方、男女とも 40 歳代以降は年代が上がるにつれ減少する傾向にあり、70 歳代以上では「いずれもしていない」が過半数を占めている。

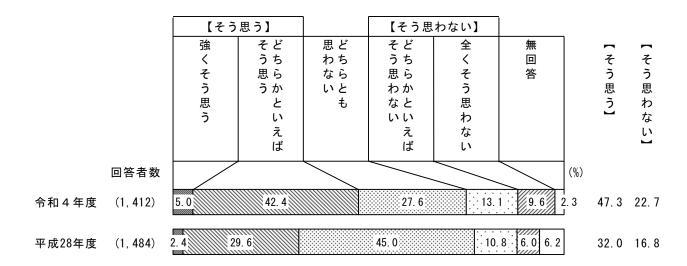


(2)地域での協力状況

問 47 お住まいの地域では、問題が生じた場合、人々は力を合わせて解決しようとしますか。 (〇は1つだけ)

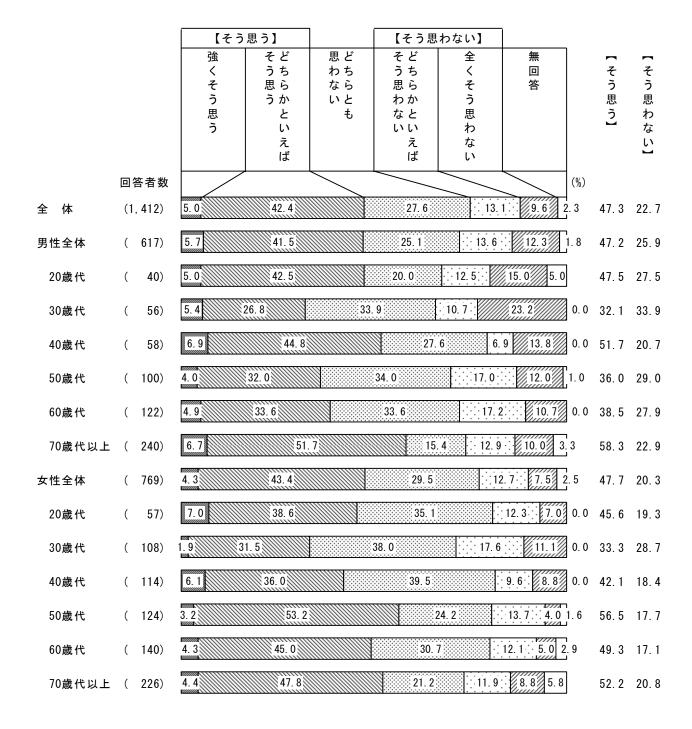
住んでいる地域で問題が生じた場合、人々が力を合わせて解決しようとするかについては、「どちらかといえばそう思う」が 42.4%で最も高く、「強くそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う】は 47.3%、「どちらかといえばそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた【そう思わない】は 22.7%となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成28年度と比べ、【そう思う】は15.3ポイント、【そう思わない】は5.9ポイント増加している。



地域での協力状況/性・年代別

性・年代別では、【そう思う】は男性は70歳代以上(58.3%)、女性は50歳代(56.5%)が最も高く、男性40歳代(51.7%)、女性70歳代以上(52.2%)も5割台となっている。一方、男性30歳代(32.1%)、50~60歳代と女性30歳代(33.3%)は【そう思う】が3割台である。



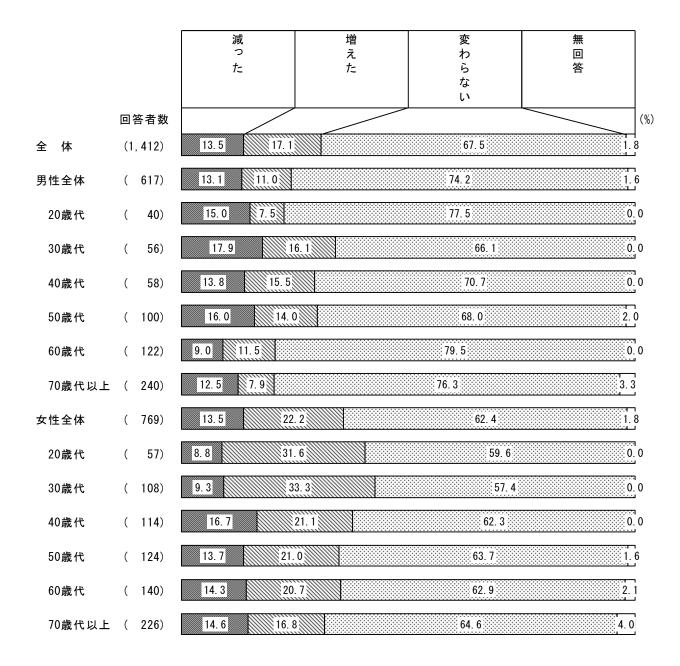
7. 新型コロナウイルス感染症による生活の変化

(1) 新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化

問 48 新型コロナウイルス感染拡大による生活の変化についての質問です。新型コロナウイルス 感染拡大前(令和元年)と現在を比べて、生活習慣はどのように変化しましたか。

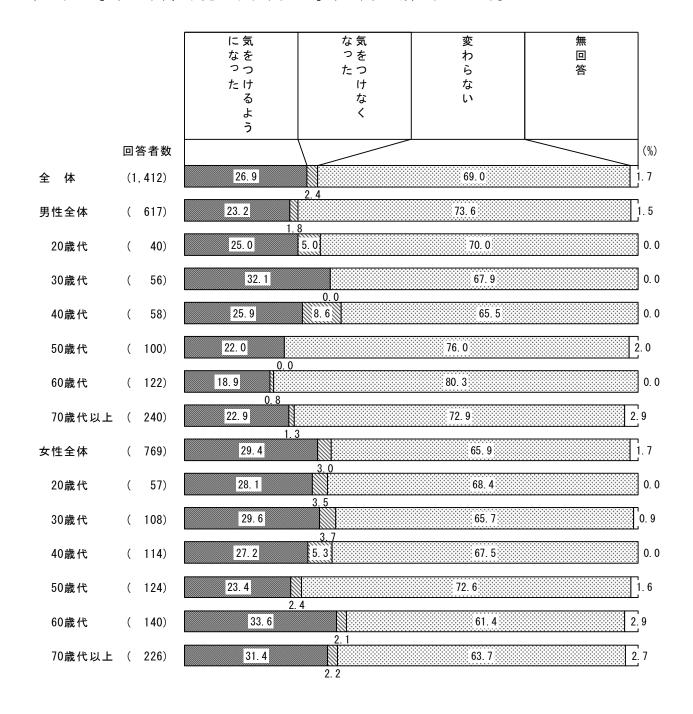
ア 間食の回数(〇は1つだけ)

間食の回数については、全体では、「変わらない」が 67.5% と最も高く、次いで「増えた」(17.1%)、「減った」(13.5%) の順となっている。



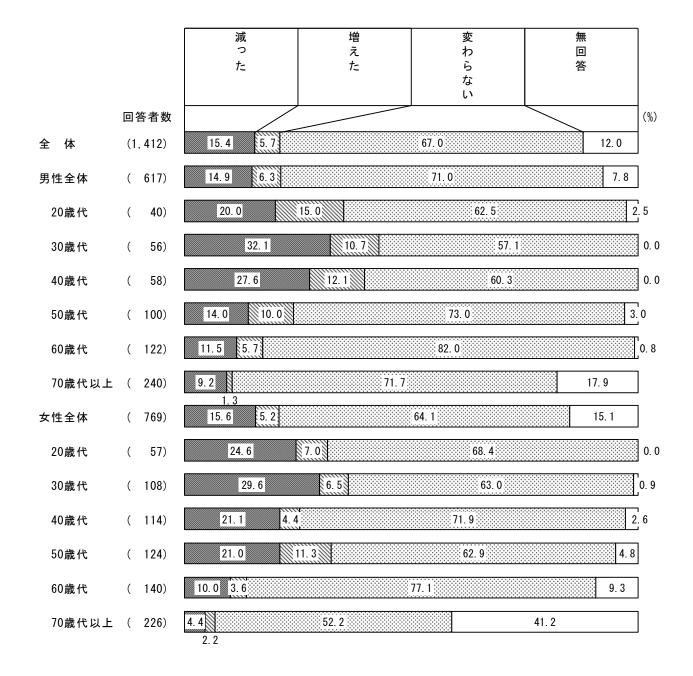
イ 食事のバランス(〇は1つだけ)

食事のバランスについては、全体では、「変わらない」が 69.0%と最も高く、次いで「気をつけるようになった」(26.9%)、「気をつけなくなった」(2.4%) の順となっている。



ウ お酒の量(Oは1つだけ)

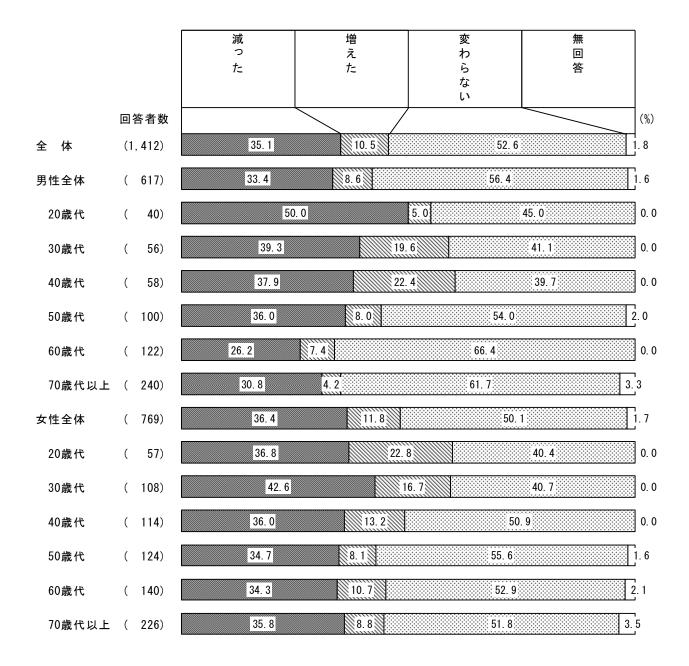
お酒の量については、全体では、「変わらない」が 67.0%と最も高く、次いで「減った」(15.4%)、増えた」(5.7%) の順となっている。



第2章 調査結果の詳細

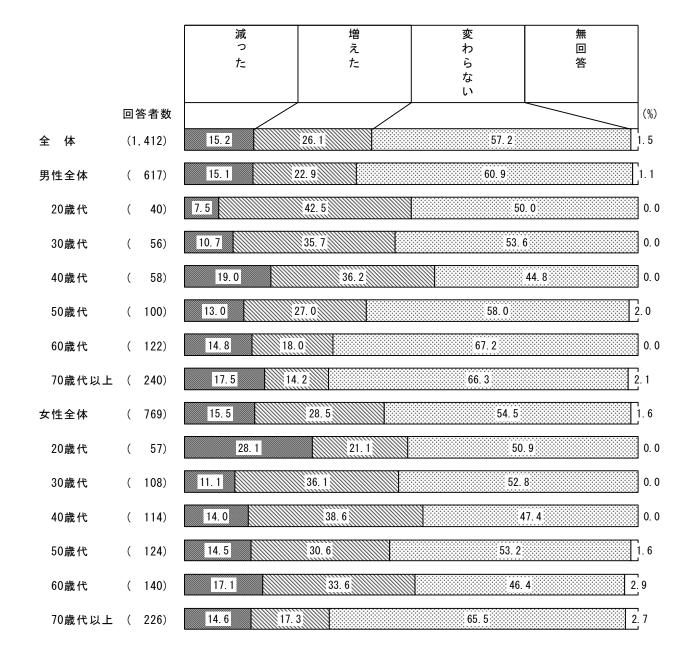
エ 身体活動・運動の機会(〇は1つだけ)

身体活動・運動の機会については、全体では、「変わらない」が 52.6% と最も高く、次いで「減った」 (35.1%)、「増えた」 (10.5%) の順となっている。



オ 体重(Oは1つだけ)

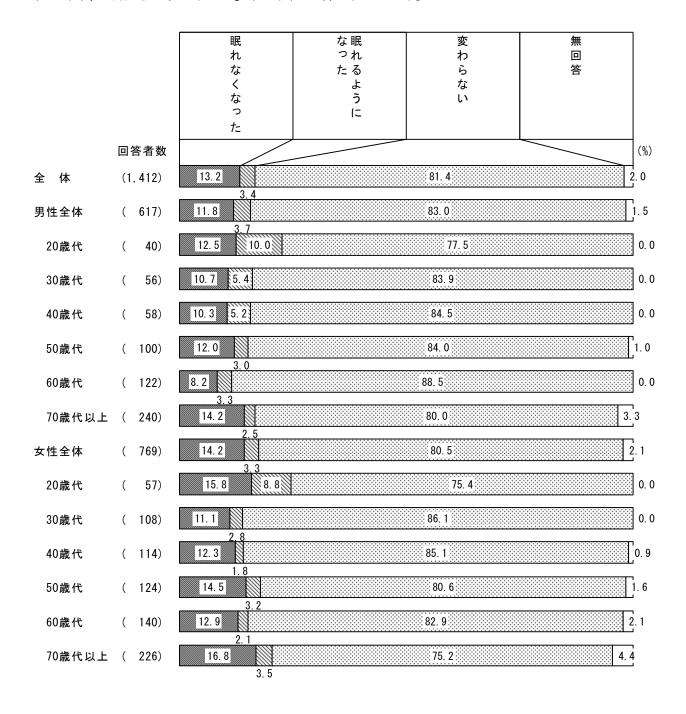
体重については、全体では、「変わらない」が 57.2% と最も高く、次いで「増えた」(26.1%)、「減った」(15.2%) の順となっている。



第2章 調査結果の詳細

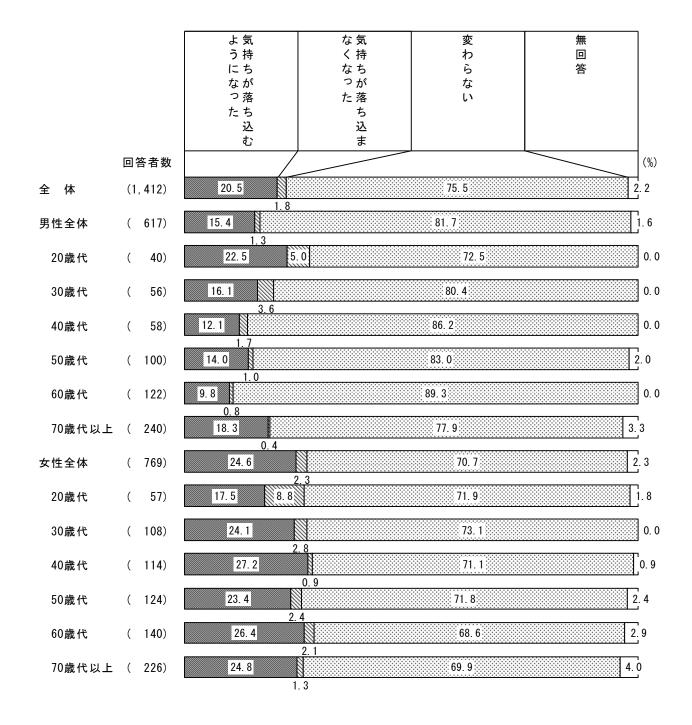
カ 睡眠の状況(〇は1つだけ)

睡眠の状況については、全体では、「変わらない」が 81.4%と最も高く、次いで「眠れなくなった」 (13.2%)、「眠れるようになった」 (3.4%) の順となっている。



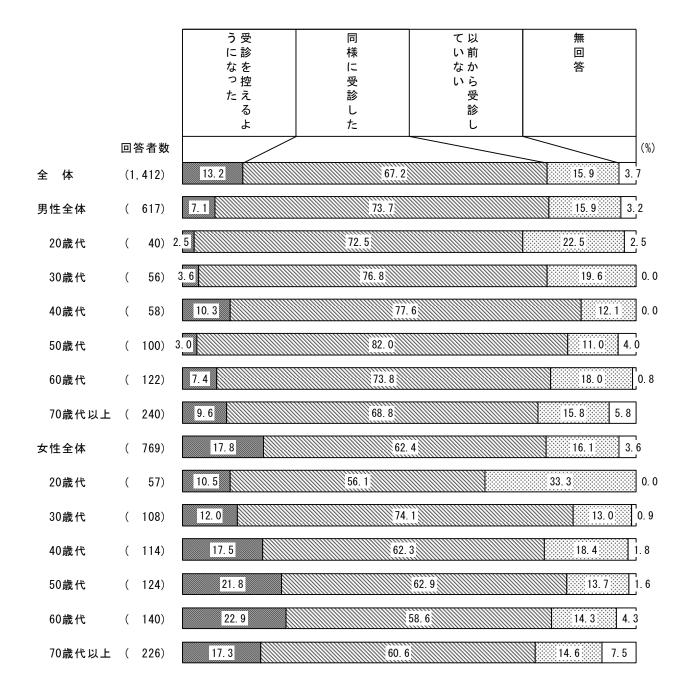
キ こころの健康(〇は1つだけ)

こころの健康については、全体では、「変わらない」が 75.5%と最も高く、次いで「気持ちが落ち込むようになった」(20.5%)、「気持ちが落ち込まなくなった」(1.8%) の順となっている。



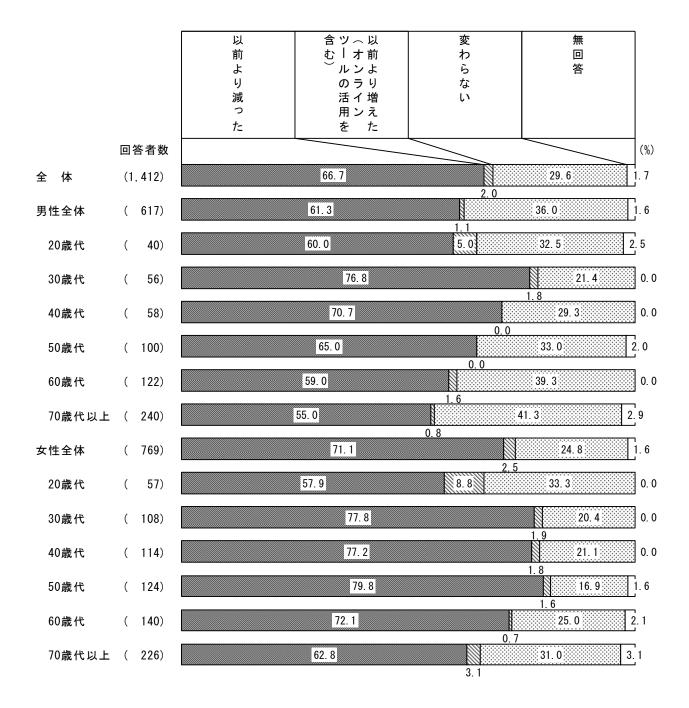
ク 健(検)診の受診状況(〇は1つだけ)

健(検)診の受診状況については、全体では、「同様に受診した」が 67.2%と最も高く、次いで「以前から受診していない」(15.9%)、「受診を控えるようになった」(13.2%)の順となっている。



ケ 人との交流(Oは1つだけ)

人との交流については、全体では、「以前より減った」が 66.7%と最も高く、次いで「変わらない」 (29.6%)、「以前より増えた (オンラインツールの活用を含む)」 (2.0%) の順となっている。



- コ 「ア」~「ケ」以外で、健康に関して変化があったことがあれば、記入してください。
- 1. 病気・体調変化 53 件

<病気・ケガ> 18 件

- ・コロナ以外の病気の発症や持病の悪化 (不整脈、脳梗塞、骨折、痛風、消毒による皮膚炎、突発性難聴など)
- ・入院、通院した(口内炎、帯状疱疹、歯痛、心臓病、がんなど)
- ・コロナに罹患、後遺症になった(後遺症が継続など)

など

<体調変化> 35 件

- ・体力、筋力が低下した(力がなくなった、足腰が衰えた、疲れやすい、介護認定など)
- ・体の痛み (膝、腰、ストレス性腹痛、まとめ買いで手首や足腰に負担、在宅勤務で腰痛など)
- ・体調不良を感じる(倦怠感、手足のしびれ、めまい、息苦しさなど)
- ・体調が良くなった(風邪をひかない、体調を崩さないなど)
- 物忘れが増えた

など

2. 生活習慣の変化 37件

- ・外出機会が減少(行動範囲の縮小、外食、趣味の活動など)
- ・工夫して運動を継続(ジムを退会し YouTube 利用、自己流ストレッチ、テレビ体操、障害のリハビリを兼ねた散歩など)
- ・仕事の変化(在宅勤務になった、通勤手段を変えた、出張がなくなった)
- ・感染予防する様になった (うがい、手洗い、検温など)
- ・家族との時間が増えた
- 人が多い場所へ行かなくなった

など

3. 健康への意識 5件

- ・健康意識が高まり健康管理アプリを使った
- 健診の重要性を再認識
- ・体調を気にかけるようになった

など

4. 医療体制 6件

- ・コロナワクチン接種後に副反応の疑い(高血圧、発熱や腎機能低下など)
- ・コロナ優先で通常の健診が満足に受けられない
- ・子どもを病院へ連れて行きづらくなった
- 健診を受けるタイミングを考えるようになった

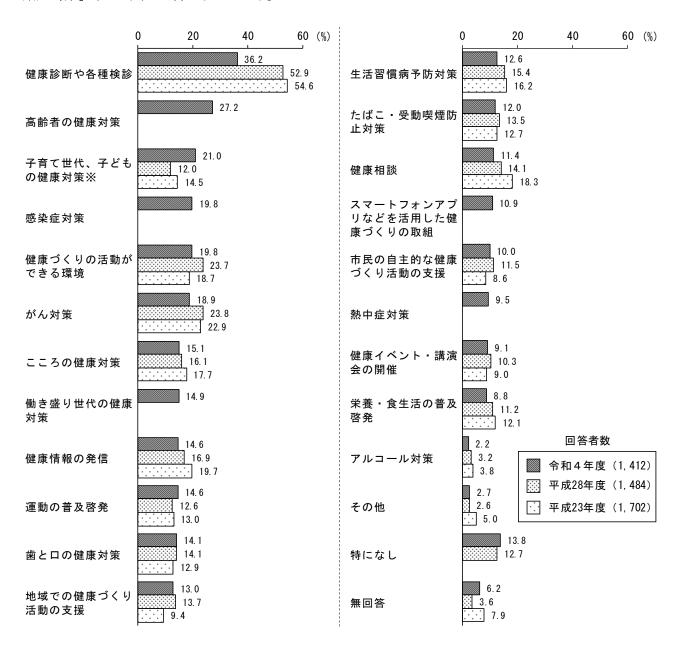
など

8. 市への要望

(1) 川崎市に力をいれてほしい取組

問 49 健康づくり推進において今後、市に特に力をいれてほしい取組は何ですか。 (あてはまるものすべてに())

健康づくり推進において今後、市が特に力をいれてほしい取組は、「健康診断や各種検診」が 36.2% と最も高く、次いで「高齢者の健康対策」(27.2%)、「子育て世代、子どもの健康対策」(21.0%)、「感染症対策」(19.8%)の順となっている。



※平成28年度までの選択肢は、「子育て世代、子どもの健康対策」は「母子の健康対策」としていた。

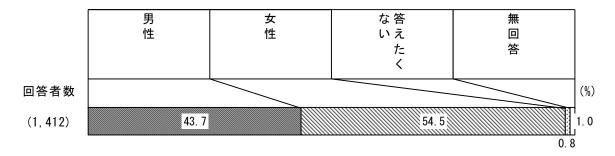
川崎市に力をいれてほしい取組/性・年代別

性・年代別では、男女とも「健康診断や各種検診」が最も高く、「高齢者の健康対策」が続く。「健康 診断や各種検診」は男性 50~60 歳代と女性 20 歳代 (38.6%)、50~60 歳代で1位を占めている。「高齢 者の健康対策」は男女とも 70 歳代以上で1位を占める一方、40 歳代以下は低くなっている。「子育て世 代、子どもの健康対策」は男性 20~40 歳代と女性 30~40 歳代で1位を占め、女性 30 歳代 (52.8%) で 5割を超える一方、50 歳代以上は低くなっている。また、「がん対策」は男性 60 歳代 (31.1%)、「働き 盛り世代の健康対策」「たばこ・受動喫煙防止対策」は男女 20~30 歳代で高くなっている。

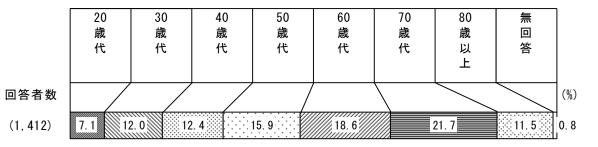
																									(%)
	回答者数	健康診断や各種検診	高齢者の健康対策	子育て世代、子どもの健康対策	感染症対策	健康づくりの活動ができる環境	がん対策	こころの健康対策	働き盛り世代の健康対策	健康情報の発信	運動の普及啓発	歯と口の健康対策	地域での健康づくり活動の支援	生活習慣病予防対策	たばこ・受動喫煙防止対策	健康相談	た健康づくりの取組スマー トフォンアプリなどを活用し	援の自主的な健康づくり活動の支	熱中症対策	健康イベント・講演会の開催	栄養・食生活の普及啓発	アルコール対策	その他	特になし	無回答
全 体	1, 412	36. 2	27. 2	21.0	19.8	19.8	18. 9	15. 1	14. 9	14. 6	14. 6	14. 1	13.0	12. 6	12. 0	11.4	10.9		9. 5	9. 1	8.8	2. 2	2. 7	13.8	6. 2
男性全体	617	33. 2	29. 2	19. 0	22. 0	18. 6	20. 7	13. 3	12.5	14. 4	16. 9	11.8	11. 0	12. 3	12. 5	11.5	11.0	10. 7	8.3	6. 6	8. 9	3. 1	2. 1	15. 4	7. 0
20歳代	40	30. 0	20. 0	42. 5	27. 5	27. 5	20. 0	20. 0	30.0	17. 5	22. 5	22. 5	12. 5	15. 0	25. 0	15.0	17.5	20. 0	15. 0	7. 5	15.0	10.0	2. 5	12. 5	7. 5
30歳代	56	25. 0	5. 4	46. 4	17. 9	14.3	17. 9	12. 5	30.4	10. 7	23. 2	8. 9	3. 6	3. 6	23. 2	5. 4	5. 4	3. 6	7. 1	0.0	12. 5	1.8	1. 8	14. 3	3. 6
40歳代	58	25. 9	12. 1	46. 6	10. 3	5. 2	17. 2	10. 3	19.0	12. 1	22. 4	10. 3	1. 7	6. 9	17. 2	10. 3	13.8	5. 2	6.9	1.7	3. 4	1. 7	5. 2	6.9	0. 0
50歳代	100	30. 0	21. 0	17.0	17.0	19. 0	17. 0	19. 0	14.0	14.0	16. 0	13.0	6. 0	10.0	17.0	6.0	15.0	11. 0	8.0	6.0	9. 0	6. 0	2. 0	19.0	3. 0
60歳代	122	42. 6	39. 3	7.4	27. 0	27. 9	31. 1	14. 8	5.7	16. 4	18. 0	16. 4	13. 1	17. 2	11.5	13. 1	15. 6	10. 7	9.8	12.3	11.5	0.8	1. 6	14.8	2. 5
70歳代以上	240	34. 2	38. 8	8.8	24. 6	16. 7	18. 8	10. 0	6. 7	14. 6	12. 9	8. 3	15. 8	13.8	5.4	14. 2	6. 7	12. 1	7. 1	6. 7	7. 1	2. 5	1. 7	16. 7	13.3
女性全体	769	38. 1	25. 7	22. 4	18. 2	20. 7	16. 9	16. 6	16.6	14.4	12. 9	15. 2	14. 4	12. 7	11.2	11.2	10.8	9. 4	10.3	11.3	8. 6	1. 3	3. 3	12. 7	5. 5
20歳代	57	38. 6	5. 3	28. 1	14.0	15.8	19. 3	17. 5	31.6	7. 0	15.8	14. 0	5. 3	10. 5	26. 3	3. 5	15.8	7. 0	19. 3	8.8	10. 5	0.0	0.0	17.5	1. 8
30歳代	108	50. 0	3. 7	52.8	14.8	13.9	23. 1	19. 4	31.5	5. 6	14. 8	15. 7	10. 2	6. 5	13. 9	9. 3	10. 2	6. 5	7.4	8. 3	7. 4	3. 7	5. 6	4.6	0.0
40歳代	114	28. 1	12. 3	42. 1	15.8	19.3	13. 2	20. 2	24. 6	12. 3	14. 0	13. 2	12. 3	11.4	18. 4	7. 9	16. 7	8. 8	14. 9	9. 6	12. 3	1.8	4. 4	11.4	0. 9
50歳代	124	47. 6	27. 4	12.9	21.8	21.8	20. 2	16. 9	15.3	15. 3	11.3	18. 5	11. 3	15. 3	10.5	16.9	15.3	10. 5	10.5	9. 7	6. 5	0.0	4. 0	10.5	4. 0
60歳代	140	39. 3	33. 6	12.9	17. 9	27. 9	15. 0	17. 1	5.7	21.4	14. 3	15. 0	12. 9	11.4	10.0	12. 1	11.4	12. 1	8.6	12. 1	7. 1	0. 7	2. 1	12.1	5. 7
70歳代以上	226	31. 4	42. 5	7. 5	20. 4	20. 8	14. 6	12. 8	9.3	16.8	10.6	14. 6	22. 6	16. 4	3. 5	11.9	4. 0	9. 3	8.0	14.6	8.8	1. 3	2. 7	17. 7	11.9

9. あなたご自身について

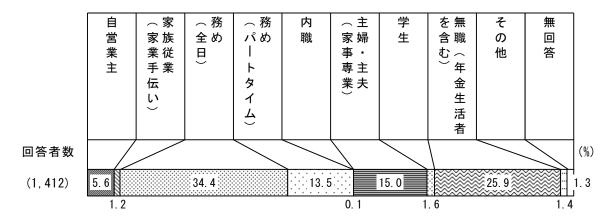
(1)性別



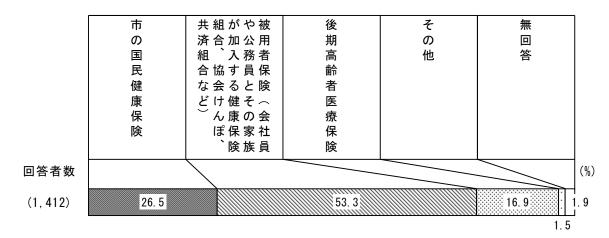
(2)年齢



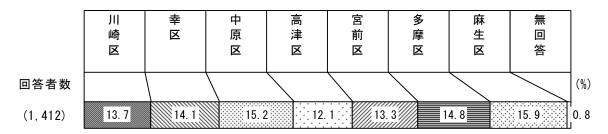
(3) 主な職業



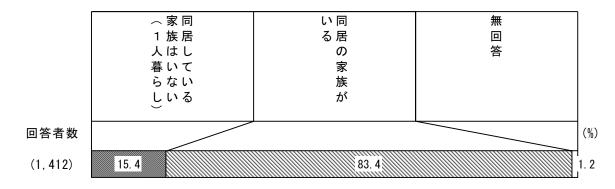
(4)加入している(扶養に入っている)健康保険



(5) 現在お住まいの区



(6) 同居家族について



10. 自由記述

川崎市の健康へ	がくりや食育推進について意見や要望を自由記述形式で聞いたところ、	164 件の	口
答が寄せられた。	その内容をまとめた結果は以下のとおりである。		

(1	 健康状態・生活習慣・セルフケア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	2) 生活習慣・セルフケア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	3) 健診・検診・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	 4) 運動・健康づくり ● 市民向け健康・運動施設の整備(無料のジム・プール、公園、健康センター、子連れで利用できる場所、施設の貸出など) ● 身近で行える健康づくり(地域密着、気軽に参加できる健康体操、健康づくりセンターの活用など) ● スポーツジム・クラブの会費補助 ● 公園の設備改善(トレーニングのできる器具、大人向け運動用具) ● 運動施設へのバス路線の整備(多摩スポーツセンター、入江崎余熱利用プール) ● 区毎の施設整備の格差是正 ● ラジオ体操の普及と支援 ● 子育て世代が運動できるよう、シッター制度の整備 ● おすすめの運動を知りたいなど
(5	5)その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

● 医療費、薬代の負担軽減

第2章 調査結果の詳細

届く)

● 健康目標を達成した人に賞品を配布

● 帯状疱疹ワクチンの助成

● 補助金などのサポート

	● 健康や食育等に関するイベントカレンダー作成、アプリ
	● 子どもの医療費を無条件で無料にするべきでない
	● 18 歳まで子どもの医療費を無料化
	など
_	
2	食育・栄養・食生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	● 食育の推進(親子参加だけでない体験学習、子ども向けイベント、広報紙への掲載、教育現場への 大阪 かい
	支援など)
	● 地産地消への取り組み(地下街でのイベント開催、名産品の無料配送、農産物直売所の整備など)
	● 農業、収穫体験(小学校の授業へ導入など) ● おいしい 学校の名の製徒(温さい 名声、学業 バランスの真な、名意、の素料など)
	● おいしい学校給食の継続(温かい食事、栄養バランスの良さ、食育への貢献など)
	● 給食の改善(牛乳、小麦製品の禁止、完全米食、味の改善、給食費の低減など)
	● 食育は基本的に個人の心がけが重要 ● 小中草の字宮科 - 佐浜科 - 伊健佐寺の授業なほして若い味みらの赤西供な身にっける
	◆ 小中高の家庭科、生活科、保健体育の授業を通して若い時から食育の重要性を身につける◆ 地域交流事業を通して食の楽しみ、作る楽しみを広げる
	地域交流事業を通じて良の業しみ、作る業しみを広ける海外の方も含め多国籍料理を活用し、同じ食材で色々楽しめるイベントの企画
	● ボデジカも古め多国籍科理を活用し、同じ良材で日本果じめるインプトの正画● 小学校における残食の実態調査・把握
	● 給食で廃棄される牛乳の有効活用(格安での販売など)
	● 安全で安心な食事を子どもから高齢者まで広めて欲しい
	● 女主(女心な及事を)ともから同断する(本めて祈しい) など
(2	2)栄養・食生活⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯ 15 件
	● 料理教室の開催(中高年向け、単身者向け、地産地消など)
	● 献立、レシピの広報(手軽で高栄養価、旬の食材など)
	● 野菜嫌い解消の取り組み(健康への影響、調理法の伝授など)
	● 親の健康管理を通じた子どもの食生活の改善
	● 共働き家庭の食生活改善(多忙で夕飯を作れない時の工夫)
	● 多人数家庭は食事作りが大変なので、食事券の配布をしてほしい
	● 出産後の離乳食教室で、市の支援を実感した
	● カルシウム入り食品を市が開発、廉価で販売
	● 無添加、無農薬の食品の普及
	● 蕎麦食推進
	など
(-	3)その他······1件
	● 食糧自給率向上のため、遊休地を活用
3	たばこ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 件
	● 煙の漏れる駅前屋外喫煙所の廃止
	● 屋外の全面禁煙

● 学校における健康教育の強化、子どもを通じた啓発活動の拡大(子どもを通し保護者にも効果的に

4	休養・こころの健康・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	● 心身の健康に悪影響を与える過剰なストレスへの対策
	● 「こころの健康」を考えた取り組みが必要
	● カウンセリングが受けられる医療機関情報の提供
	● 地域によって心療内科が少ない
5	つながり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
6	新型コロナウイルス感染症 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Ū	● コロナワクチン接種券を早く送ってほしい
	● コロナ対策の強化
	● コロナで市報があまり届かなくなり、区のイベントを知る機会が減った
	● コロナによる生活補助(出社できないときの給付等)
7	W 172
	● 広報活動の強化(健康情報、食育、次世代の子ども向け、施策が周知されていないなど)
	● 講座・教室の開催 (健康づくり、かかりつけ医による講話、子どもと参加できるイベントの土日開
	催など)
	● 高齢者福祉の充実(デイサービス、老人ホームの情報提供、医療機関へのアクセス支援など)
	● 情報発信手段の改善(見に行かずとも目に入る SNS 広告、ホームページの工夫、アプリの改善、紙(##\) は かい かっこと 変形 の (WELL は))
	媒体は捨てられ資源の無駄など)
	●連絡先・相談先の整備
	(何かあった時どこに連絡すべきかわからない、医療機関に行く前に相談したいなど)
	● 障害者福祉の充実(生活支援、介護者の負担軽減、メンタル支援など)● 子育て支援の充実(子育ての魅力ある市政、若い世代や子ども達への支援など)
	● 子育で支援の元美(子育での魅力ある印政、石い世代や子とも達べの支援など) ● 子育で支援の所得制限撤廃
	● 配付物、広報紙の改善(字を大きく、分かりやすくシンプルに、図解入りなど)
	● スマホなどが不得意な人への配慮
	● 災害グッズ(基本)の無料配布
	◆ 生ごみの処理対策の強化
	● 年金生活への補助
	● 歩行、自転車利用を促進するための交通環境の整備(マナー改善、違反の取り締まり強化)
	● SDGs の結果を示せる市を目指してほしい
	● 世代関係ない給付金
	● 川崎専用 LINE と TV で情報が全く違う理由を知りたい
	● 多様な主体が連携できる仕組みづくり
	●親身にやってほしい
	● 専門職による地域での活動の推進

など

第3章 調査票

川崎市健康及び食育意識実態調査

- ◎この調査は無記名調査です。お名前やご住所を書いていただく必要はありません。
- ◎この調査は、行政上の基礎資料として活用することを目的としていますので、他の目的に使用することはありません。
- ◎この調査の結果はすべてコンピューターで一括処理を行い、統計的な集計・分析だけに用いられますので、個々のお答えの内容や皆様の個人情報が外部に漏れることは一切ありません。

【ご記入にあたってのお願い】

- ●あて名のご本人が調査にお答えください。ご本人自身が記入できない場合は、ご家族などが代わりにご記入ください。
- ●お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。
- ●「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、()内に具体的に、その内容をご記入ください。
- ●お答えは、設問ごとに(Oは<u>1つだけ</u>)(あてはまるもの<u>すべてにO</u>)など指定されていますので、 お間違えのないようお気を付けください。
- ●設問によっては、回答いただく方が限られる場合がありますので、注意書きをお読みください。
- ●調査は、郵送又はインターネットのいずれかの方法で回答してください。
- ●この調査には10~20分程度かかります。

【調査の回答について】

●郵送で回答する場合

記入いただいた調査票を、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、

令和4年9月20日(火)まで に投函してください。

●インターネットで回答する場合

お手持ちのスマートフォンやタブレットから右記二次元コードを読み取り、調査回答フォームにアクセスし、 **令和4年9月20日(火)まで**に回答してください。



入力コード番号は	をご使用下さい。
人 T T L 米 L / T	た 一油田トナハ
ハノコード母方は	を 14 田 じ ご い

(入力コードは郵送回答とインターネット回答の重複を避けるためのものであり、個人の特定にはつながりません。)

【問い合わせ先】

本調査についてご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

川崎市健康福祉局保健医療政策部健康増進担当

電話: 044-200-2411 FAX: 044-200-3986 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

健康状態・生活習慣・セルフケア

問1 自分の健康状態について、どのように感じていますか。(Oは<u>1つだけ</u>)

1 非常に健康

2 ほぼ健康

3 あまり健康でない

4 健康でない

問2 健康のために、<u>現在意識して実践していること</u>は何ですか。(あてはまるもの<u>すべてに</u>)

1 定期的に運動する

2 よく噛んで食べる

3 食べ過ぎない

4 栄養をバランスよくとる

5 栄養成分表示を活用する

6 減塩をする

7 規則正しい生活を送る

8 適正体重を維持する

9 睡眠を十分にとる

10 丁寧に歯磨きする

11 飲酒は適量を守る

12 喫煙をしない

13 ストレスをためない

14 定期的に血圧を計る

15 定期的に健康診断(検診)を受ける

16 感染予防対策をする

17 その他(具体的に:

) 18 特に何もしていない

問3 健康のために、<u>改善したい(する必要がある)と思っていること</u>は何ですか。

(あてはまるもの<u>すべてに○</u>)

1 定期的に運動する

2 よく噛んで食べる

3 食べ過ぎない

4 栄養をバランスよくとる

5 栄養成分表示を活用する

6 減塩をする

7 規則正しい生活を送る

8 適正体重を維持する

9 睡眠を十分にとる

10 丁寧に歯磨きする

11 飲酒は適量を守る

12 喫煙をしない

13 ストレスをためない

14 定期的に血圧を計る

15 定期的に健康診断(検診)を受ける

16 その他(具体的に:

17 特にない

問4 生活習慣病**予防についての知識や助言、支援をどこから得ていますか。

(あてはまるもの<u>すべてに○</u>)

1 マスメディア(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、タウン誌など)

2 インターネット

3 市の広報紙・リーフレット

4 市役所、区役所

5 民間企業などが一般向けに実施する講座など

)

)

6 勤め先が実施する講座など

7 学校、PTA

8 医療機関、薬局

9 町内会、地域のグループ

10 家族、知人

11 その他(具体的に:

12 特にない

※生活習慣病

食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、病気の発症・進行に関与する疾患群で、 脂質異常症、高血圧、心臓病、脳卒中、糖尿病などをいいます。

問:	5 化	健康を管理するために、活用しているものはありますか	。(あてはまるもの <u>すべてに○</u>)
	1	体重計	
	2	血圧計	※ウェアラブルデバイス 腕や頭部など、身体に装着して
	3	お薬手帳(スマートフォン、ウェアラブルデバイス除く)	
	4	 歩数計(スマートフォン、ウェアラブルデバイス除く)	EMCB-17 OM
	5	スマートフォン、タブレット、パソコン	
	6	ウェアラブルデバイス*	10:35
	7		
	8	活用しているものはない	7
		で「4」「5」「6」のいずれか1つでも答えた方のみ)	
▶ 1	寸問:	5-1 歩数計、スマートフォン、ウェアラブルデバイ	
		ここ1か月の1日当たりの平均歩数を記入してく 「	たさい。
問(6 E	BMI※を調べるため、あなたの身長と体重を教えてくた	ささい 。
		身長 センチメートル 体重	[
	<u> </u>	BMI(Body Mass Index:体格指数)	
	ЯE	肥満ややせを判定する国際的指標で、「 体重(kg)÷ 身長	(m) ÷ 身長 (m)」で求められます。
	E	日本肥満学会が定めた基準では、BMI=22 が生活習慣病	になりにくい最も健康的な標準値である
		ことから適正体重といいます。	
	+	やせ…BMI=18.5 未満 標準…BMI=18.5 以上 25.()未満 肥満…BMI=25.0以上
問:	7 /	どのくらいの頻度で体重を測定していますか。(<u>最も近し</u>	\±,の1つに○)
11	1	毎日 2 週に1~2回程度	3 月に1~2回程度
	4		6 測定していない
問	8 化	健診・検診についてお伺いします。	
-	Р j	過去1年間に健診(健康診断・健康診査・人間ドック)	を受けましたか。(〇は <u>1つだけ</u>)
	1	市が実施した国民健康保険の健診を受けた	
	2	職場や健康保険組合等が実施した健診を受けた	
	3	学校が実施した健診を受けた	
	4	それ以外の健診を受けた	
	5	健診を受ける機会はあったが受けていない	
	6	健診を受ける機会がなく受けていない	

第3章 調査票

イ 川崎市にはがん検診の制度(肺がん、大腸がん、胃がん、子宮がん、乳がん)があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

1 はい 2 いいえ

ウ 過去1年間に歯科健診を受けましたか。(Oは1つだけ)

1 はい 2 いいえ

- 問9 問8ア〜ウのいずれかの健診・検診を受診した際、要観察や要医療などの指摘を受けましたか。 またその結果、行動**の変化はありましたか。(〇は1つだけ)
 - 1 指摘はなく、行動を改めていない(変わらない)
 - 2 指摘はなかったが、行動を改めた
 - 3 指摘があったが、行動を改めていない(何もしていない)
 - 4 指摘があり、行動を改めた
 - ※行動とは、精密検査や保健指導を受けたり、運動や食事などの生活習慣の改善をすることをいいます。

問 10 次の言葉やその意味を知っていますか。(次のア~エの言葉について、Oはそれぞれ1つだけ)

	予防に努めている言葉や意味を知っており、	何もしていない言葉や意味は知っているが、	意味は知らない言葉は知っているが、	全く知らない
ア ロコモティブシンドローム (運動器症候群) **1	1	2	3	4
イ フレイル ^{※2}	1	2	3	4
ウ オーラルフレイル ^{※3}	1	2	3	4
エ プラステン (+10) *4	1	2	3	4

※1 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)

体を支え動かす運動器(骨、関節、筋肉など)の衰えにより、日常生活での自立度が低下し、 要介護状態になる可能性が高い状態

※2 フレイル

健康な状態から介護が必要な状態へ移行する中間の段階。筋力、気力の低下など、加齢に伴い 心身が衰えた状態

※3 オーラルフレイル

食物を噛んだり飲み込んだりする機能の低下、滑舌が悪くなるなど、口腔機能が衰えた状態

※4 プラステン(+10)

健康寿命を延ばすために、今より 10 分多く体を動かすこと (健康づくりのための身体活動指針より)

)

)

)

問11 日頃から意識的に運動をしていますか。(〇は1つだけ)

1 習慣的にしている

2 時々している

3 あまりしていない

4 まったくしていない

(問11で「1 習慣的にしている」「2 時々している」と答えた方のみ)

└▶ 付問 11-1 身体を動かしたり、運動をしている目的(理由)は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1 健康、体力づくり

2 楽しみ、気晴らし、ストレス解消

3 美容や肥満解消

4 自分の記録や能力を向上させる

5 家族とのふれあい

6 友人・仲間との交流

7 アプリ等のポイントをためる

8 その他(具体的に:

9 特にない

(問 11 で「3 あまりしていない」「4 まったくしていない」と答えたの方のみ)

▶ 付問 11-2 習慣的に身体を動かしたり、運動しない(できない)理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1 時間(暇)がない

2 場所がない

3 仲間がいない

4 子どもを預けられない

5 介護が必要な家族を預けられない

6 面倒

7 必要と感じない

8 やりたい運動がない (見つからない)

9 新型コロナウイルス感染症で運動等を控えた(できなかった)

10 その他 (具体的に:

11 特にない

食育•栄養•食生活

問12 朝食に主食(ごはん・パン・めんなど)、主菜(魚・肉・卵・大豆製品の料理)、副菜(野菜を主にした料理)をそろえて食べていますか。(〇は<u>1つだけ</u>)

1 はい

2 いいえ

3 朝食を食べない

(問12で「3 朝食を食べない」と答えた方のみ)

▶ 付問 12-1 朝食を食べない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 食べる時間がない

2 用意する時間がない

3 用意されていない

4 食欲がない

5 太りたくない

6 食べる習慣がない

7 食べなくても問題がない

8 その他(具体的に:

第3章 調査票

問13 昼食・夕食に主食、主菜、副菜をそろえて食べていますか。

ア 昼食(〇は1つだけ)

イ 夕食(Oは1つだけ)

1 はい 2 いいえ 3 夕食を食べない

問 14 主食、主菜、副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

1 手間がかからない

2 時間がある

3 食費に余裕がある

4 食欲がある

5 3つそろえて食べるメリットを知っている

6 外食やコンビニなどで手軽に取ることができる環境がある

7 その他(具体的に:

) 8 わからない

問 15 就寝前の 2 時間以内に食事や間食をとることがありますか。(〇は<u>1つだけ</u>)

1 ほぼ毎日

2 週4~5回

3 週2~3回

4 飲食しない

問 16 ご自身の適切な食事内容・量を知っていますか。(Oは<u>1つだけ</u>)

1 はい 2 いいえ

問 17 野菜料理*を 1 日にどのくらい食べていますか。(Oは<u>1 つだけ</u>)

1 5皿以上食べる

2 4皿食べる

3 3皿食べる

4 2皿食べる

5 1皿食べる

6 ほとんど食べない

※野菜料理約70g(トマトなら半分、サラダ1皿分程度)を1皿として、例を参考に、お皿の数でお答えください。

<1皿分の野菜料理の例>











トマト半分

かぼちゃ3切

ほうれん草のお浸し 小鉢 1 皿分

サラダ1皿分 (両手1杯分) 野菜炒め 1/2 皿分

問18 外食(飲食店での食事)をどのくらい利用していますか。(〇は1つだけ)

1 毎日2回以上

2 毎日1回

3 週4~6回

4 週2~3回

5 週1回

6 月1~3回

7 ほとんど利用しない

	1	毎日2回以上	2	毎日1回		3	週4~6	6回
	4	週2~3回	5	週1回		6	月1~3	3 🛛
	7	ほとんど利用しない						
問	20	主にどこで食品を購入して	います	- か。(あてはま	こ るものすべて	(1:0)	
	1			コンビニエン			<u>′</u> ドラック	ブストア
	4	商店街	5	飲食店		6	宅配サー	-ビス(主に食材)
	7	配食サービス(主に弁当)	8	その他(具体的	的に:)
問	21	あなたの食事のしかたにつ	ハア製	カラアください				
-		家庭の味付けは外食と比べて						
	1		2	同じ		3	濃い	
	<u> </u>							
	<u>1</u>		頻度は					
	1	ほとんどかけない		2	2 時々かける	3		
	3	毎日1回はかける		4	4 よくかける	る (ほ	ぼ毎食)	
1	<u>ウ</u>	みそ汁、スープなどの汁物を	を食べ	る頻度はどうで	ですか。(Oは	:1つ:	<u>だけ</u>)	
	1	あまり食べない 2	週2	~3回 3	3 1日1杯	くらい	4	1日2杯以上
	エ	漬物(キムチなどを含む)	や梅干	しを食べる頻度	度はどうですフ	٥٠° ((Oは <u>1つ</u>	<u>だけ</u>)
	1	あまり食べない 2	週2	~30 3	3 1日1回	くらい	٧ 4	1日2回以上
;	才	あじの開き、塩鮭、みりん-	干しな	どを食べる頻度	度はどうですフ	٥٠° ((Oは <u>1つ</u>	<u>だけ</u>)
	1	あまり食べない	2	週2~3回		3	よく食べ	 <a>る
	カ	麺類(ラーメン・うどんなん	_ _ ど)を	食べる頻度はと	 どうですか。((Oは_		
	1	食べない 2			3 週2~3[4	
	+	麺類の汁を飲みますか。(C)は_1つ	<u>っだけ</u>)				
	1		少し		3 半分くらし	^ 飲む	3 4	全て飲む
問	22	国産・県内産・川崎産など (Oは <u>1つだけ</u>)	産地を	そ意識して食品?	を購入(地産	地消)	したこと	: がありますか。
	1	はい		2	2 いいえ			
問	23	地域や家庭で受け継がれて	きた米	料理(郷土料理	や伝統料理を	含む)) や味、1	食べ方・作法を受け

問 19 持ち帰りの弁当や総菜をどのくらい利用していますか。(Oは<u>1つだけ</u>)

2 受け継いでいない

3 どちらともいえない

継いでいますか。(〇は<u>1つだけ</u>)

受け継いでいる

問 24	日本の「食品ロス	ス」の発生量は 570)万トン(令ホ	和元年度推計)	であり、	1人1日あた	:りお茶碗
1	杯分の食事を毎日	捨てていることに	なります。こ	の食品ロスを》	載らすため	に、あなたか	「取り組ん
7	いることはありま	すか。(あてはまる	るもの <u>すべて</u> 1	<u>(CO</u>)			

- 1 料理を作りすぎない
 2 残さず食べる
 3 残った料理を別の料理に作り替える
 4 冷凍保存する
 5 冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する
 6 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、食べられるか自分で判断する
 7 小分け商品、少量パック、バラ売りなどで食べられる量を購入する
 8 商品棚の手前に並ぶ期限に近い商品を購入する
 9 期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ
 10 飲食店などで注文しすぎない
 11 外食時には、小盛メニューなど希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ
 12 その他(具体的に:
- 問 25 購入した食品を食べないまま捨ててしまう場合、その原因は何ですか。 (あてはまるものすべてに〇)
 - 食べないまま捨てることはほとんどない
 必要以上に買いすぎてしまった
 - 3 購入後、保管場所に入れたまま存在を忘れてしまった
 - 4 購入したものの、調理の仕方や食べ方がわからなかった
 - 5 その他(具体的に:

6 わからない

13 特にない

問 26 農林漁業体験のある子どもは、食べ物を大切にする意識や食べ物への関心をもつようになり、 食べ残しが少なくなることなどが報告されています。あなた又は同居のご家族の中で、野菜の収 穫、稲刈り、家畜の世話などの農林漁業体験に参加したことがある人はいますか。(〇は1つだけ)

)

1 はい 2 いいえ

問 27 食育*について関心がある項目はどれですか。(あてはまるものすべてにO)

1 誰かと一緒に食べること2 1日3回食べること3 バランスよい食事4 食事のマナー5 食文化や行事食など6 食の安全(食中毒、食品添加物など)7 地産地消8 その他(具体的に:)9 食育に関心がない

※食育とは、様々な体験を通して食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できるようにすることをいいます。

問 28	地域で食育に関する何らかの流	壬動をおこかったり	参加したりしていますか	(のは1つだけ)
101 20	地域し及目にぼり 公門りかいが	1 割でんしん フルツ、	一参加したりしていありかん	. (Old 1 2/21/

- 1 積極的にしている
- 2 できる機会があればしている
- 3 あまりしていない
- 4 したいと思っている (機会があればしたい) が実際にはしていない
- 5 したいと思わないし、していない
- 問29 家族や友人・知人などと一緒に食事をしますか。

(次のア~ウの項目について、Oはそれぞれ1つだけ)

	ほとんど毎日	週に3~4回	週に 1 2 回	月に 1 ~ 2 回	ほとんど一緒に食べない
ア朝食	1	2	3	4	5
イ 昼食	1	2	3	4	5
ウタ食	1	2	3	4	5

問 30 災害時(地震や風水害だけでなく、新型コロナウイルス感染症拡大も含む)に備えて、非常用の食料としてどのようなものを用意していますか。(あてはまるもの<u>すべてに〇</u>)

- 1 主食(レトルトご飯、乾パンなど)
- 2 おかず(肉・魚などの缶詰、カレー、シチューなどのレトルト食品など)
- 3 飲料(水、お茶など)
- 4 その他(具体的に:
- 5 用意していない

(問30で「1 主食」「2 おかず」と答えた方のみ)

└▶ 付問 30-1 非常食として飲料水以外の食料を何日分用意していますか。(○は<u>1つだけ</u>)

1 1日分

2 2日分

3 3~4日分

4 5~6日分

5 7日分以上

(問30で「3 飲料」と答えた方のみ)

→ 付問30-2 非常食として飲料水※を何日分用意していますか。(○は1つだけ)

1 1日分

2 2日分

3 3~4日分

4 5~6日分

5 7日分以上

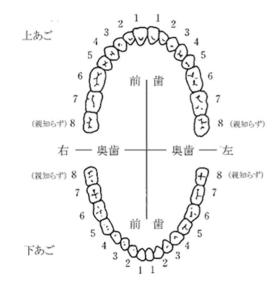
※飲料水は1人3Lを1日分とする

歯と口の健康

問31 歯の本数*は、現在何本ですか。



※親知らずを除き、28本が基本です (入れ歯、インプラントは除く) 0本の場合は0と書いてください。



問 32 噛んで食べる時の状態は次のどれにあてはまりますか。(Oは<u>1つだけ</u>)

1 なんでも噛んで食べることができる

2 一部噛めない食べ物がある

3 噛めない食べ物が多い

4 噛んで食べることはできない

問33 あなたの食べ方や食事中の様子についてお答えください。 (次のア~オの項目について、〇はそれぞれ1つだけ)

		はい	い い え
ア	ゆっくり噛んで食事をする	1	2
1	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	1	2
ゥ	お茶や汁物などでむせることがある	1	2
エ	口の渇きが気になる	1	2
オ	左右両方の奥歯でしっかり噛みしめられる	1	2

問34 歯ぐきの状態について、お答えください。(次のア~イの項目について、Oはそれぞれ<u>1つだけ</u>)

		はい	い い え
ア	歯ぐきが腫れている	1	2
1	歯を磨いた時に血が出る	1	2

たばこ・アルコール

問35 習慣的にたばこ(加熱式たばこを含む)を吸っていますか。(<u>最も近いもの1つに〇</u>)

- 1 毎日吸っている(紙巻たばこ)
- 2 毎日吸っている(加熱式たばこ)
- 3 時々吸う日がある(紙巻たばこ)
- 4 時々吸う日がある(加熱式たばこ)
- 5 以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない(紙巻たばこ)
- 6 以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない(加熱式たばこ)
- 7 吸わない

(問35で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と答えた方のみ)

→付問35-1 たばこを習慣的に吸うようになったのは、何歳頃からですか。



(問35で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と答えた方のみ)

→付問35-2 1日何本吸っていますか。



(問35で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と答えた方のみ)

─▶付問 35-3 たばこをやめたいと思いますか。

1 やめたい

2 本数を減らしたい

3 やめたくない

4 わからない

(問35で「毎日吸っている」「時々吸う日がある」と答えた方のみ)

-▶ 付問 35-4 たばこをやめたくない(やめられない)と思う理由は何ですか。

(あてはまるものすべてにO)

1	 きっかけがない	2	習慣のため
'	2 7011011411	2	白頂のだめ
3	やめかたがわからない	4	禁煙しても続かない
5	やめると太りそう	6	ストレスがたまる(吸わないと落ち着かない)
7	健康だから	8	経済的に負担を感じていない
9	仕事の効率が悪くなりそう	10	その他(具体的に:)
11	特に理由はない		

第3章 調査票

問 36 喫煙をする際には、屋外(路上等を含む)であっても周囲の状況に配慮しなければならない、 配慮義務*があることを知っていますか。(〇は1つだけ)

1 知っている

2 知らない

※喫煙をする際の配慮義務

喫煙禁止場所以外の場所において喫煙をする際、望まない受動喫煙を生じさせることがないよう 周囲の状況に配慮しなければなりません。

- 問 37 この 1 か月間に、自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)が多いと感じ た場所はありましたか。(あてはまるものすべてに○)
 - ※飲食店、遊技場などに勤務していて、その職場で受動喫煙があった場合は、「3 職場」を選択し てください。

1 家庭

2 隣家等

3 職場

4 飲食店(コンビニ等も含む)

5 遊技場 (ゲームセンター、パチンコ、競馬場など)

)

6 駅周辺

7 路上

8 子どもが利用する屋外の空間(公園、通学路など)

9 屋外喫煙所付近

10 その他(具体的に:

11 特にない

問38 COPD*(シーオーピーディー)(慢性閉塞性肺疾患)という病気を知っていますか。(〇は1つだけ)

1 どんな病気かよく知っている 2 言葉は聞いたことがある 3 知らない

%COPD

肺の機能が低下し、呼吸困難を招く病気です。最大の原因は「喫煙」であり、『たばこ病』とも呼 ばれており、特に10年以上喫煙を続けている人やヘビースモーカーはリスクが高くなります。

問 39 週に何日位お酒(清酒、焼酎、ビール、洋酒など)を飲みますか。(〇は 1 つだけ)

: 1 毎日

2 週5~6日

3 週3~4日

4 週1~2日

5 月に1~3回

6 ほとんど飲まない

7 やめた

8 飲まない (飲めない)

(問39で「1」~「5」と答えた方のみ)

└▶ 付問39-1 お酒を飲む日は1日あたり、清酒に換算してどれくらいの量※を飲みますか。 (Oは1つだけ)

1合(180ml) 未満 1

2 1合以上2合(360ml) 未満

2 合以上 3 合 (540ml) 未満

3 合以上 4 合 (720ml) 未満

5 4合以上5合(900ml)未満

6 5合 (900ml) 以上

※飲酒量の目安

清酒1合(180ml)は次の量にほぼ相当します。

お酒の種類	度数	お酒の量
ビール	5度	中瓶1本(500ml)
焼酎	25度	O. 6合 (110ml)
ワイン	14度	1/4本(180ml)
ウイスキー	43度	ダブル1杯(60ml)
缶チューハイ	7度	1缶 (350ml)

)

休養・こころの健康

問 40 ここ 1 か月間、1日の平均睡眠時間はどのくらいでしたか。(Oは<u>1つだけ</u>)

1 5時間未満

2 5時間以上6時間未満

3 6時間以上7時間未満

4 7時間以上8時間未満

5 8時間以上9時間未満

6 9時間以上

問 41 普段、よく眠ることはできますか。(〇は1つだけ)

1 ぐっすり眠れる

2 適度に眠れる

3 あまり眠れない

4 ほとんど眠れない

問 42 最近、どの程度ストレスを感じていますか。(〇は1つだけ)

+1 強く感じる

2 ある程度感じる

3 あまり感じない

4 まったく感じない

(問 42 で「1 強く感じる」と答えた方のみ)

→ 付問 42-1 ストレスの主な原因は何だと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1 職場・仕事

2 家庭・家族

3 友人・異性・同僚・上司などの関係

4 自分の将来

5 自分の健康・病気 6 金銭面

7 新型コロナウィルスによる行動制限や感染への不安など

8 その他(具体的に:

)

問 43 ストレスの対処法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 美味しいものを食べる
- 2 友人・家族などと電話や対面で会話をする(話を聞いてもらう)
- 3 友人・家族などとメールや LINE を使ってやりとりする
- 4 Twitter などのインターネット上で不特定多数に発信する
- 5 寝る
- 6 趣味など好きなことをする
- 7 お酒(アルコール類)を飲む
- 8 買い物をする
- 9 お風呂に入る
- 10 運動・スポーツをする
- 11 散歩をする
- 12 たばこを吸う
- 13 我慢して、時が経過するのを待つ
- 14 専門機関に相談する
- 15 その他(具体的に:

16 特にない

第3章 調査票

1 減った

問	44	あなたや周りの人のこころ	の健原	東や悩み	について	、相談	できる人	(家族や友人	、、専門家など)
	は	:いますか。(Oは <u>1つだけ</u>)							
	1	はい			2	いいえ	ζ		
問	45	あなたや周りの人のこころの (Oは <u>1つだけ</u>)	の健身	乗や悩み(こついて、	相談	できる機関	関を知ってい	きすか。
	1	はい			2	いいえ	ξ		
	つ	ながり							
問	46 味	現在働いていますか。また(の活動をしていますか。(〇			ィア活動、	地域社	社会活動	(町内会、地	域行事など)、趣
	1	働いている、何らかの活動	をし	ている	2	いずオ	1もしてい	いない	
問	47	お住まいの地域では、問題が (Oは <u>1つだけ</u>)	が生じ	た場合、	、人々は	力を合え	わせて解え	夬しようとし	<i>.</i> ますか。
	1	強くそう思う			2	どち	らかとい	えばそう思う	<u> </u>
	3	どちらとも思わない			4	どち	らかとい	えばそう思れ	つない
	5	全くそう思わない							
	新	型コロナウイルス原	惑染	症					
拡	大前	新型コロナウイルス感染拡 (令和元年)と現在を比べて 間食の回数(〇は <u>1 つだけ</u>)							コナウイルス感染
	1	 減った	2	増えた			3	変わらない	\
	 イ	食事のバランス(〇は <u>1つ</u> た	ごけ)						
	1	 気をつけるようになった		2	気をつけ	なくな	よった	3	変わらない
	<u>ウ</u>	お酒の量(Oは <u>1つだけ</u>)							
	1	減った	2	増えた			3	変わらない	1
	エ	身体活動・運動の機会(〇〇	t <u>10</u>	<u>だけ</u>)					
	1	減った	2	増えた			3	変わらない	·
	オ	体重(〇は1つだけ)							

3 変わらない

2 増えた

カ	ı	垂眠の状況(○は <u>1つだけ</u>)						
	1	眠れなくなった	2	眠れるよう	うにた	いった	3	変わらない
キ		こころの健康(Oは <u>1つだけ</u>)						
	1	気持ちが落ち込むようになった		2 気持ち	が落っ	ち込まなくなっ	<i>t</i> = 3	変わらない
ク	1	建(検)診の受診状況(〇は <u>1つ</u>	だけ)				
	1	受診を控えるよ う になった	2	同様に受詞	多した	: 3以	以前から受	診していない
ケ	- ,	人との交流(〇は <u>1つだけ</u>)						
	1		2	以前より均	曽えた	こ(オンライン)	ツールの活	
	3	変わらない						
	ĺ	「ア」~「ケ」以外で、健康に関	1 T	変化があっ	<i>t-</i> . -	とがあれば 記	コストでくか	ドナい
		・ノ」・・ノ」が作り、庭塚に関		交旧がの う	<i>1</i> _ C	C 13 '05/4 CT & C BL	.XOC \ 1	
L								
ī	†∕	への要望						
問 4		健康づくり推進において今後、市	に特	に力をいれ	てほ	しい取組は何て	ごすか 。	
Г		゙゙ゟてはまるもの <u>すべてに○</u>)						
	1	健康診断や各種検診			2	健康相談		
	3	健康情報の発信		» -	4	健康イベント		
	5	スマートフォンアプリなどを活用した個	建康つ	びくりの取組	6	栄養・食生活の		
	7	運動の普及啓発			8	こころの健康対		
	9	たばこ・受動喫煙防止対策			10	アルコール対象		
	11	歯と口の健康対策			12	生活習慣病予防	方対策	
	13	がん対策			14	感染症対策		
	15	熱中症対策			16	子育て世代、	子どもの健	康対策
	17	働き盛り世代の健康対策			18	高齢者の健康対	対策	
	19	市民の自主的な健康づくり活動の	の支	援	20	地域での健康で	づくり活動	の支援
	21	健康づくりの活動ができる環境			22	その他(具体的	וכ)

23 特になし

	あ	なたご自	身に	ついて								
F	1	性別(Oは <u>1</u>	つだけ゛)								
	1	<u> </u>	<u> </u>		2 女性			3	 答え <i>†</i>	こくなし	١	
F	2	年齢(Oは <u>1</u>	<u>つだけ</u>))								
	1		2	777			-				40~44 歳	
	6	45~49 歳	7				-	60~	64 歳	10	65~69 歳	
	11	70~74 歳	12	75~79 歳	13	80 歳以上	<u> </u>					
F	3	主な職業(C)は <u>1つ</u> ;	<u>だけ</u>)								
	1	自営業主			2 家族	従業(家業	手伝い)	3	務め	(全日)		
	4	務め(パー	-トタイ』	ム)	5 内職			6	主婦·	主夫	(家事専業))
	7	学生		8	3 無職	(年金生活	者を含む)	9	その他	<u>ቱ</u> ()
_	4	to フェアルフ	' /++ 羊 !		7 \ /a =	5月100(八)	+10+14	. \				
F	4 1	加入している 市の国民健		こ人つ(い	る) 健原	t保険(UI	ユ <u>ーンたけ</u>)				
	2	被用者保険		員わ公務員 』	- その安	佐が加えする	ス健康保険	细合	拉合什	ムノコデ 土	土済組合か	(ئىل
	3	後期高齢者			_ (0) 36)	大刀・カロノくす。	0 胜冰 怀快	л ц	IIII A 17	7016	くとを	_ /
	4			^)
		C 37 12 (,
F	5	現在お住まし	い の区(○は <u>1つだ</u>	<u>け</u>)							
	1	川崎区		2 幸区		3	中原区		4	高津	区	
	5	宮前区		6 多摩	区	7	麻生区					
F	6	同居家族につ)))T (つけょつだ	(+)							
'	1	同居してい				<u> </u>	2 同月	 早の家	: :族がい			:
	<u>'</u>	同冶して	・る多族!	40.40.	・八合と		[Z I ¹]/	百の多	· 水 / / · · ·	<u>~</u>	<u></u>	!
(F 6	で「2 同居	の家族	がいる」と	答えたフ	ちのみ)						
→	F 6	− 1 同居 <i>0</i> .	家族全	員の年齢区	分を次の	Dア~エか i	ら選び() 7	内に人数	を記入	して下さい	,۱,
		(本人	除く)									
	1	. 0~5 歳	(人)		-	6~18歳		(人)		
	ゥ	. 19~64 歳	(人)		工.	65 歳以上	•	(人)		
F	7	川崎市の健康	まづく ロ.	と 会 会 性 准	I-01.7	ァ ご辛目と	であはが	ᅕᆡᆂ	: 1 +- i:	目体的	<i>カ</i> ≀ー 言 コ ス	T /
'		がい。	() ()	で及り推進	12 20.0	こ、こ志元(で安主が	א ליכנט	. 0125	、 六 件"	がこ品人の	
		調査は終了て		カーセロギ	د د <u>-</u> د ا	ビハナ ↓ ↓ _	0 日 20	- (ルハ エ	ブ ニー	北瓜西 ノ よきっ	٠,,

- 174 -

令和4年度 川崎市健康及び食育意識実態調査 報告書 令和5年3月

発行:川崎市 健康福祉局 保健医療政策部 健康増進担当 川崎市川崎区宮本町1番地 電話 044-200-2411